

教職員のメンタルヘルスに関する調査結果（案）※

1. 学校用アンケート結果	1
(1) 単純集計結果	
1. 校長	1
2. 副校長・教頭	11
3. 教諭等	18
4. 事務職員等	27
(2) クロス分析・多変量解析結果	
1. 校長	35
2. 副校長・教頭	39
3. 教諭等	44
4. 事務職員等	67
2. 都道府県・指定都市教育委員会用アンケート結果	73

平成 25 年 1 月 三菱総合研究所

※本資料は、教職員メンタルヘルス対策検討会議検討資料として、暫定的に集計したものであり、本会議の検討を経て本年度中に最終的にとりまとめる。

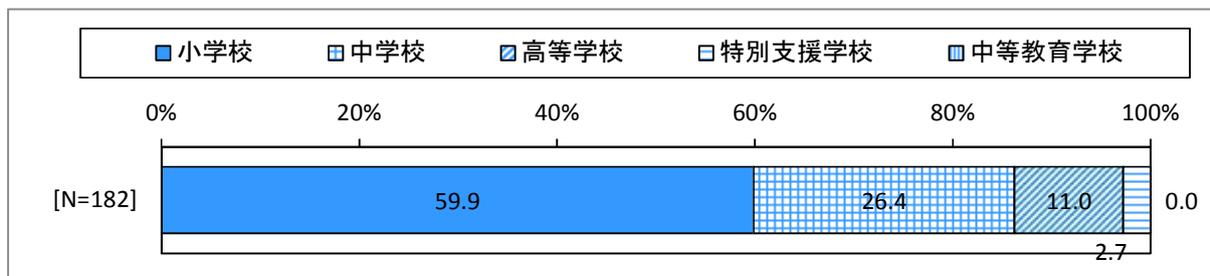
1. 学校用アンケート結果

(1) 単純集計結果

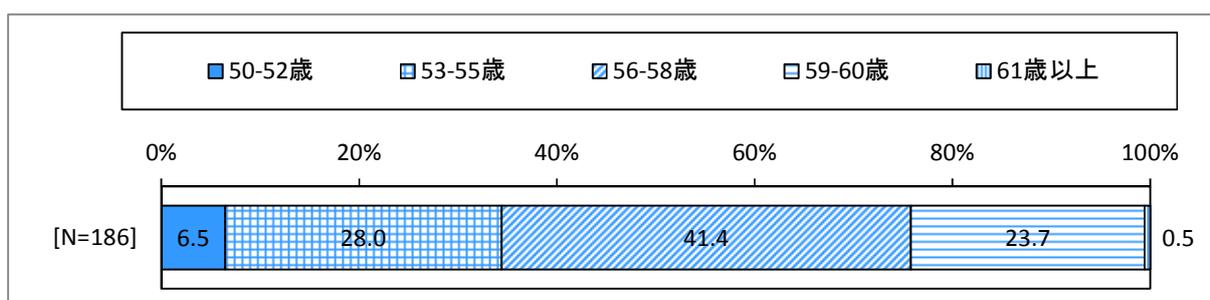
1. 校長

0. 現在の状況

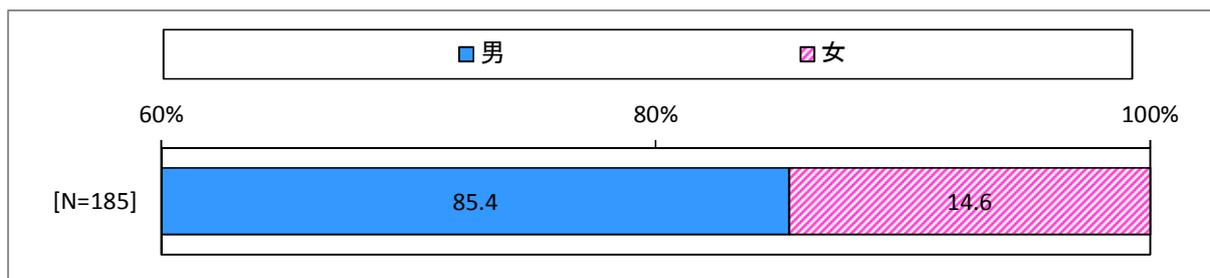
(1) 学校種



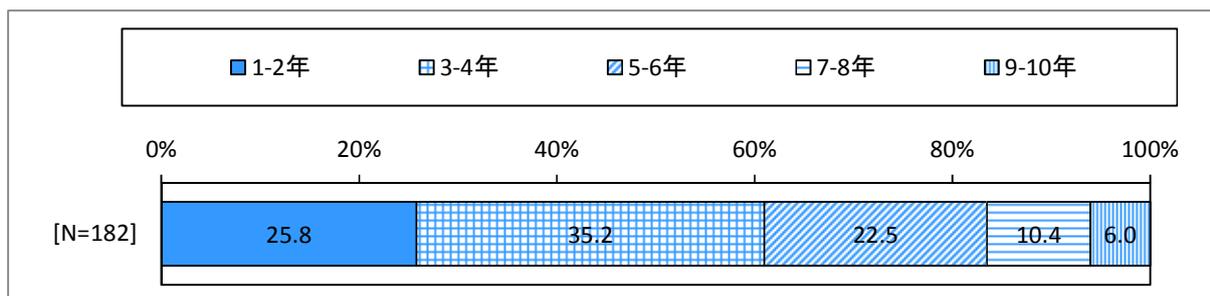
(2) 年齢



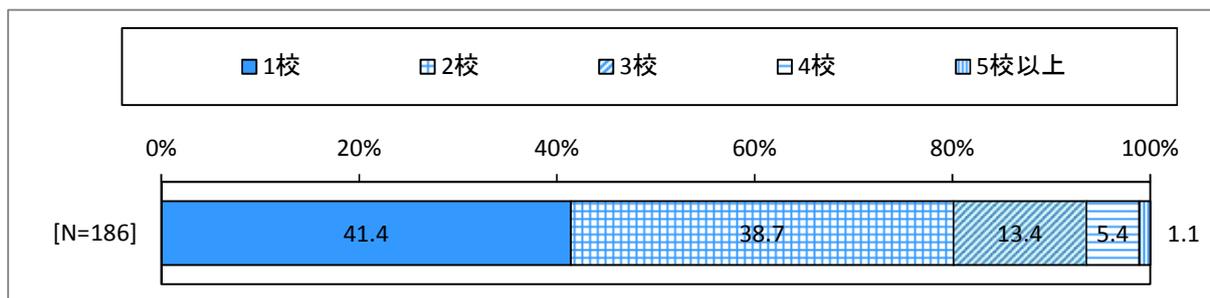
(3) 性別



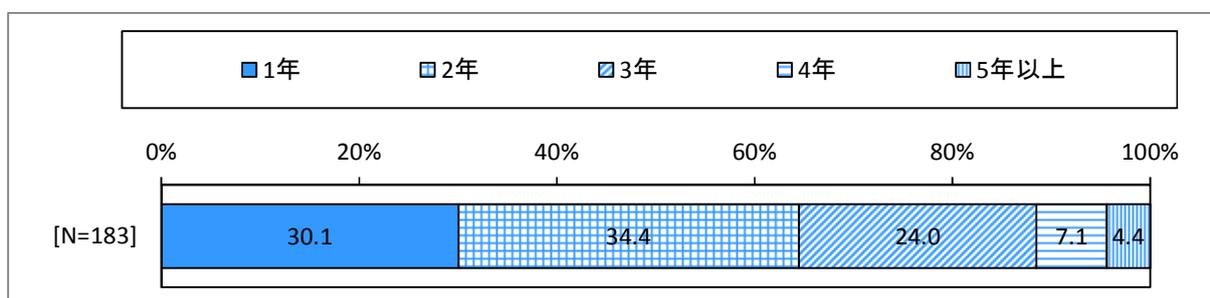
(4) 校長昇任後の経験年数



(5) 校長昇任後の勤務校数

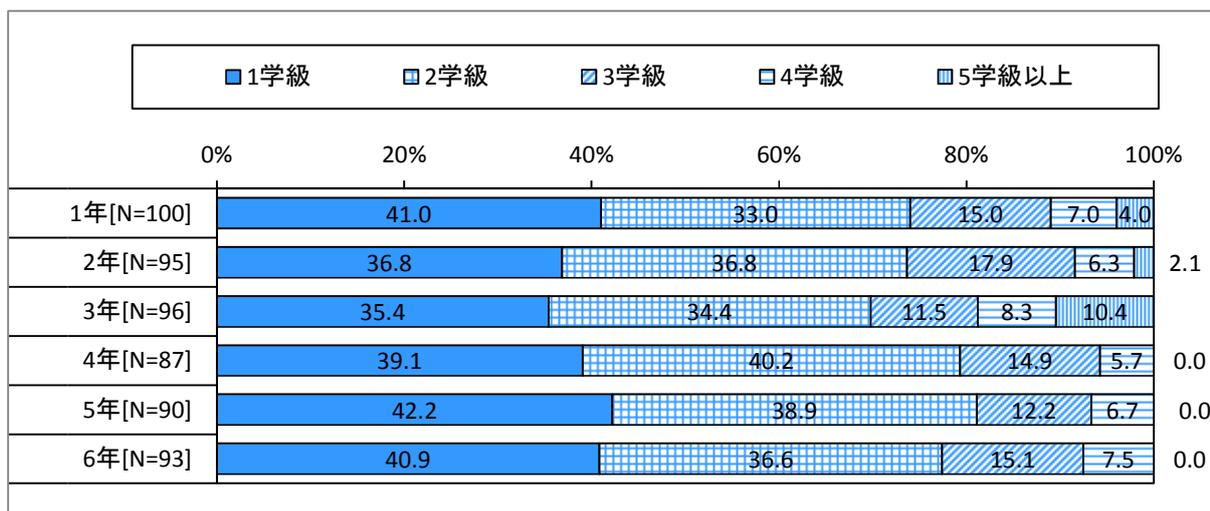


(6) 現任校への在籍年数

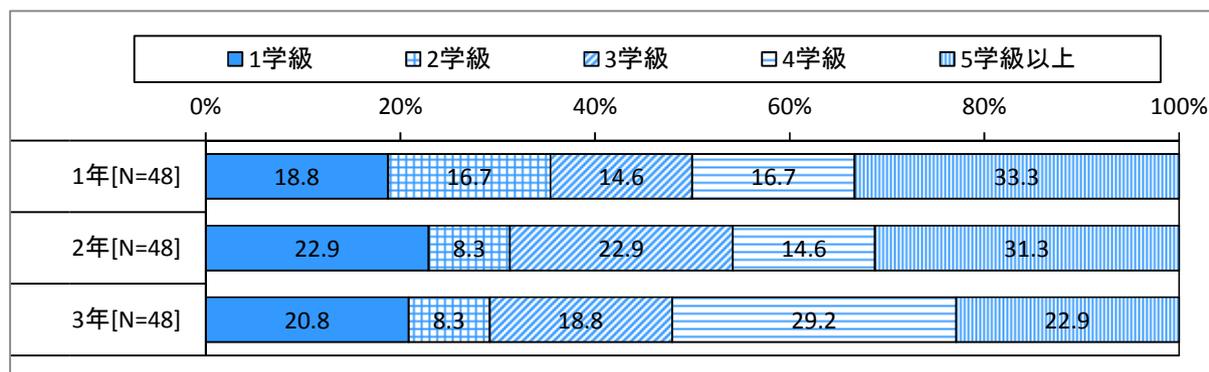


(7) 学年ごとの学級数

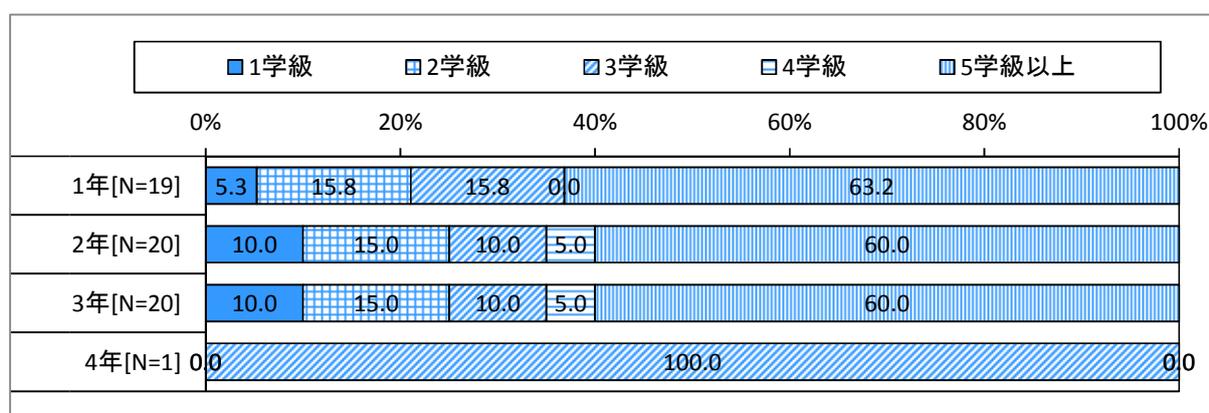
① 小学校



②中学校

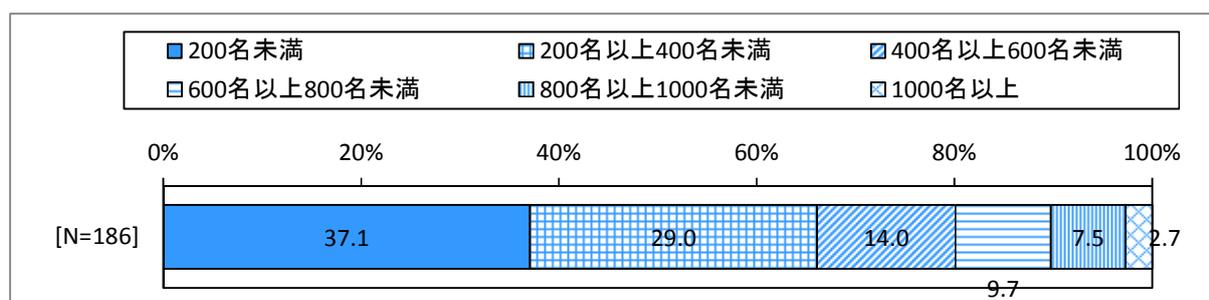


③高等学校

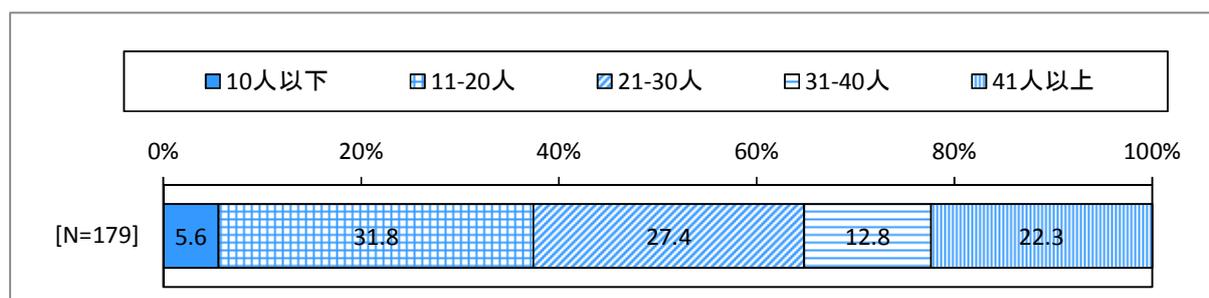


(8) 学校の規模

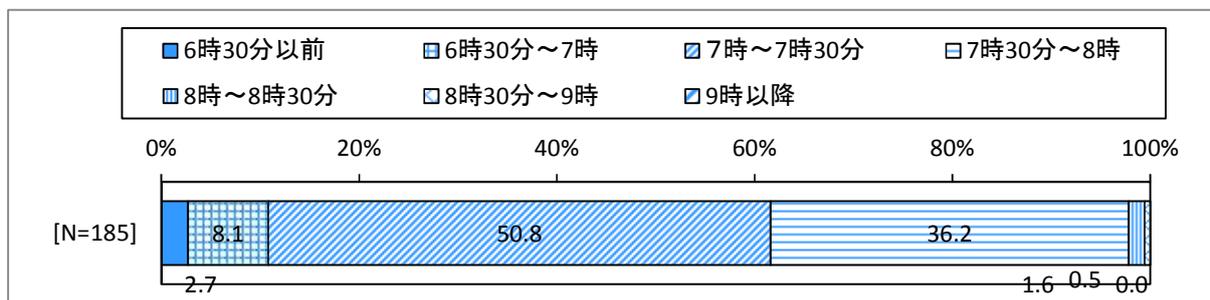
①生徒数



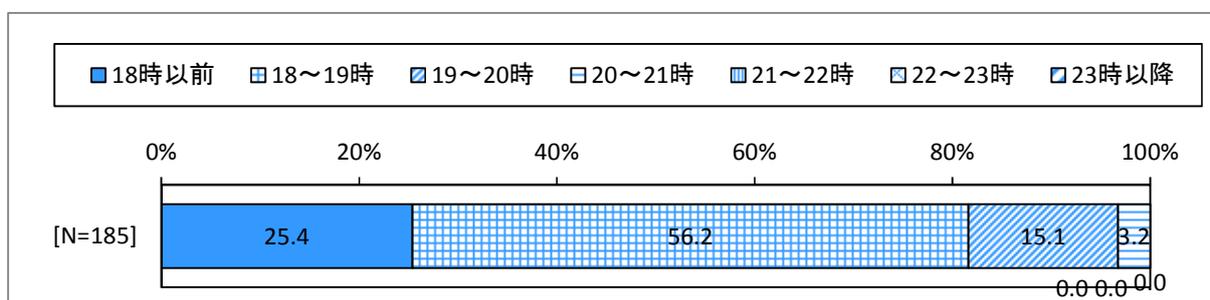
②職員数



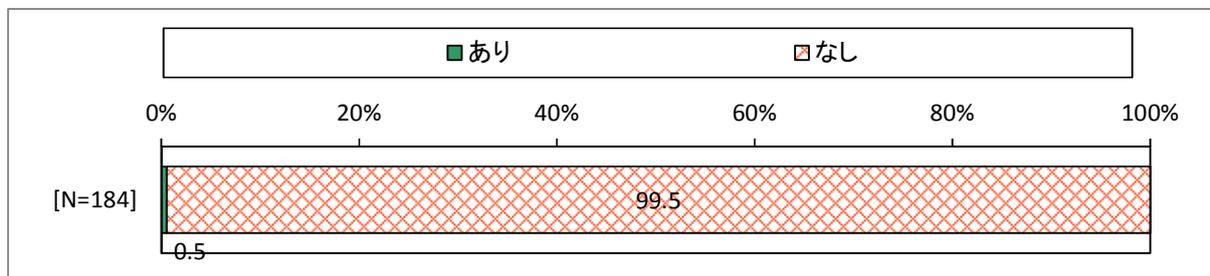
(9) 1ヶ月の平均入校時間



(10) 1ヶ月の平均退校時間

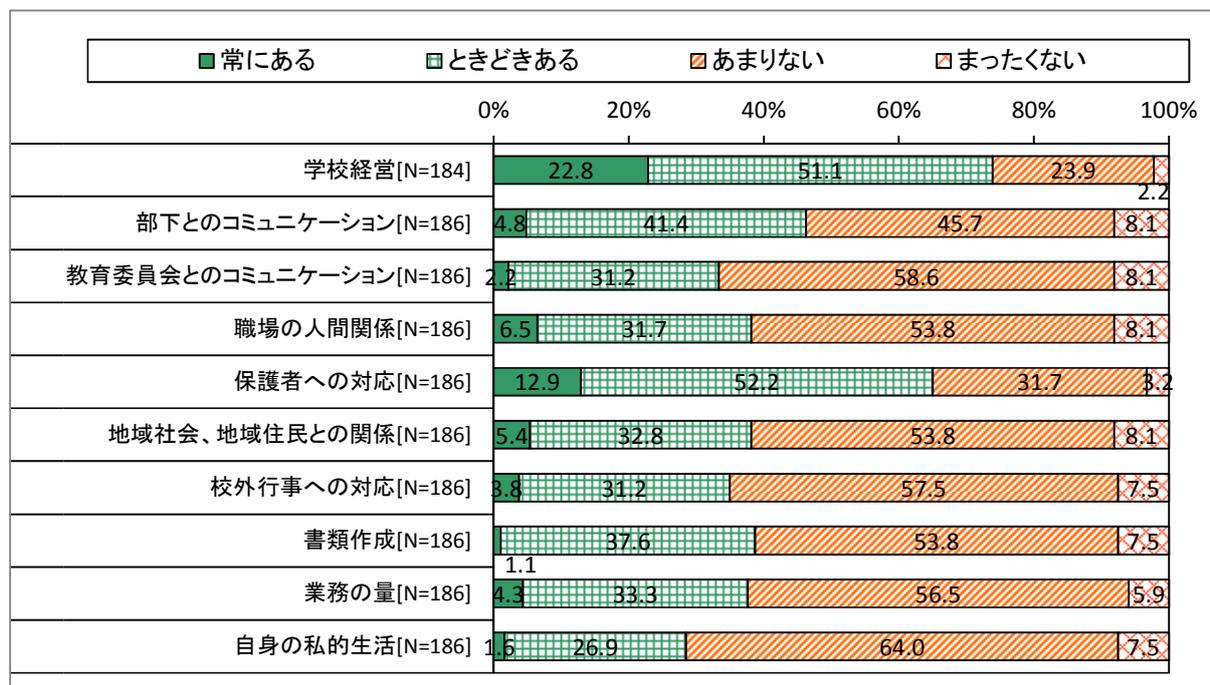


(11) 精神疾患を理由とした病氣休職経験の有無

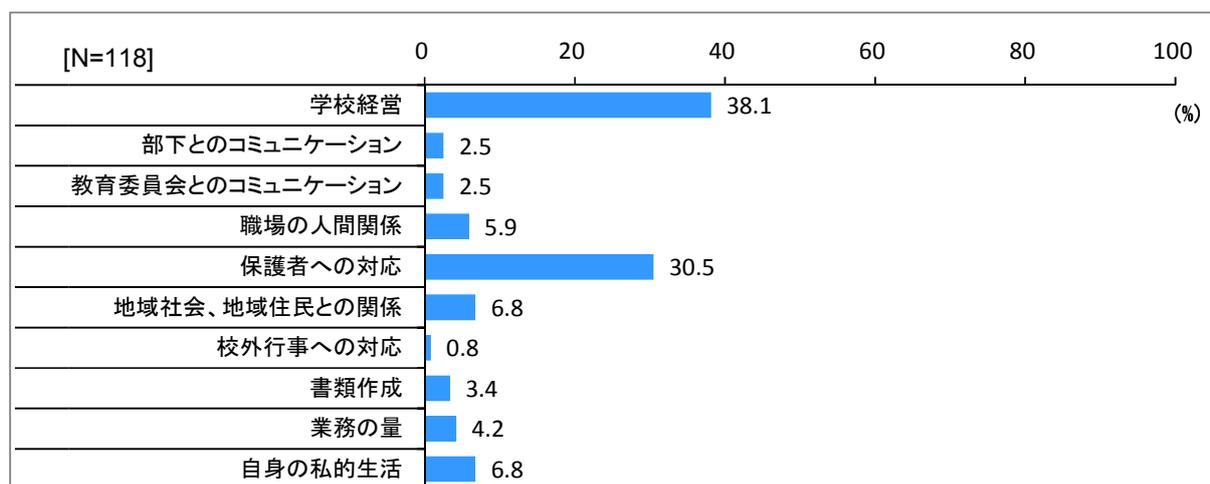


1. ストレスの状況について

1-1. 以下の項目それぞれにおいて強いストレス(不安、悩み含む)がありますか。当てはまる番号を1つずつ選んでください

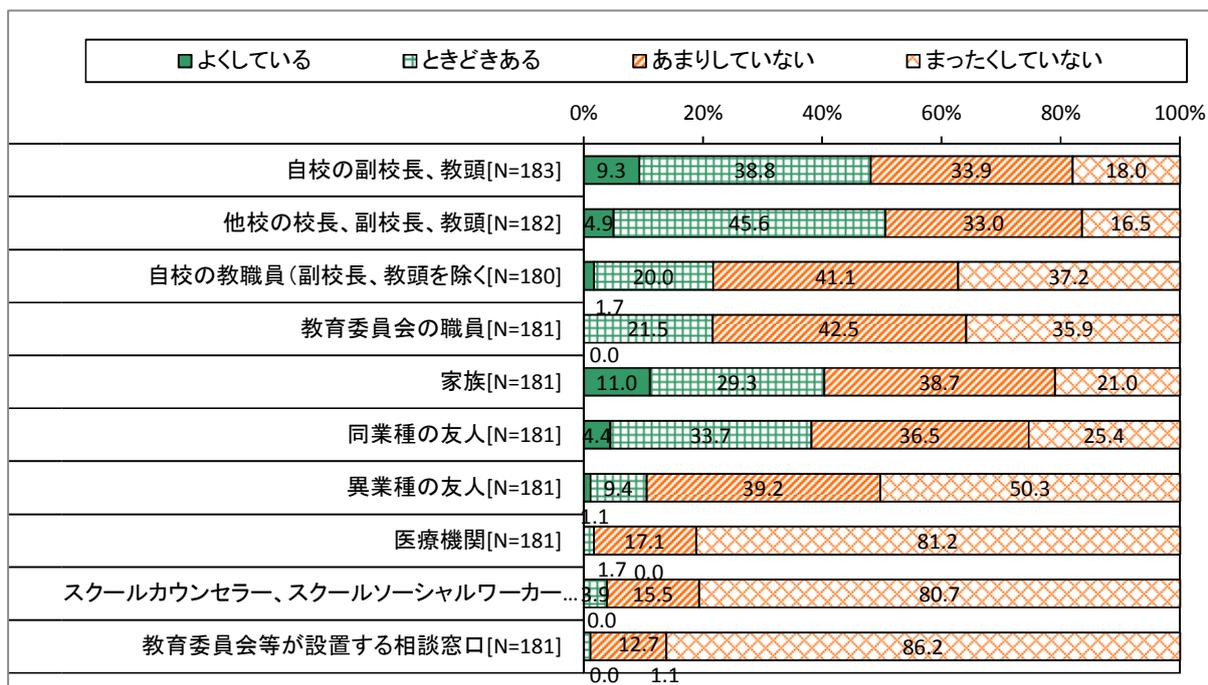


1-2. また、下記(ア)～(キ)のうち、今一番ストレスを感じることに○を付けてください。

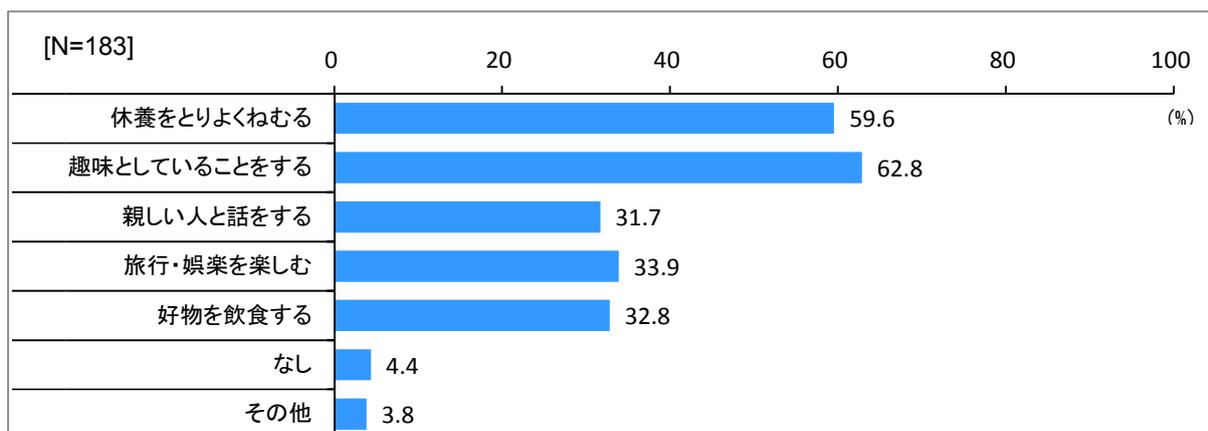


2. ストレスの軽減方法について

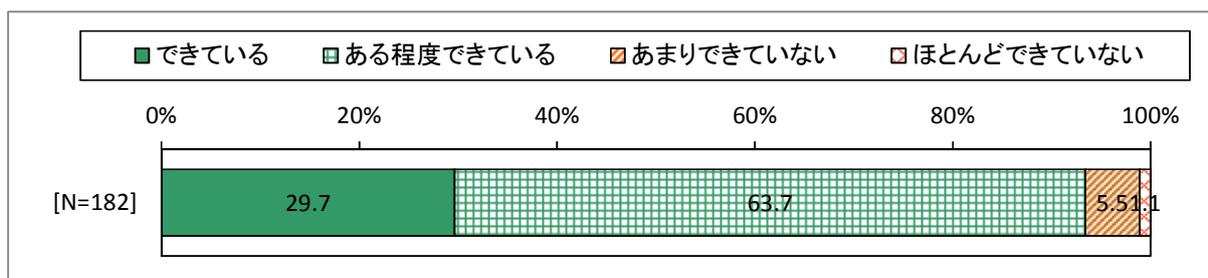
2-1. 以下の人にストレス(不安、悩み含む)を相談していますか。



2-2. ストレス(不安、悩み含む)を解消するために、主にどのようなことを行っていますか

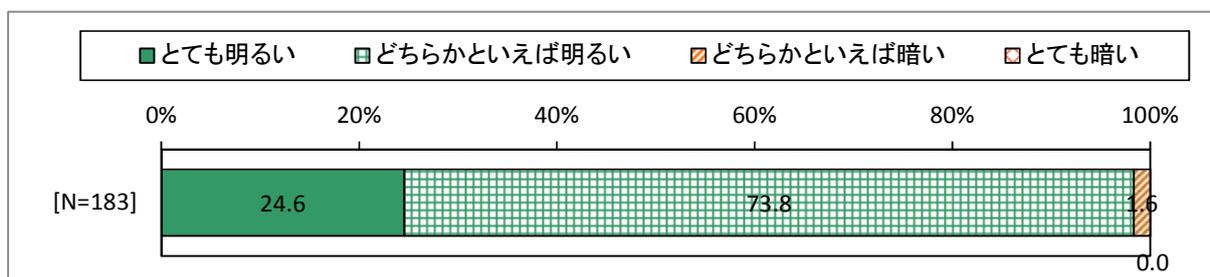


2-3. ストレス(不安、悩み含む)は、自分なりの解消方法を行うことで解消できていますか

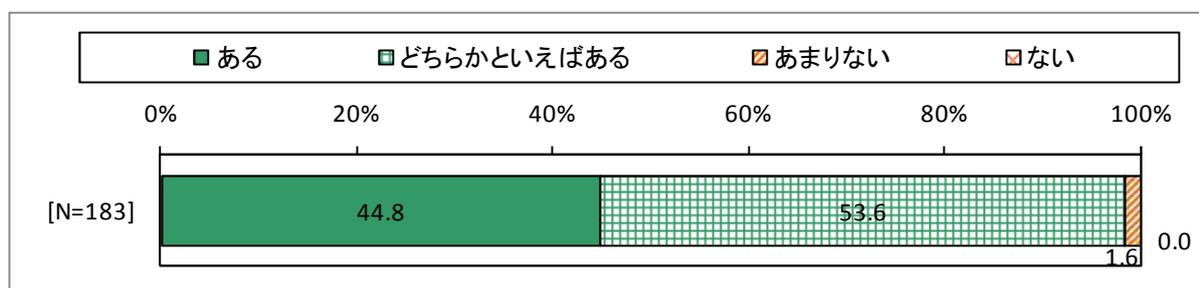


3. 職場の雰囲気について

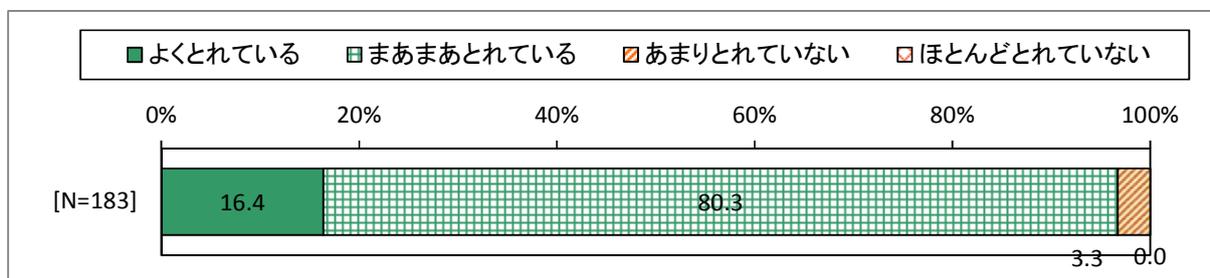
3-1. 職場内の雰囲気はどうか



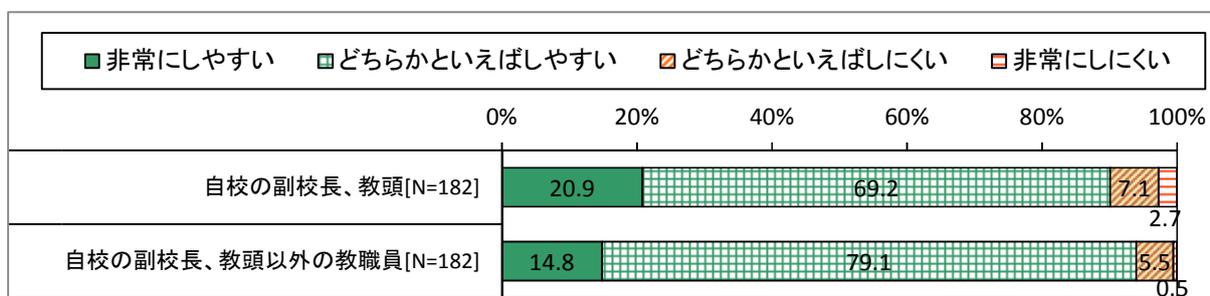
3-2. 教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気がありますか



3-3. 職場におけるコミュニケーションの状況はどうか

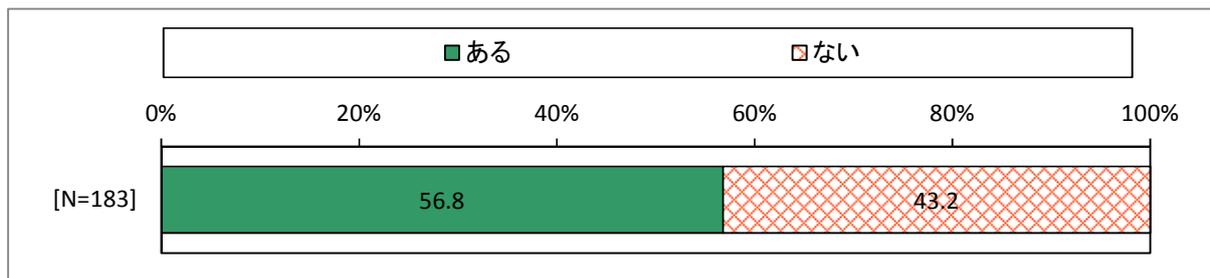


3-4. 次の人に仕事上のストレス(不安、悩み含む)について、相談しやすいですか

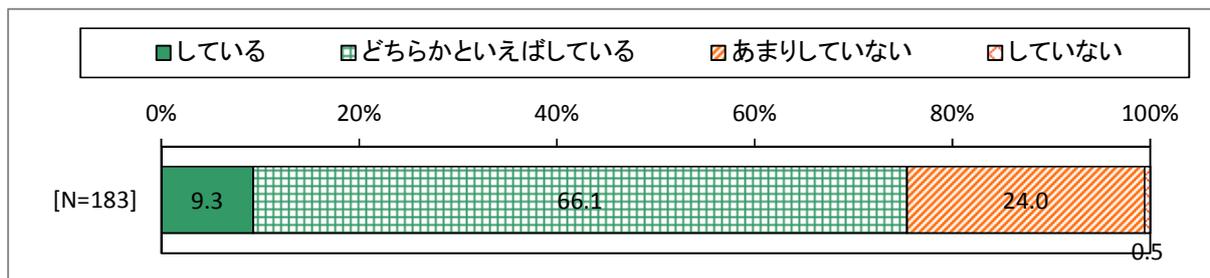


4. 職場の雰囲気づくりに関する取組について

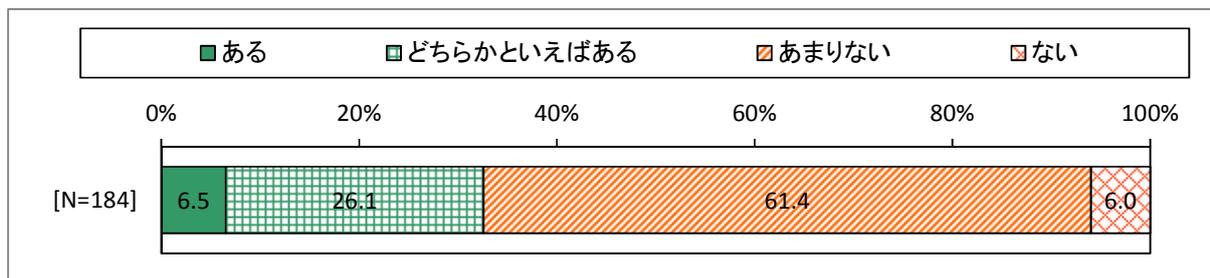
4-1. 定時退校日や部活動休養日などの設定がありますか



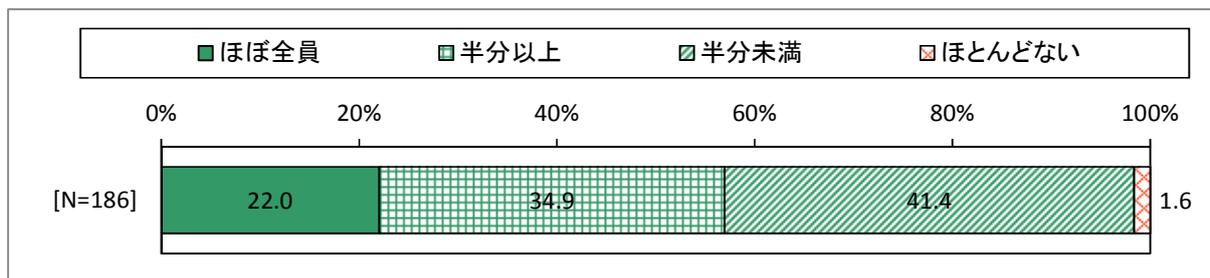
4-2. 自校の教職員のストレスの状況を把握していますか。



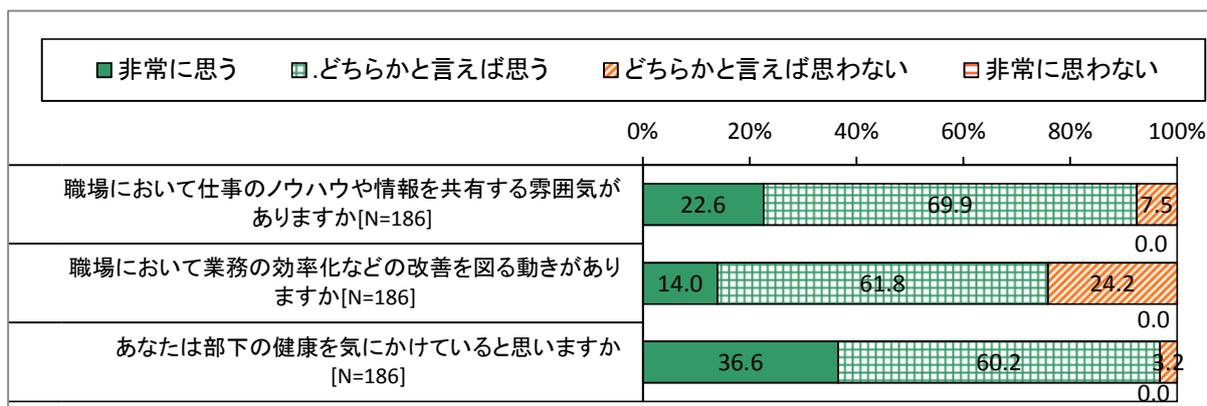
4-4. 職場を離れて教職員とのコミュニケーションを図ることはありますか。



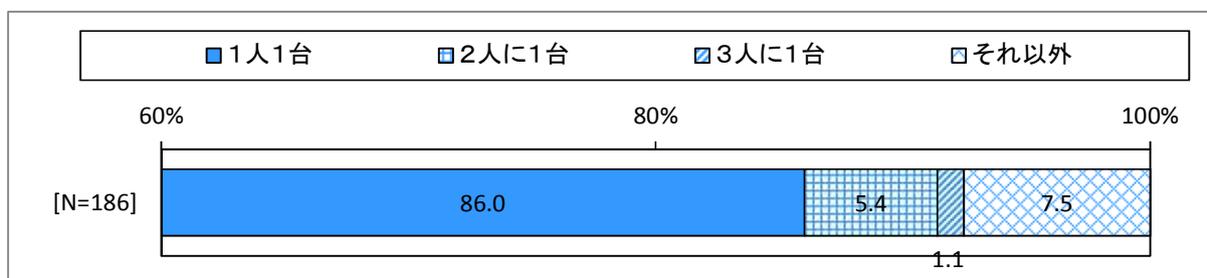
4-6. 1日あたりどのくらいの部下と会って話をしますか。



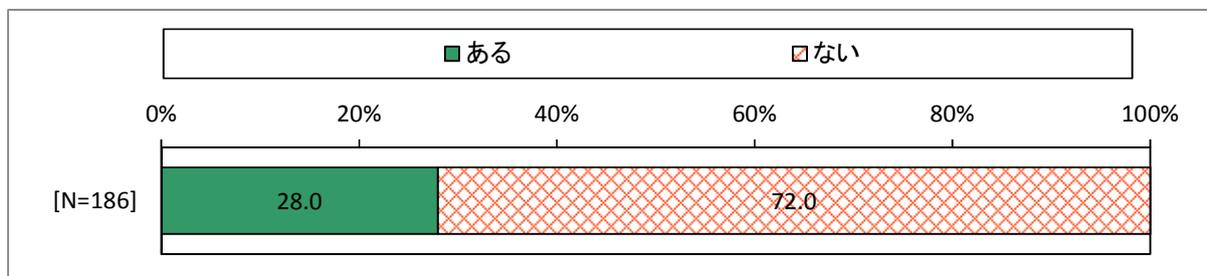
4-7. 以下の項目について、当てはまる番号を1つずつ選んでください。



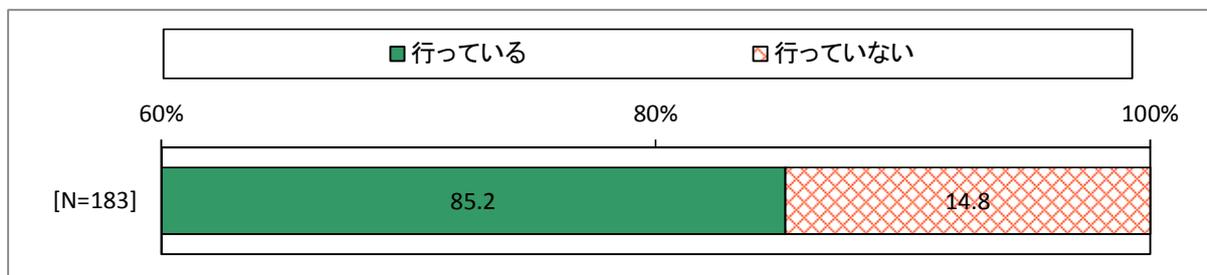
4-9. パソコンは職員にどの程度配備されていますか。



4-10. 現任校で、部下職員が精神疾患を理由として、休職又は休暇したことがありますか。

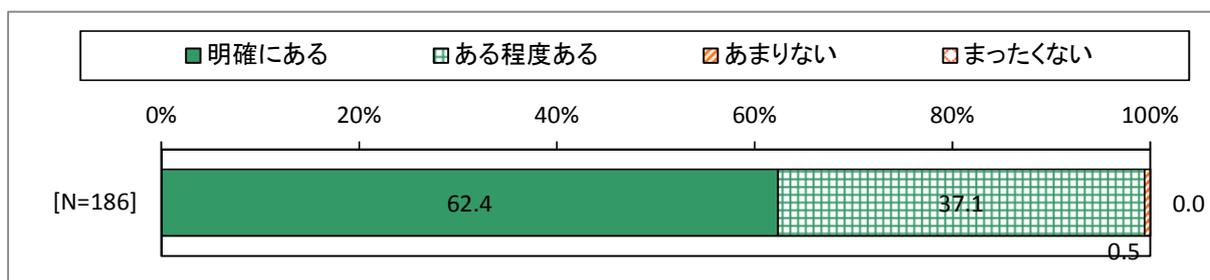


4-13. 新規採用職員や異動で転入してきた職員がスムーズに学校へ適応するため配慮等を行っていますか。



5. その他

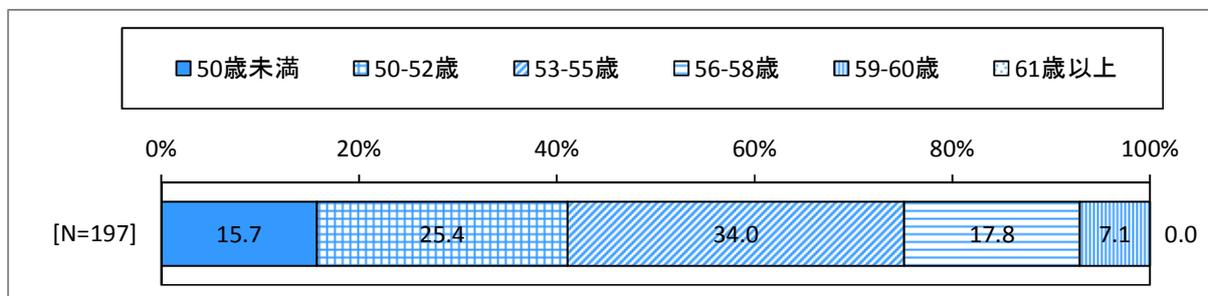
5-1. あなたは、教職員としての理想像を持っていますか。



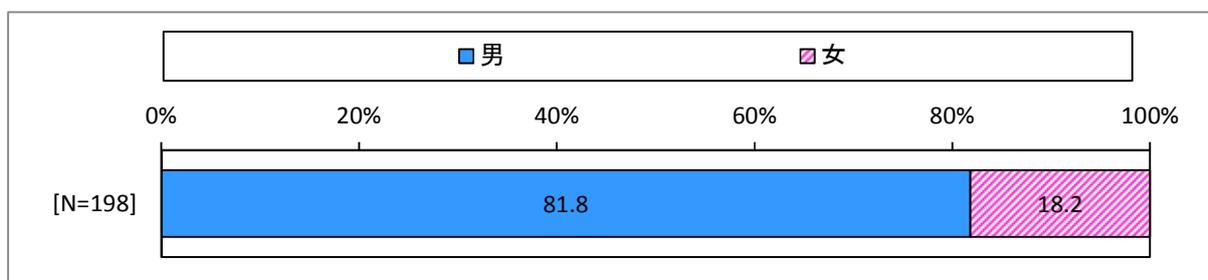
2. 副校長・教頭

0. 現在の状況

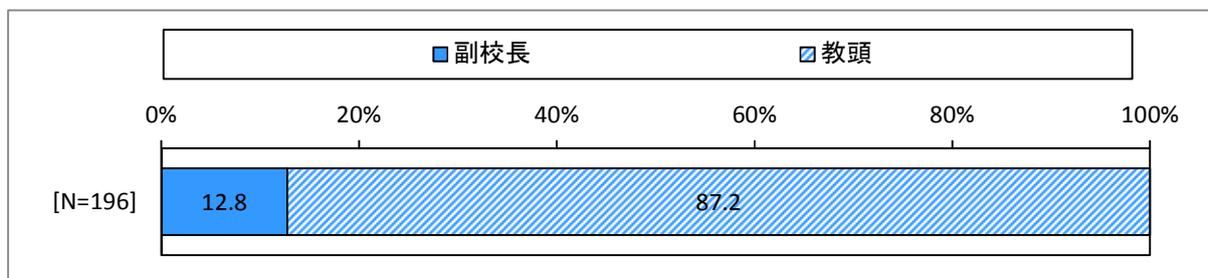
(1) 年齢



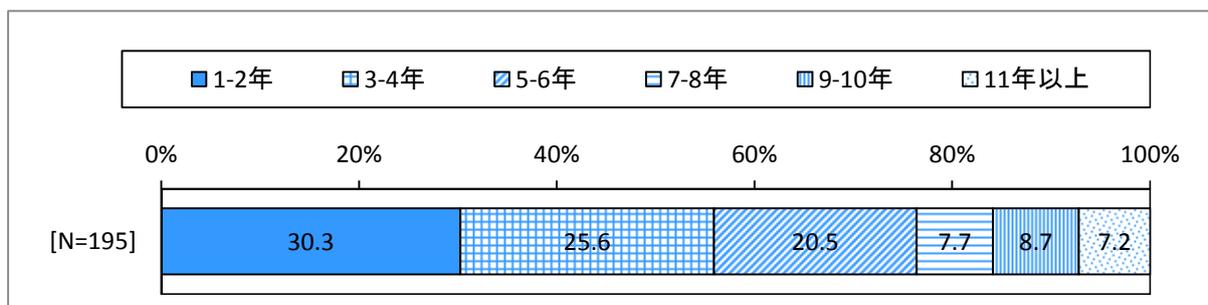
(2) 性別



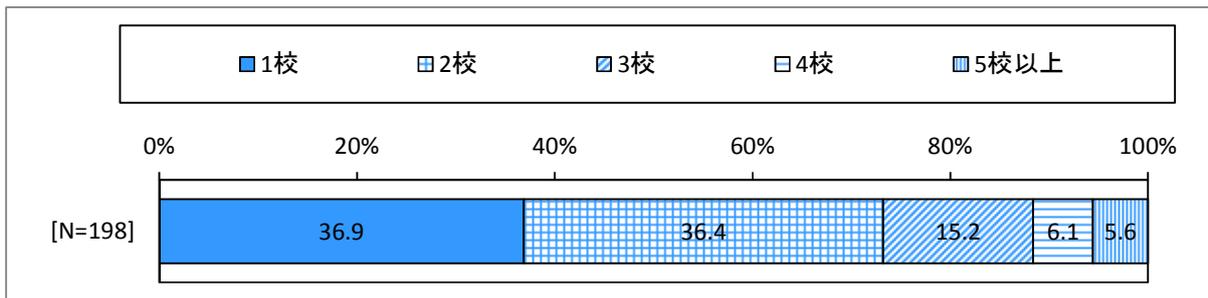
(3) 現職(副校長、教頭の別)



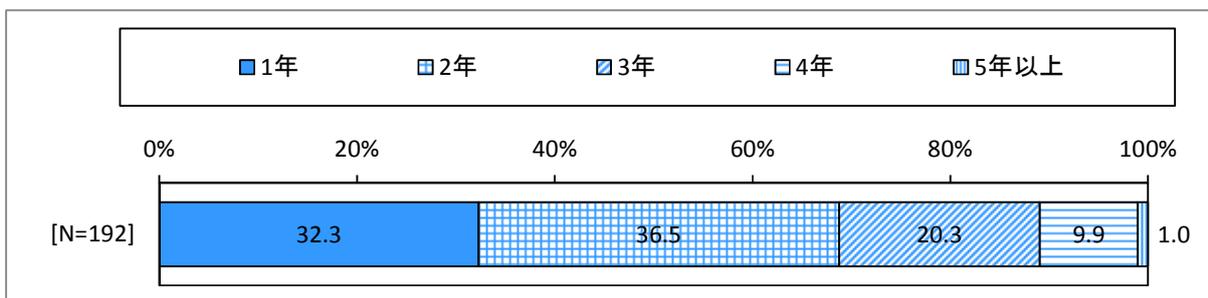
(4) 副校長・教頭昇任後の経験年数



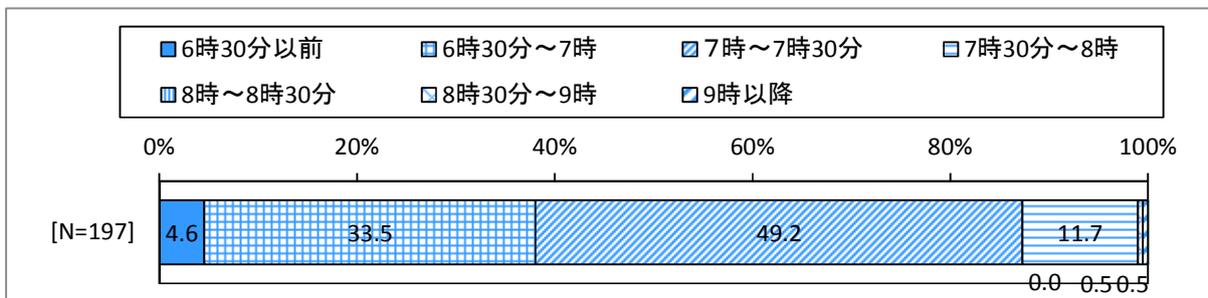
(5) 副校長・教頭昇任後の勤務校数



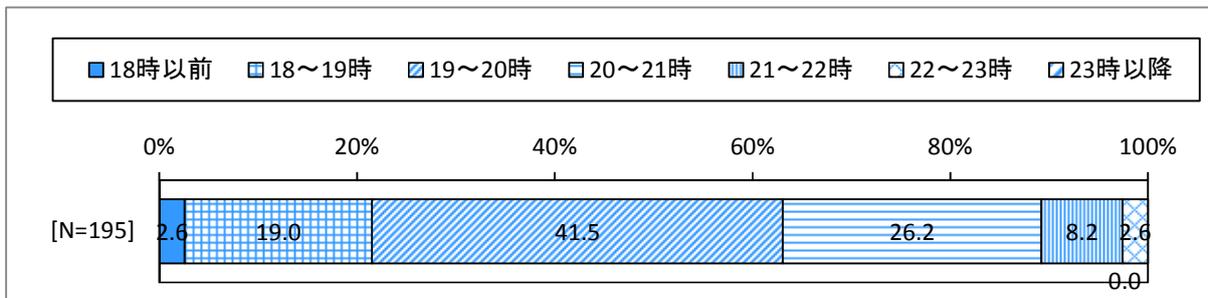
(6) 現任校への在籍年数



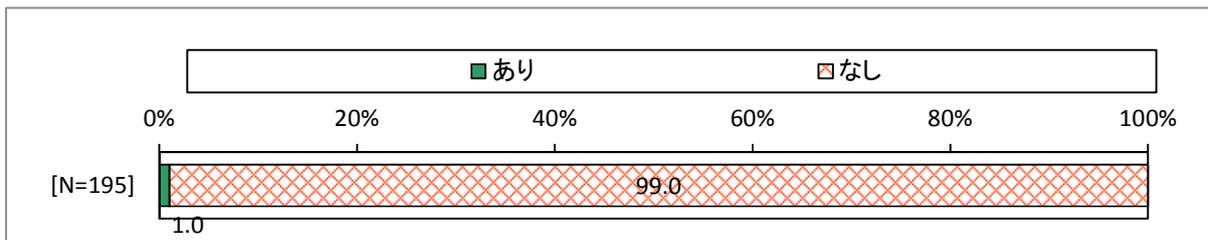
(7) 1ヶ月の平均入校時間



(8) 1ヶ月の平均退校時間

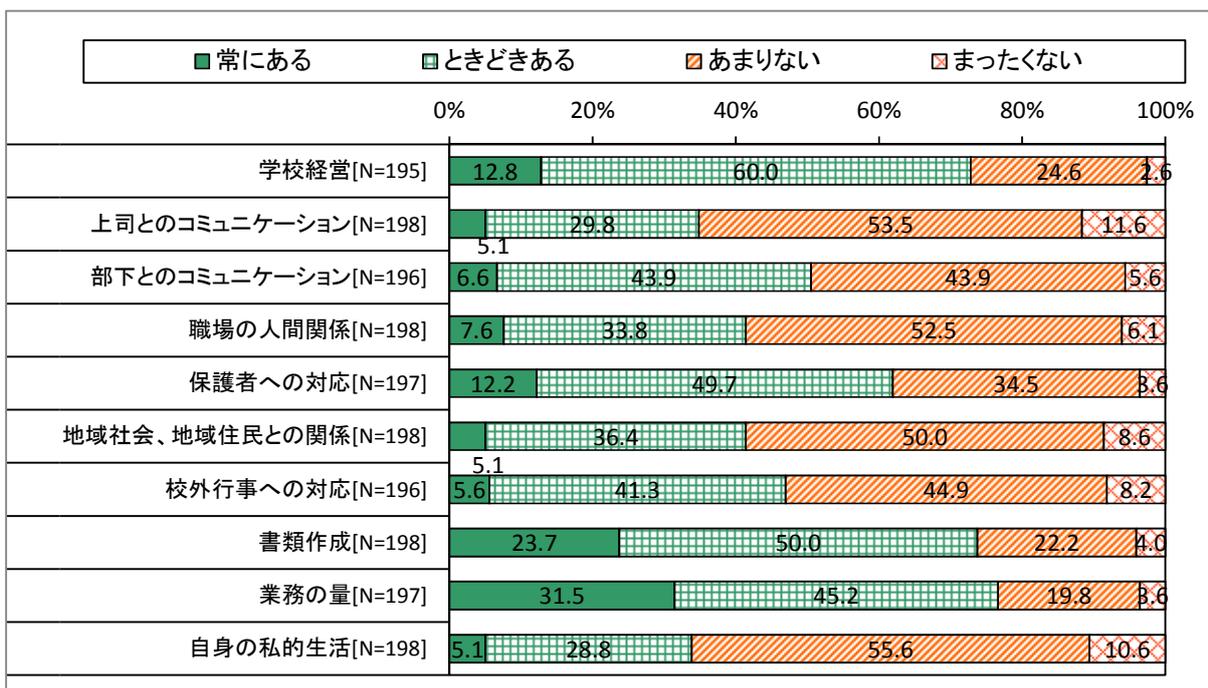


(9) 精神疾患を理由とした病気休職経験の有無

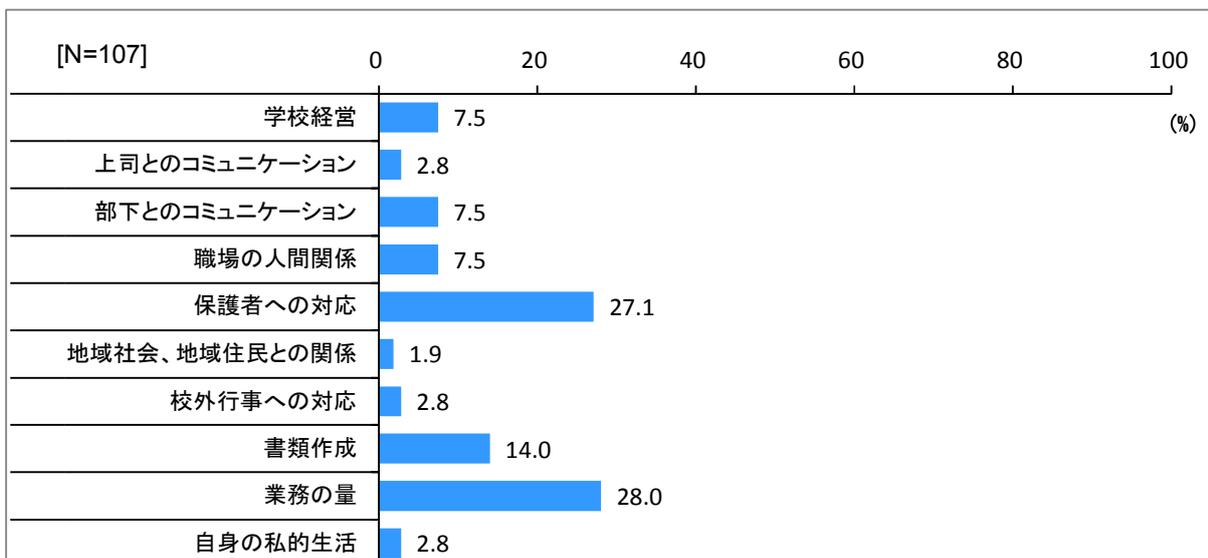


1. ストレスの状況について

1-1. 以下の項目それぞれにおいて強いストレス(不安、悩み含む)がありますか。当てはまる番号を1つずつ選んでください

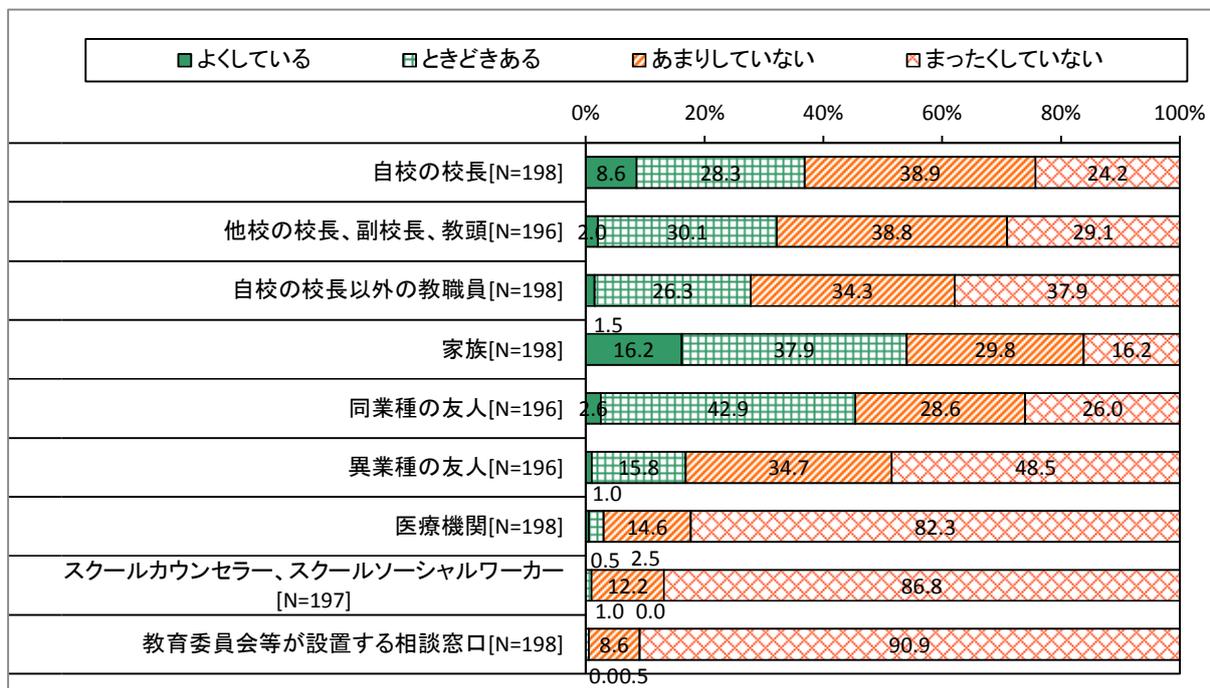


1-2. また、下記(ア)～(キ)のうち、今一番ストレスを感じることに○を付けてください。

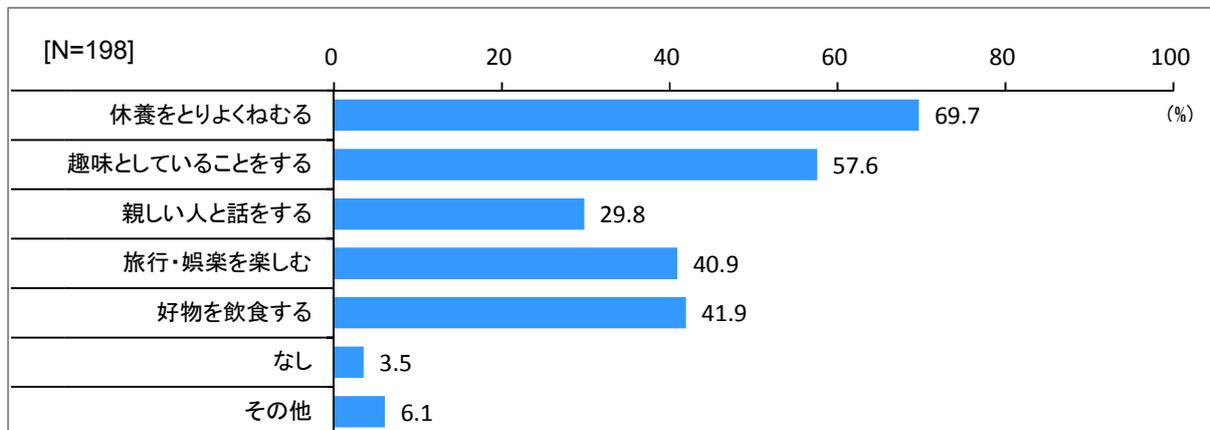


2. ストレスの軽減方法について

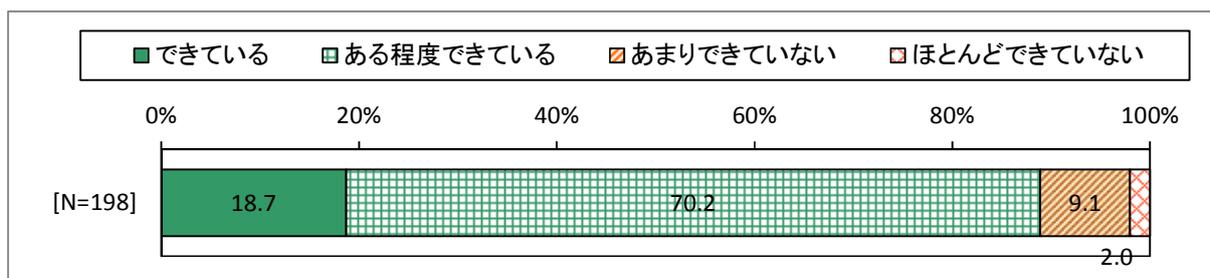
2-1. 以下の人にストレス(不安、悩み含む)を相談していますか。



2-2. ストレス(不安、悩み含む)を解消するために、主にどのようなことを行っていますか

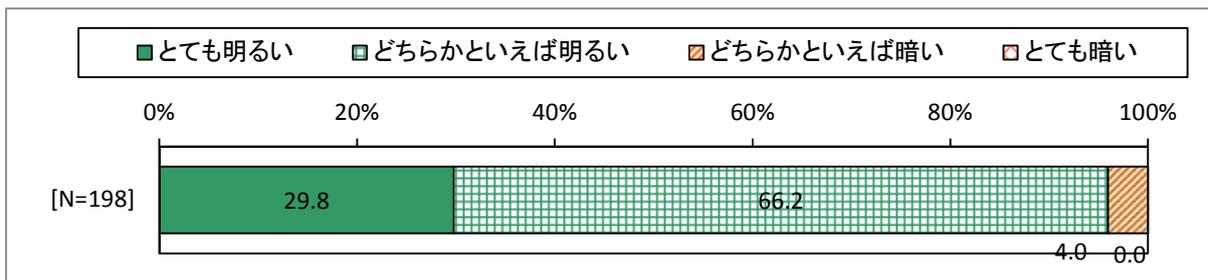


2-3. ストレス(不安、悩み含む)は、自分なりの解消方法を行うことで解消できていますか

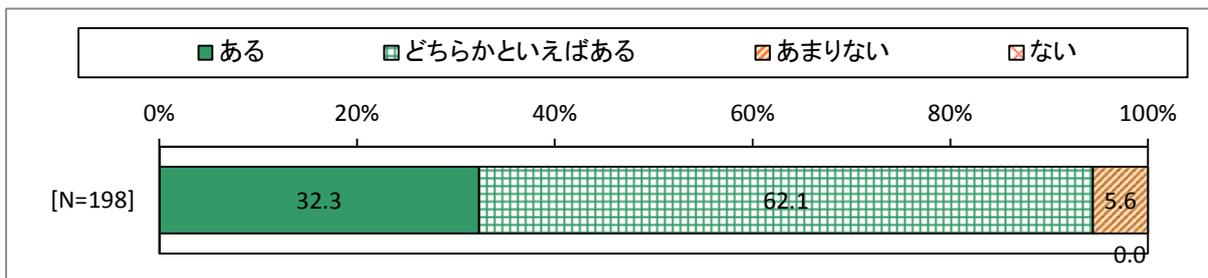


3. 職場の雰囲気について

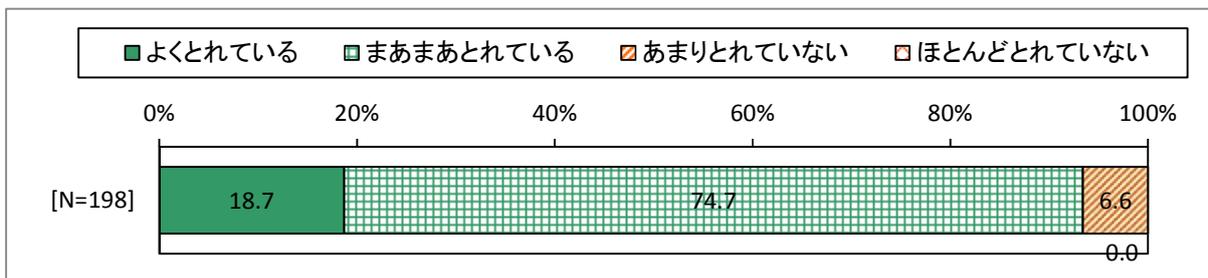
3-1. 職場内の雰囲気はどうか



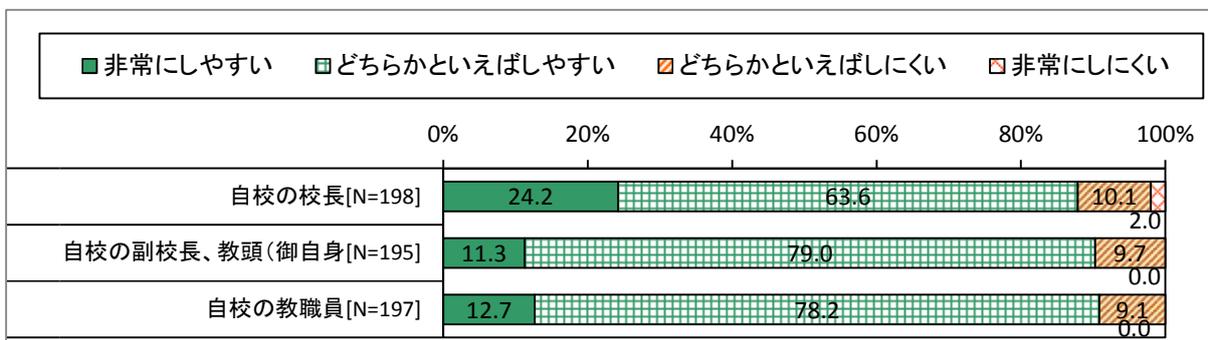
3-2. 教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気がありますか



3-3. 職場におけるコミュニケーションの状況はどうか

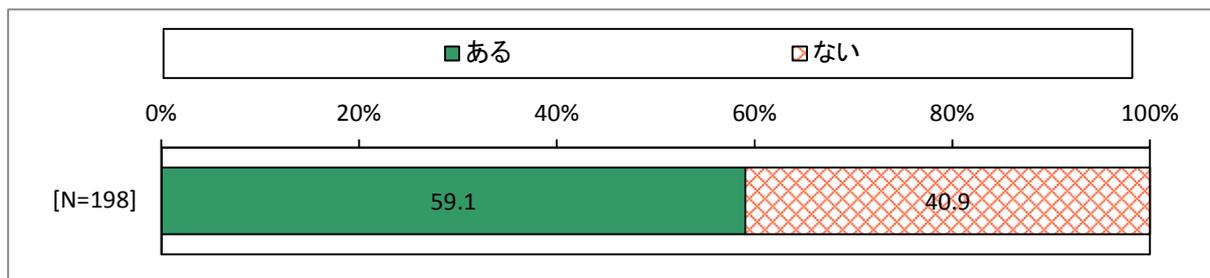


3-4. 次の人に仕事上のストレス(不安、悩み含む)について、相談しやすいですか

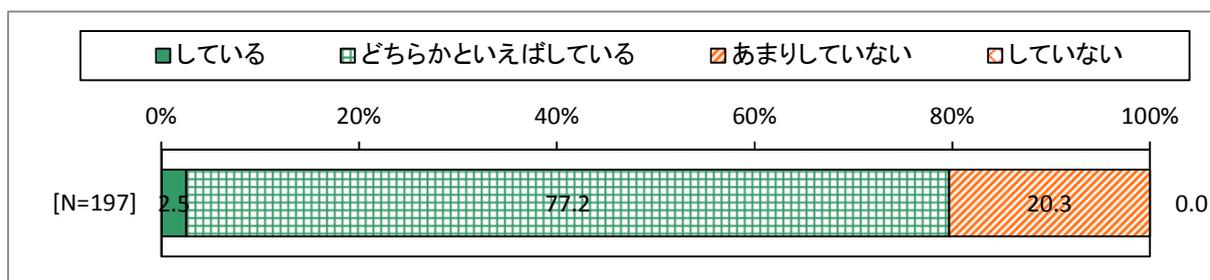


4. 職場の雰囲気づくりに関する取組について

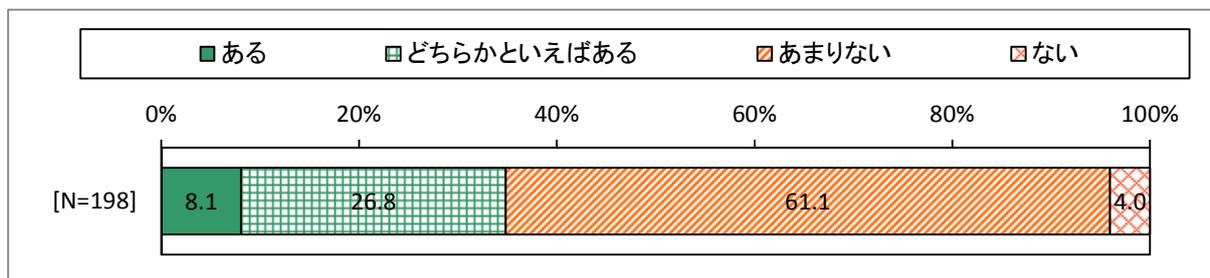
4-1. 定時退校日や部活動休養日などの設定がありますか



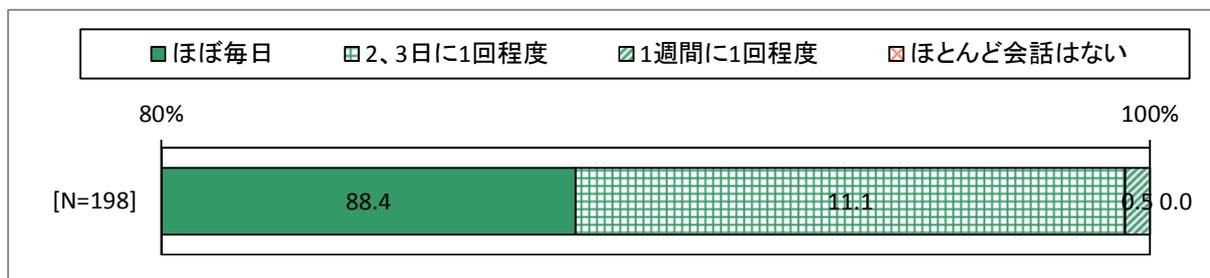
4-2. 自校の教職員のストレスの状況を把握していますか。



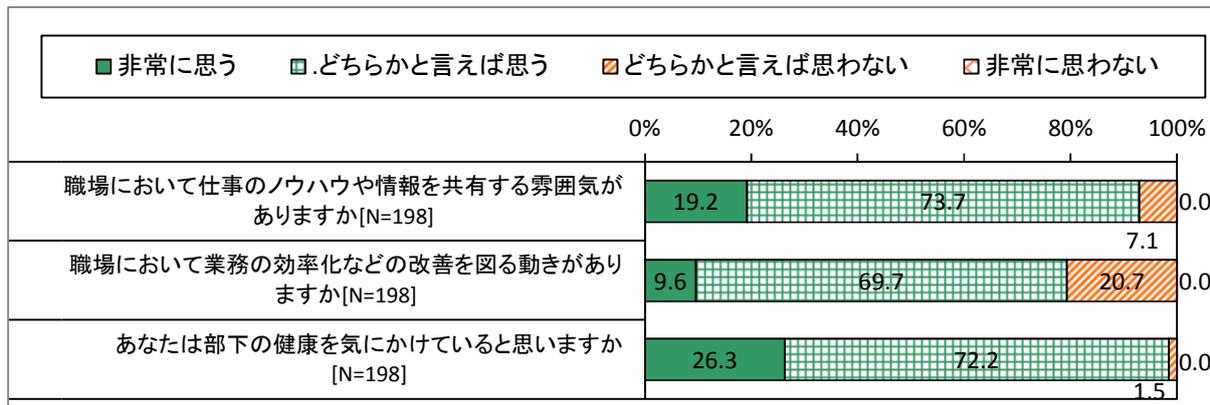
4-3. 職場を離れて教職員とのコミュニケーションを図ることはありますか。



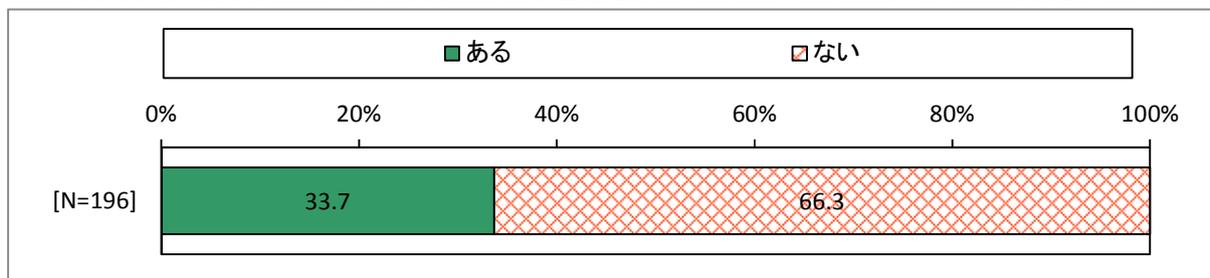
4-4. 部下と日頃どのくらい会話をしますか。



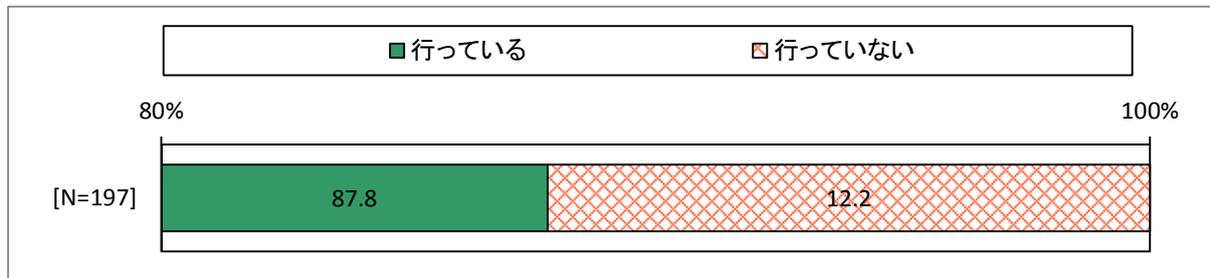
4-5. 以下の項目について、当てはまる番号を1つずつ選んでください。



4-6. 副校長、教頭在職中に、部下職員が精神疾患を理由として、休職又は休暇したことがありますか。

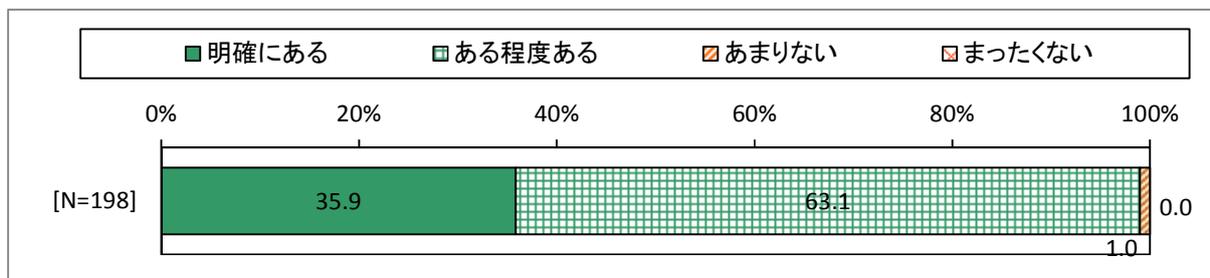


4-9. 新規採用職員や異動で転入してきた職員がスムーズに学校へ適応するため配慮等を行っていますか。



5. その他

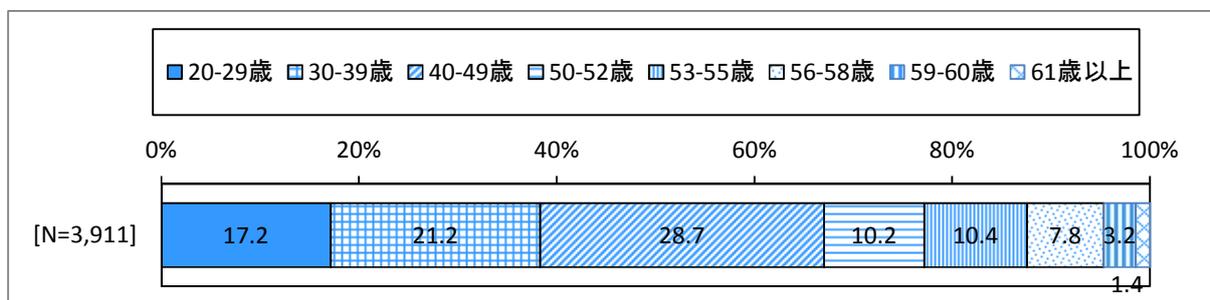
5-1. あなたは、教職員としての理想像を持っていますか。



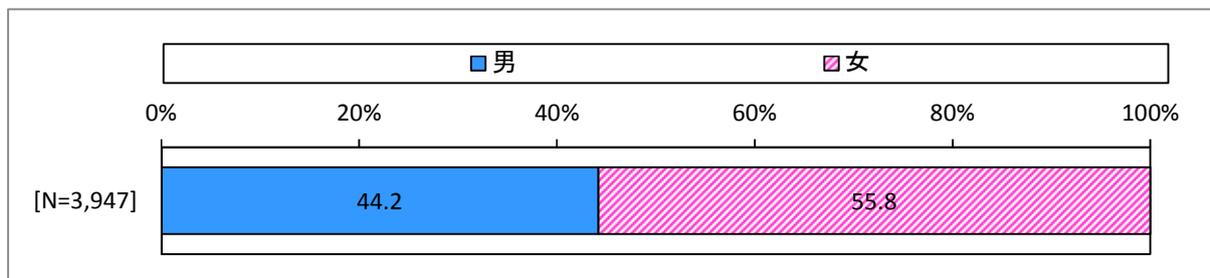
3. 教諭等

0. 現在の状況

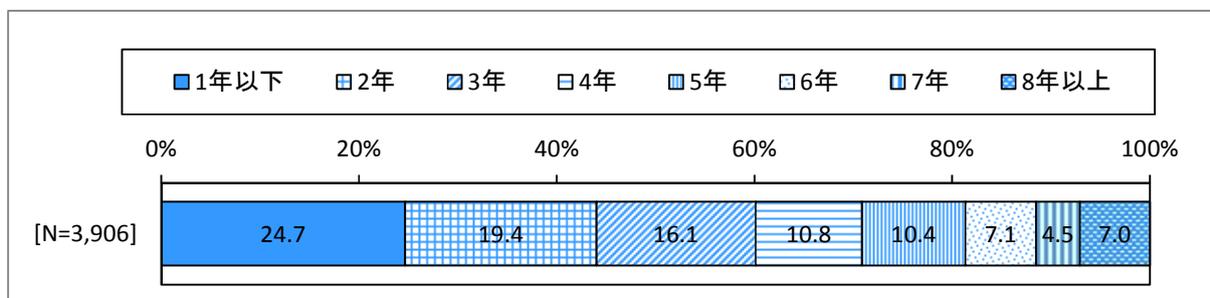
(1) 年齢



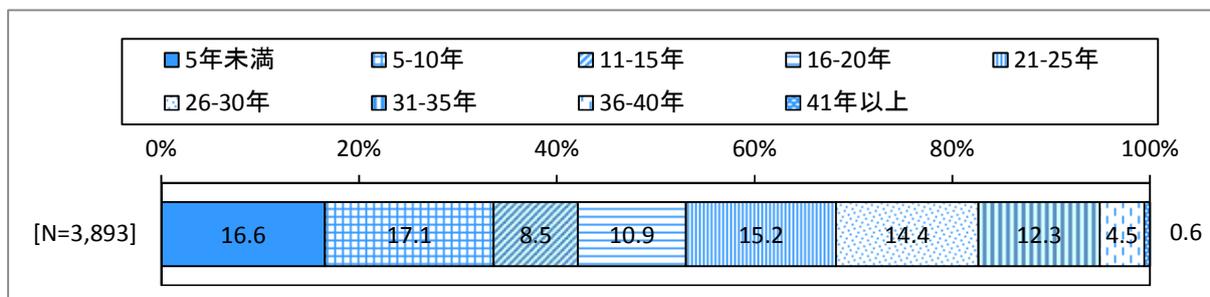
(2) 性別



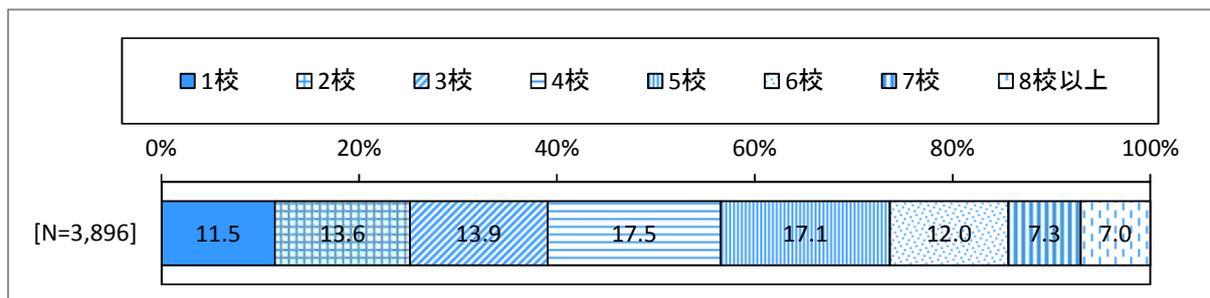
(3) 現任校への在籍年数



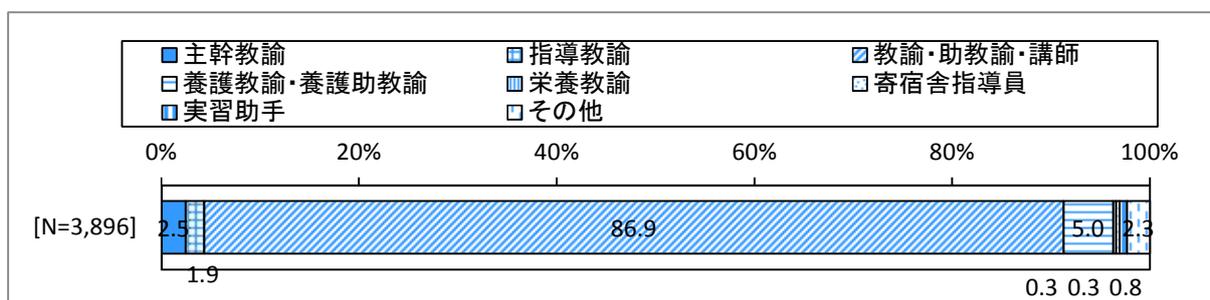
(4) 教職の経験年数



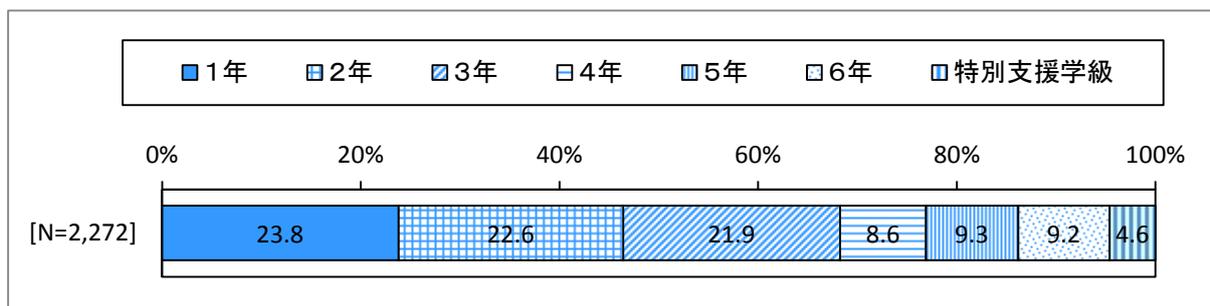
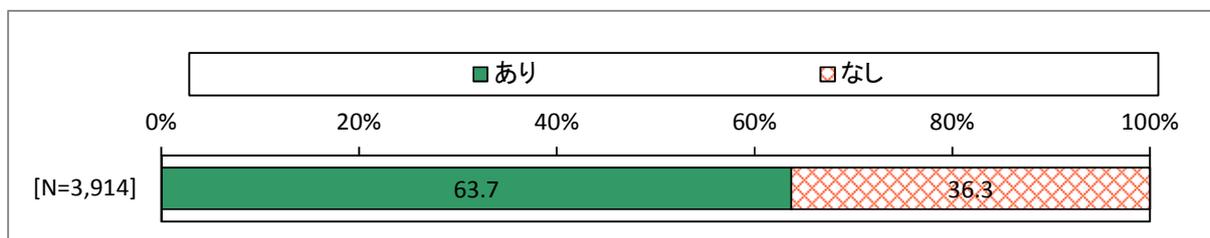
(5) これまでの勤務校数



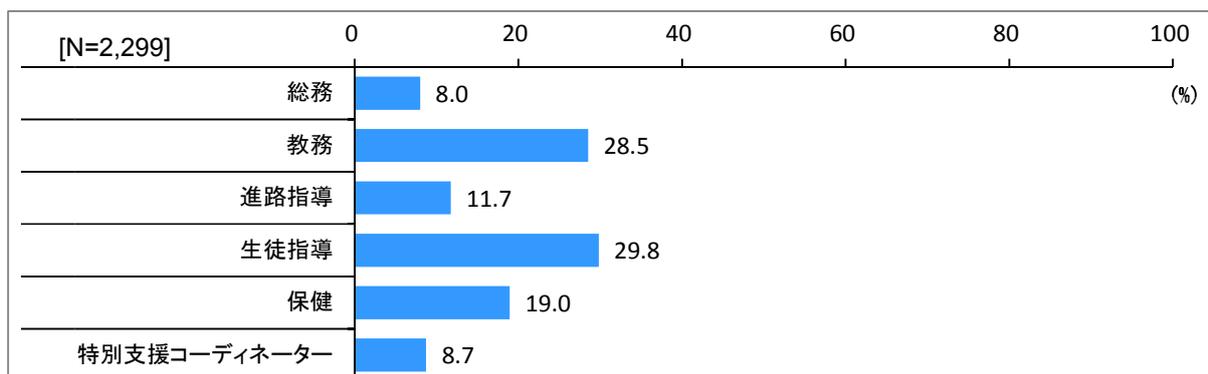
(6) 職種



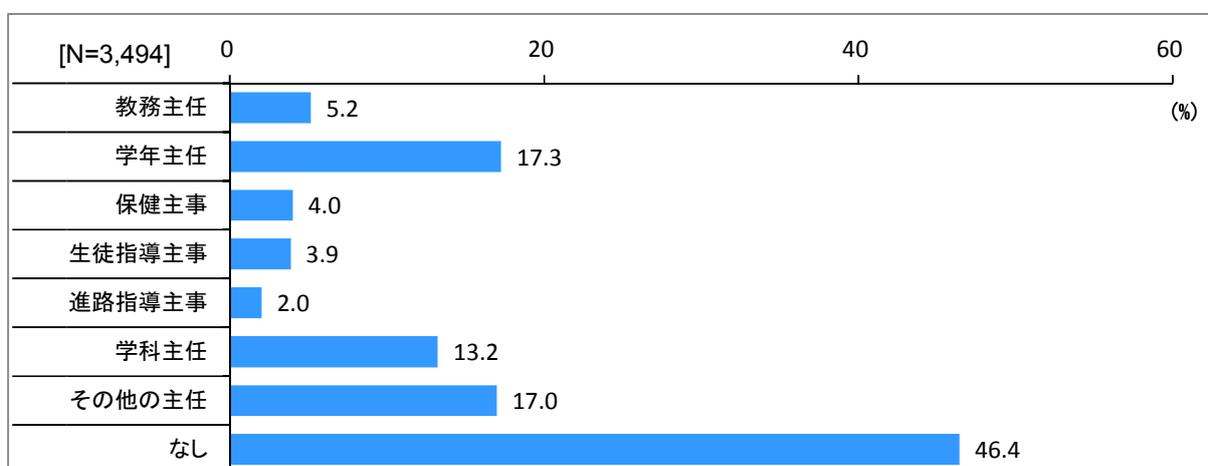
(7) 担任する学級の有無



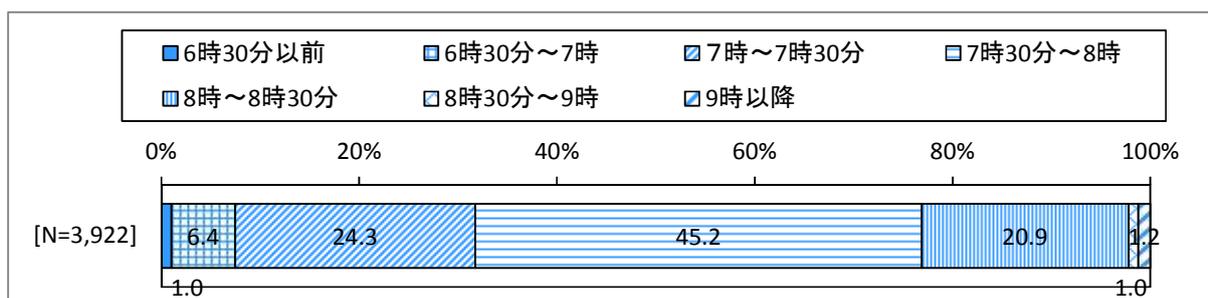
(8) 主な校務分掌



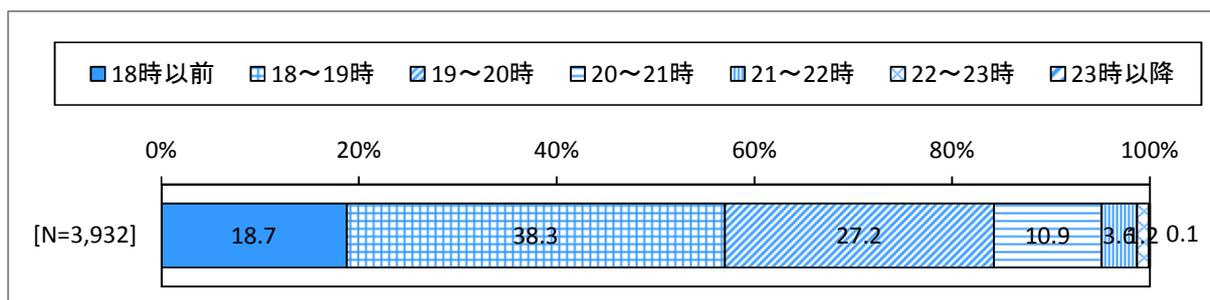
(9) 主任の命課



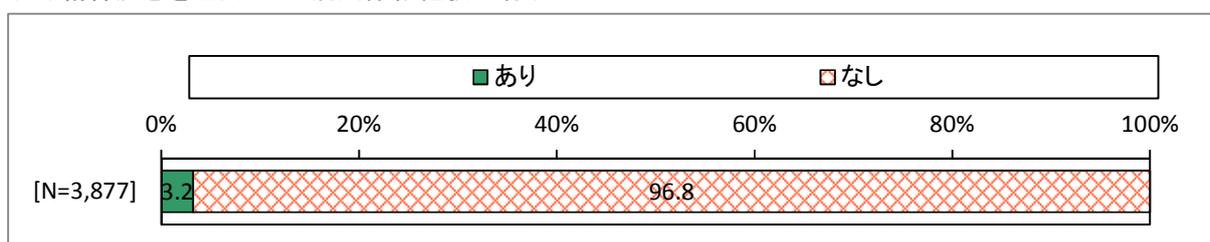
(10) 1ヶ月の平均入校時間



(11) 1ヶ月の平均退校時間

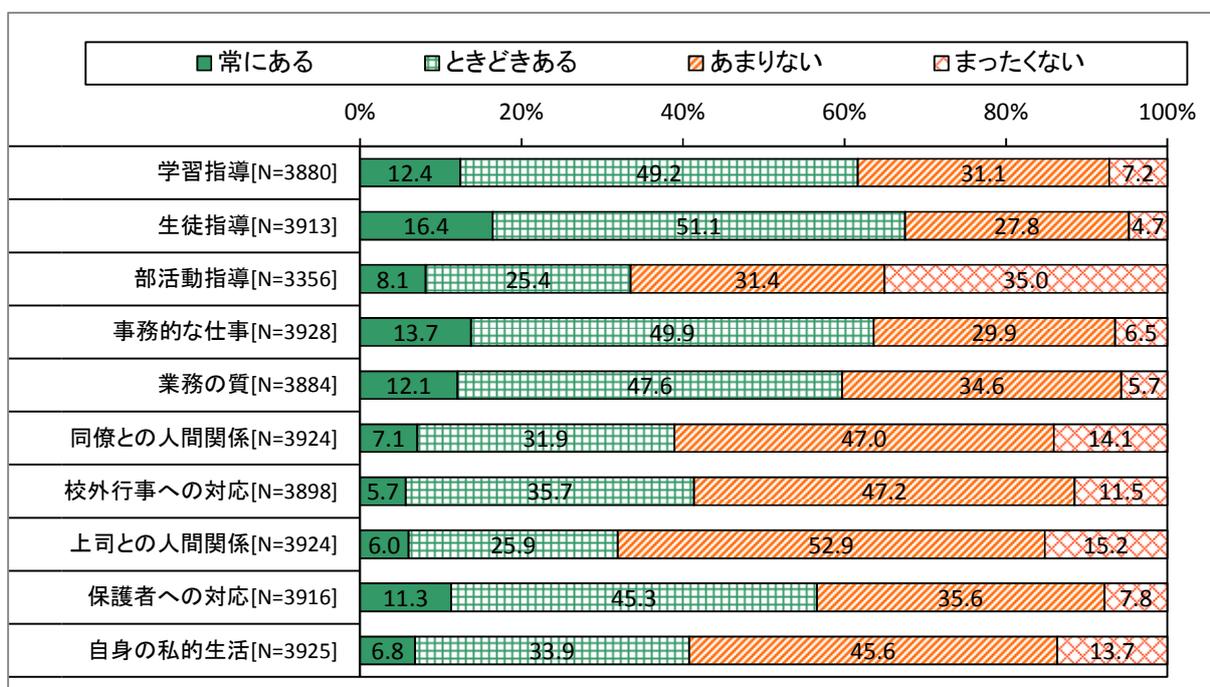


(12) 精神疾患を理由とした病気休職経験の有無

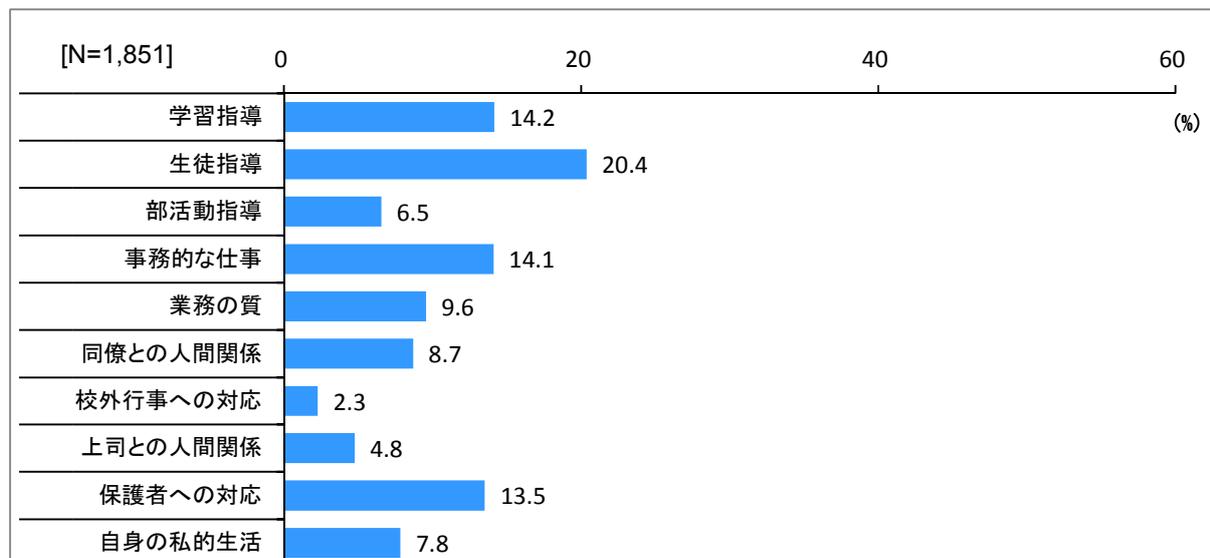


1. ストレスの状況について

1-1. 以下の項目それぞれにおいて強いストレス(不安、悩み含む)がありますか。当てはまる番号を1つずつ選んでください

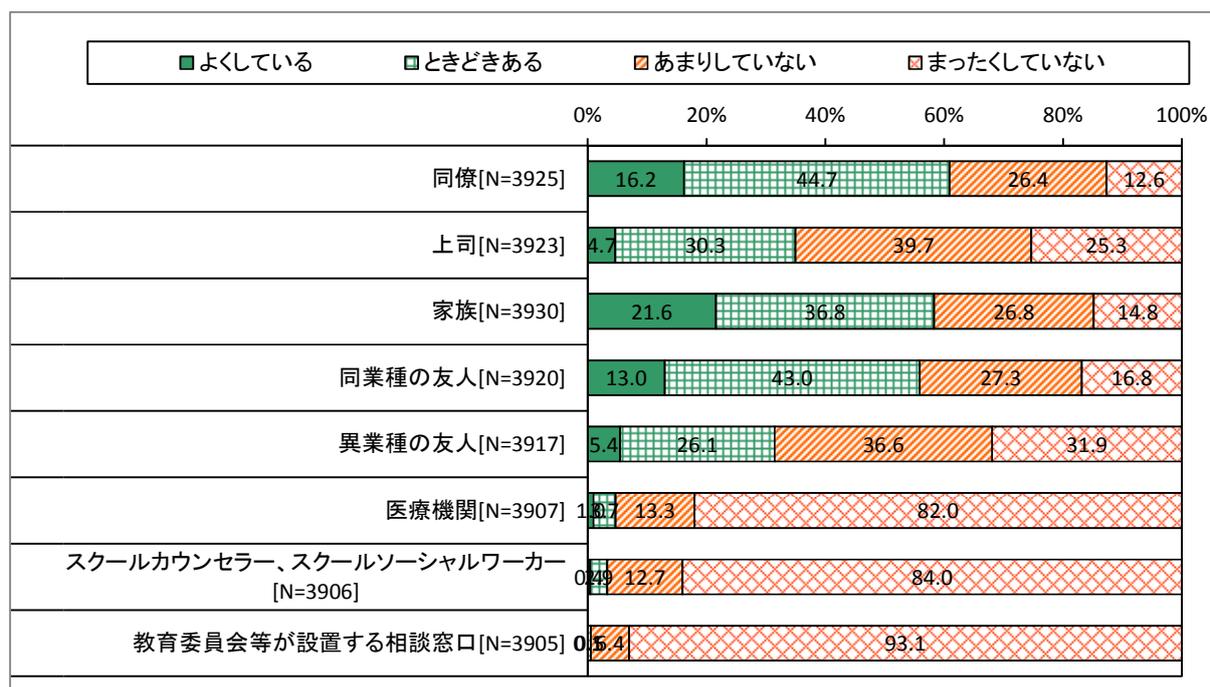


1-2. また、下記のうち、今一番ストレスを感じることに○を付けてください。

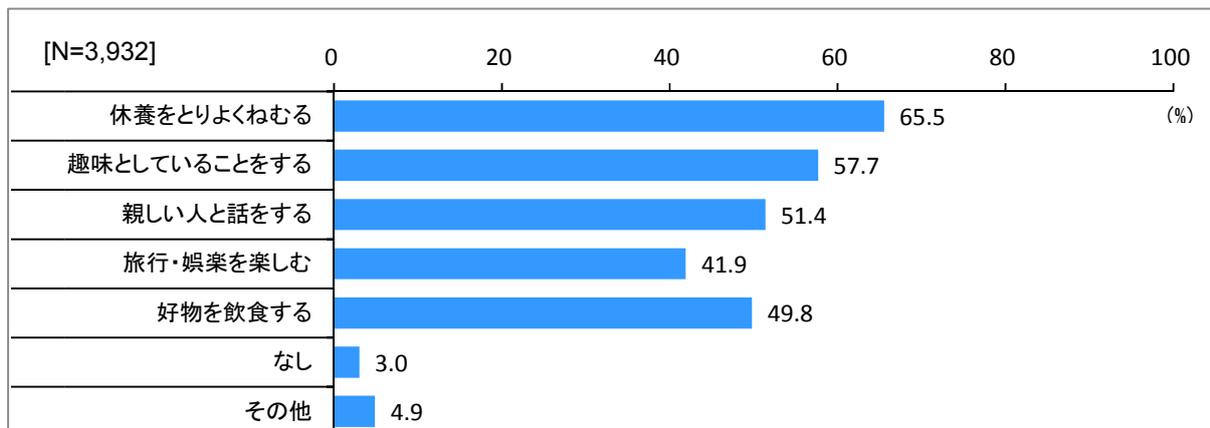


2. ストレスの軽減方法について

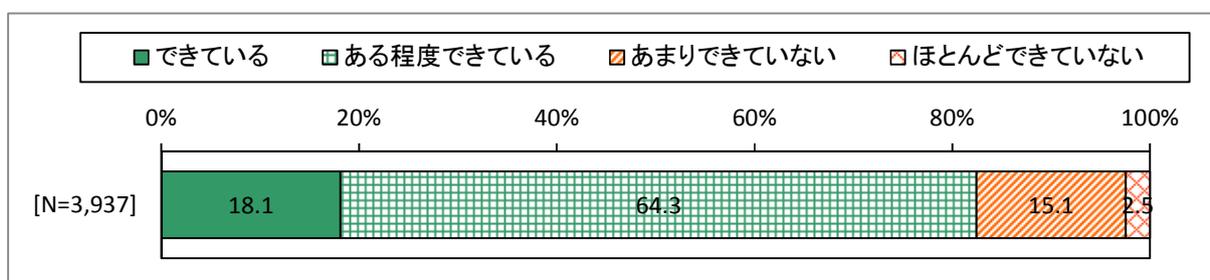
2-1. 以下の人にストレス(不安、悩み含む)を相談していますか。



2-2. ストレス(不安、悩み含む)を解消するために、主にどのようなことを行っていますか

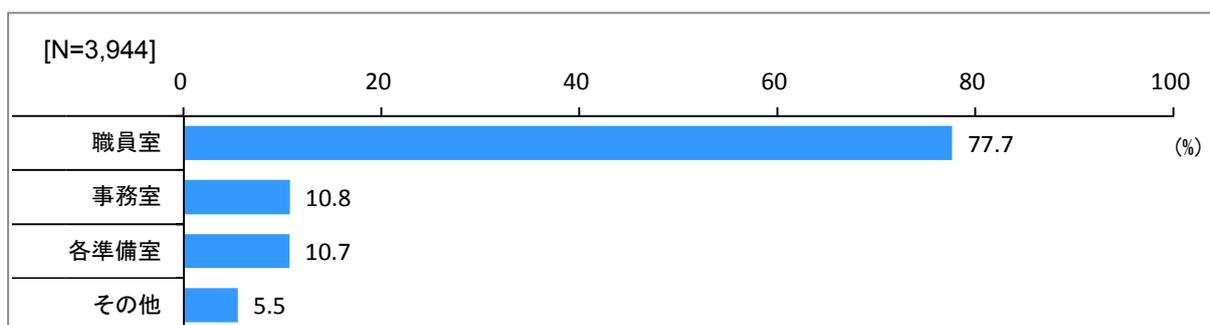


2-3. ストレス(不安、悩み含む)は、自分なりの解消方法を行うことで解消できていますか

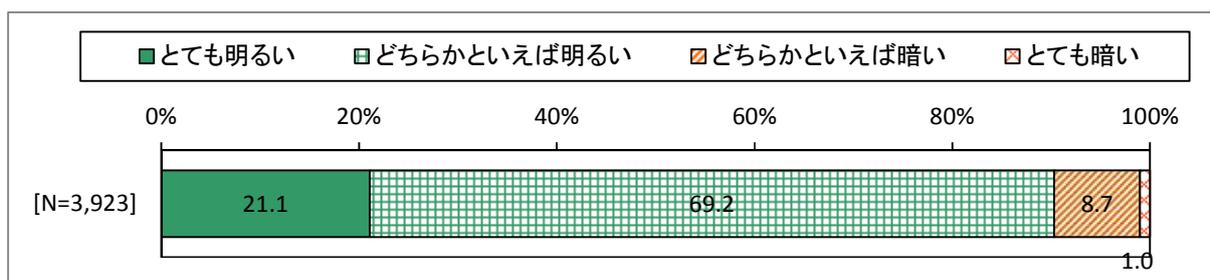


3. 職場の雰囲気について

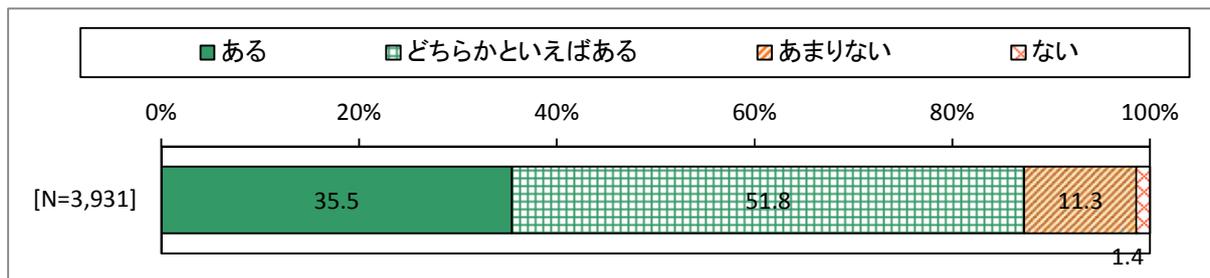
3-1. 校内で事務的な仕事を行う主な場所はどこですか



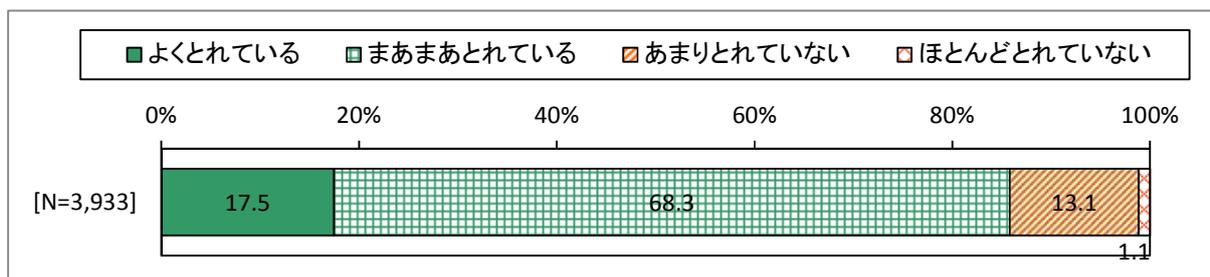
3-2. 職場内の雰囲気はどうか



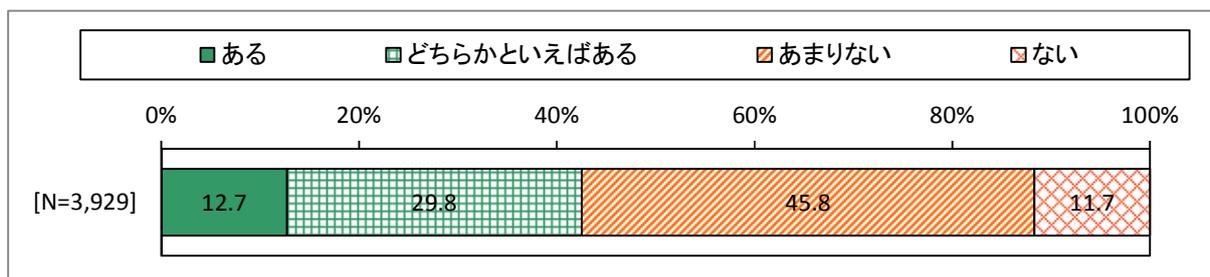
3-3. 教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気がありますか



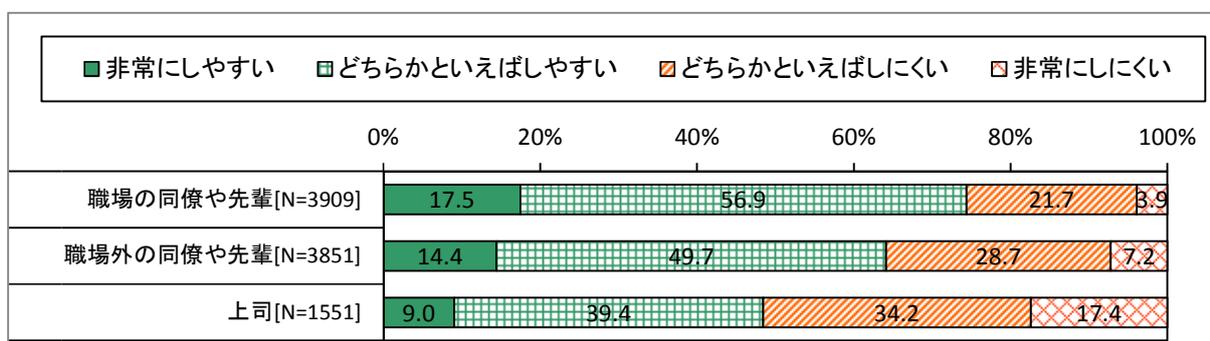
3-4. 職場におけるコミュニケーションの状況はどうか



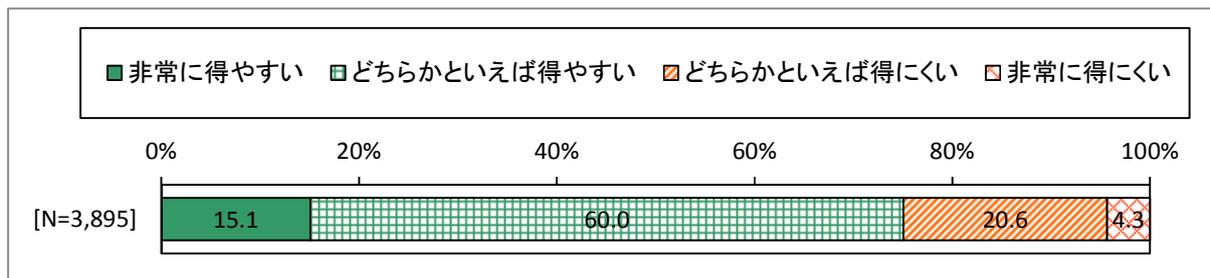
3-5. 職場を離れて同僚や先輩とコミュニケーションを図ることはありますか



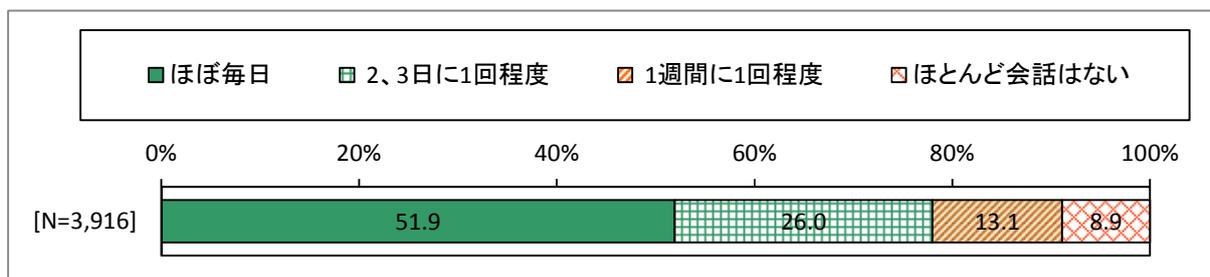
3-6. 次の人に仕事上のストレス(不安、悩み含む)について、相談しやすいですか



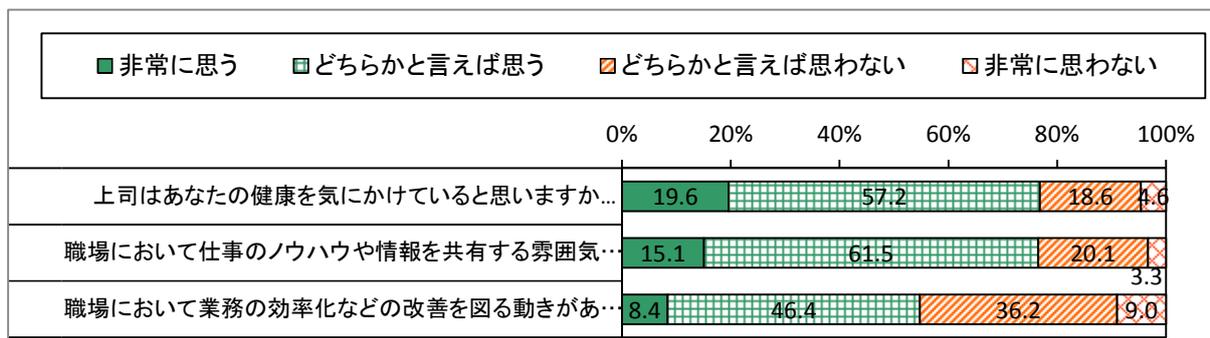
3-7. 上司から仕事のサポートは得やすいですか



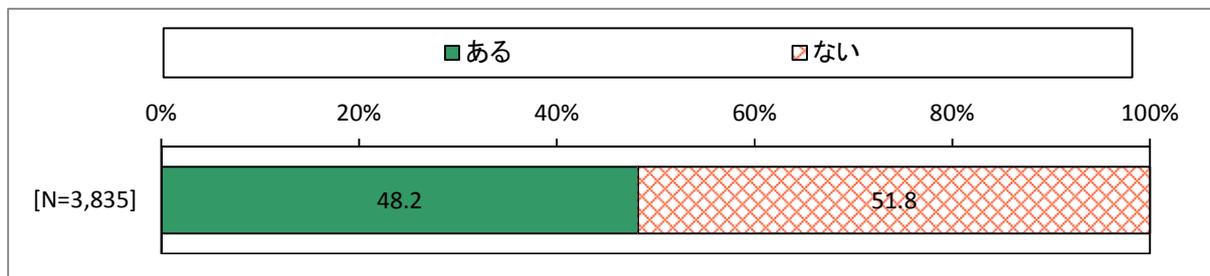
3-8. 上司と日頃どのくらい会話をしますか



3-9. 以下の項目について、当てはまる番号を1つずつ選んでください

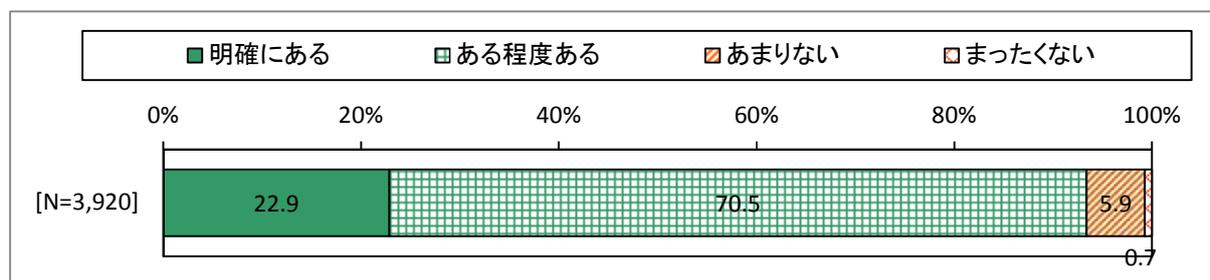


3-10. 定時退校日や部活動休養日などの設定がありますか



4. その他

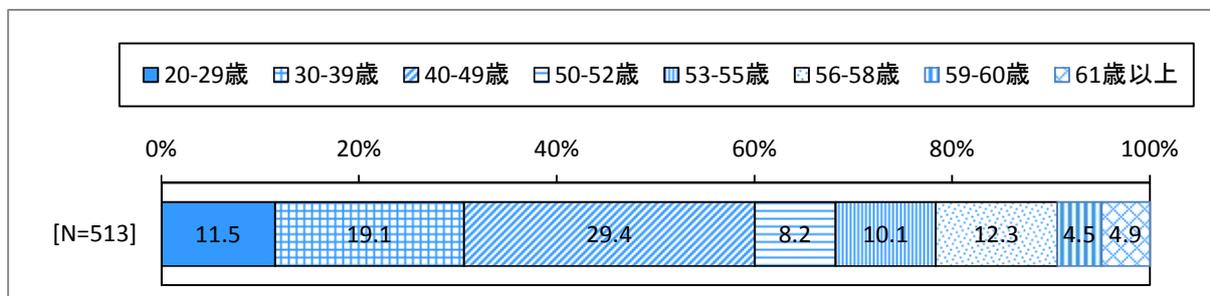
4-1. あなたは、教職員としての理想像を持っていますか



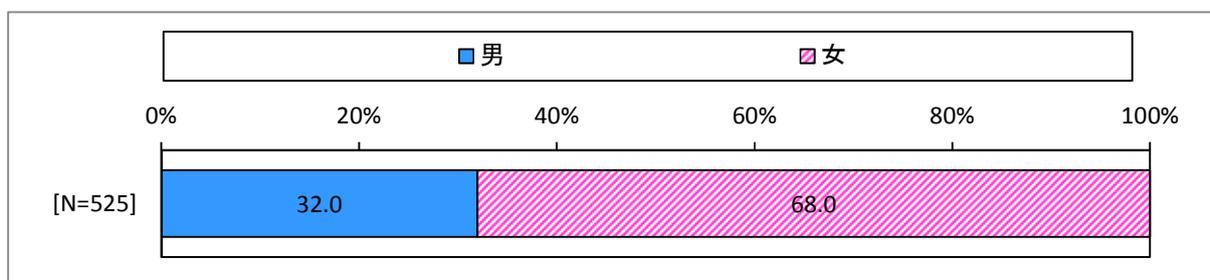
4. 事務職員等

0. 現在の状況

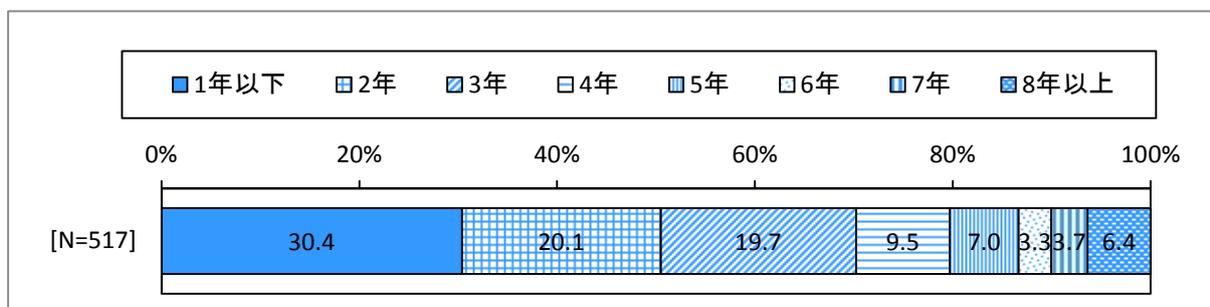
(1) 年齢



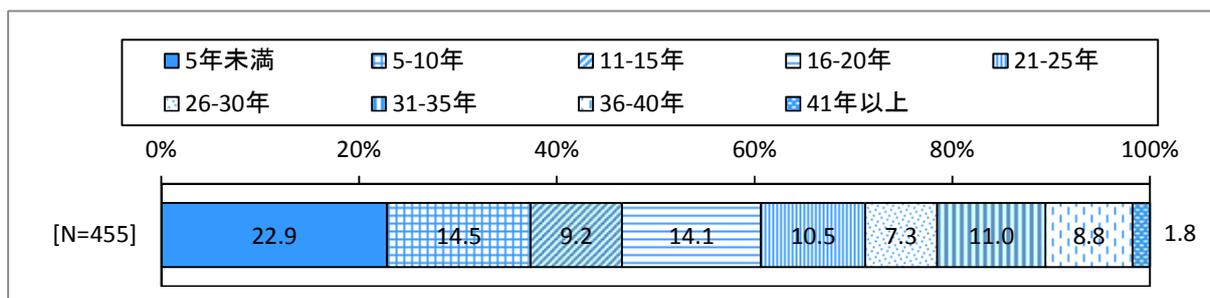
(2) 性別



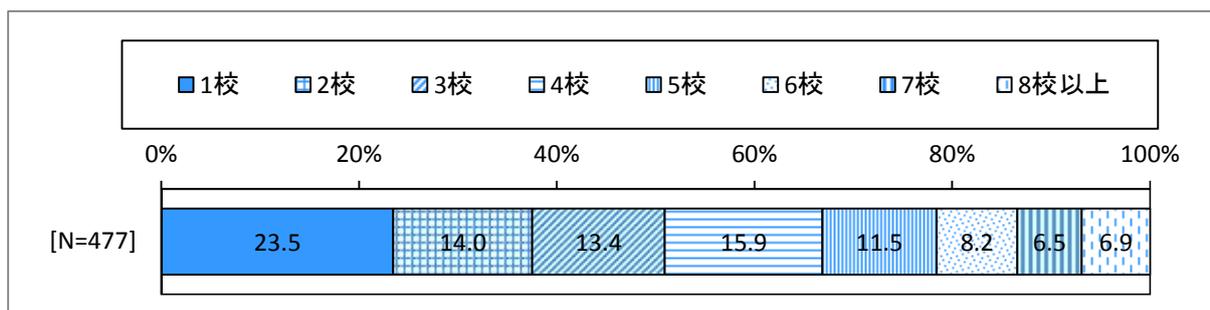
(3) 現任校への在籍年数



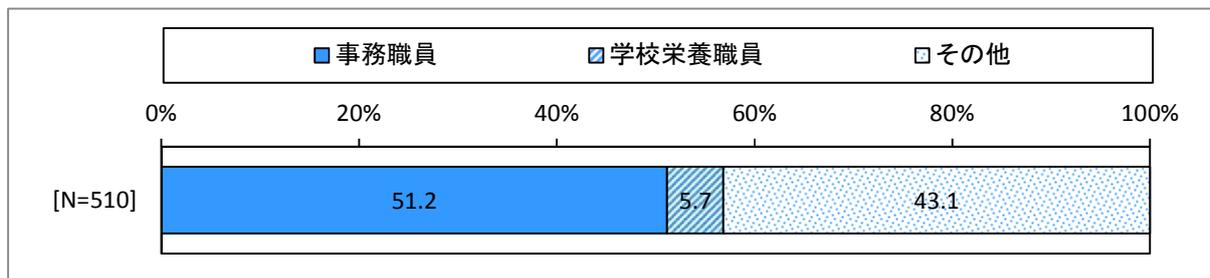
(4) 在職年数



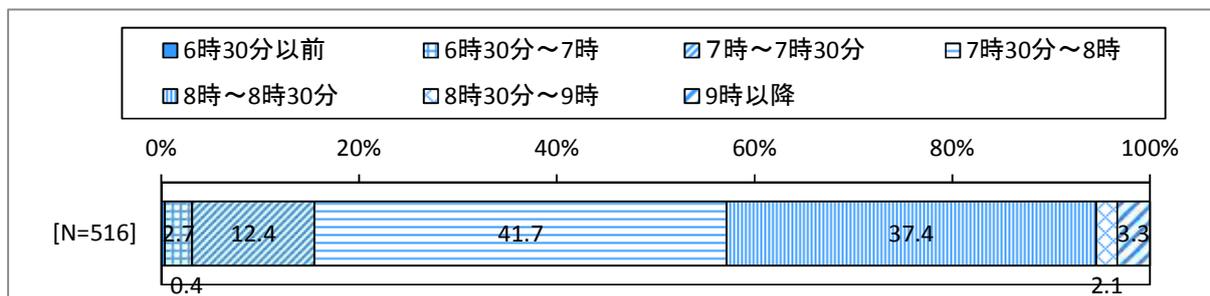
(5) これまでの勤務校数



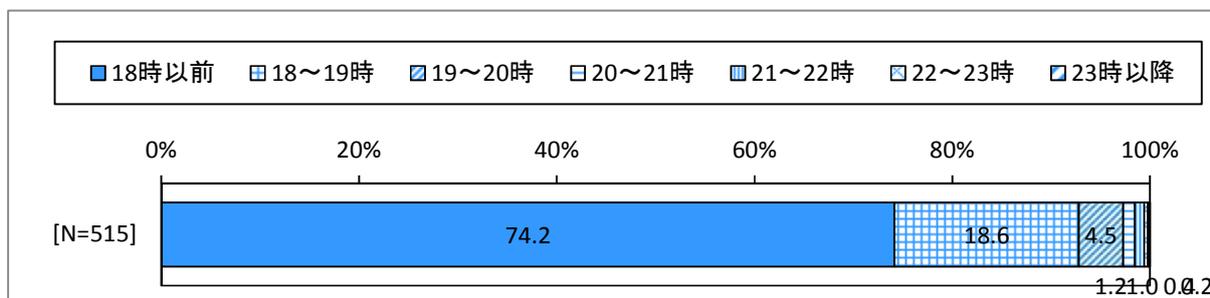
(6) 職種



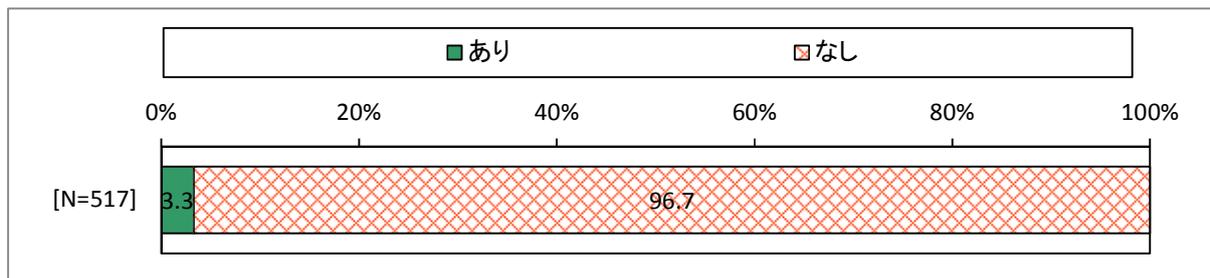
(7) 1ヶ月の平均入校時間



(8) 1ヶ月の平均退校時間

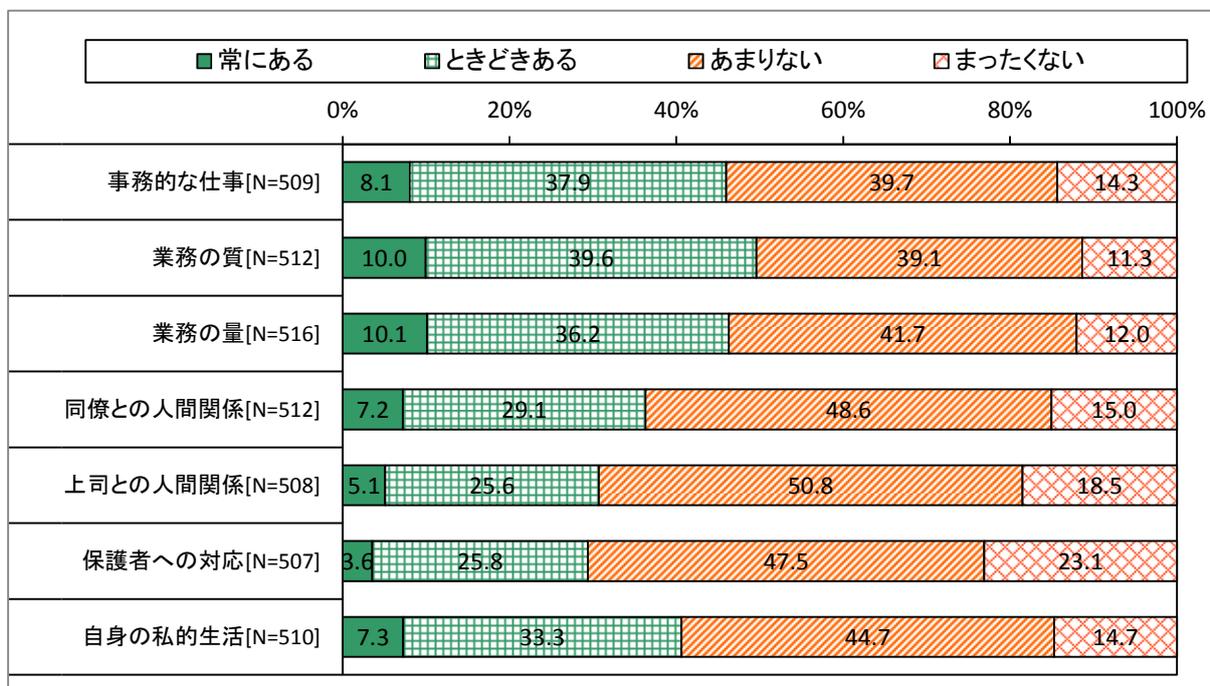


(9) 精神疾患を理由とした病気休職経験の有無

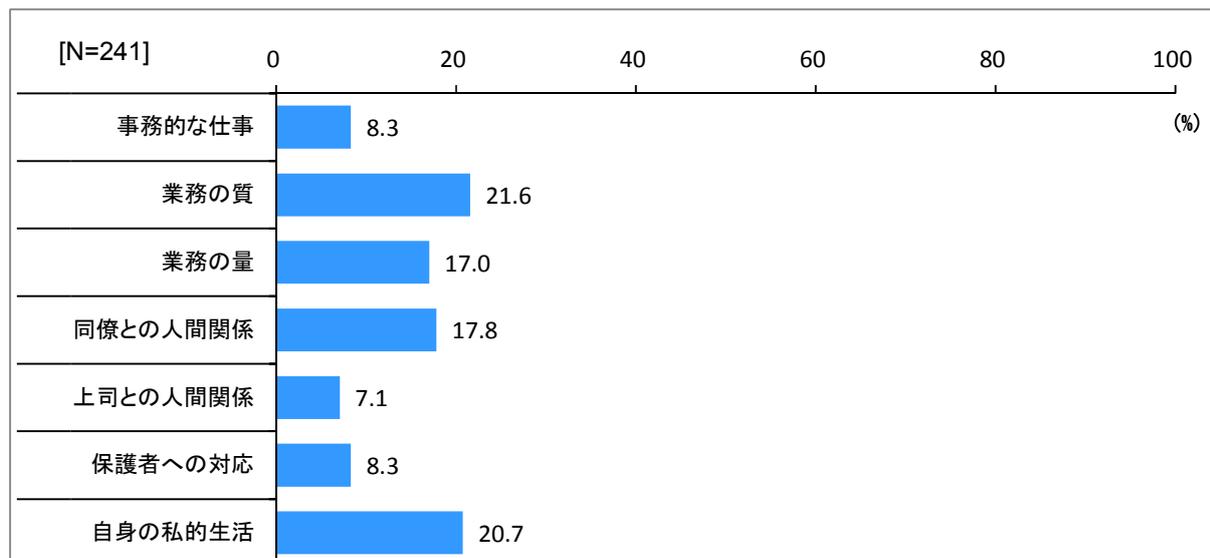


1. ストレスの状況について

1-1. 以下の項目それぞれにおいて強いストレス(不安、悩み含む)がありますか。当てはまる番号を1つずつ選んでください

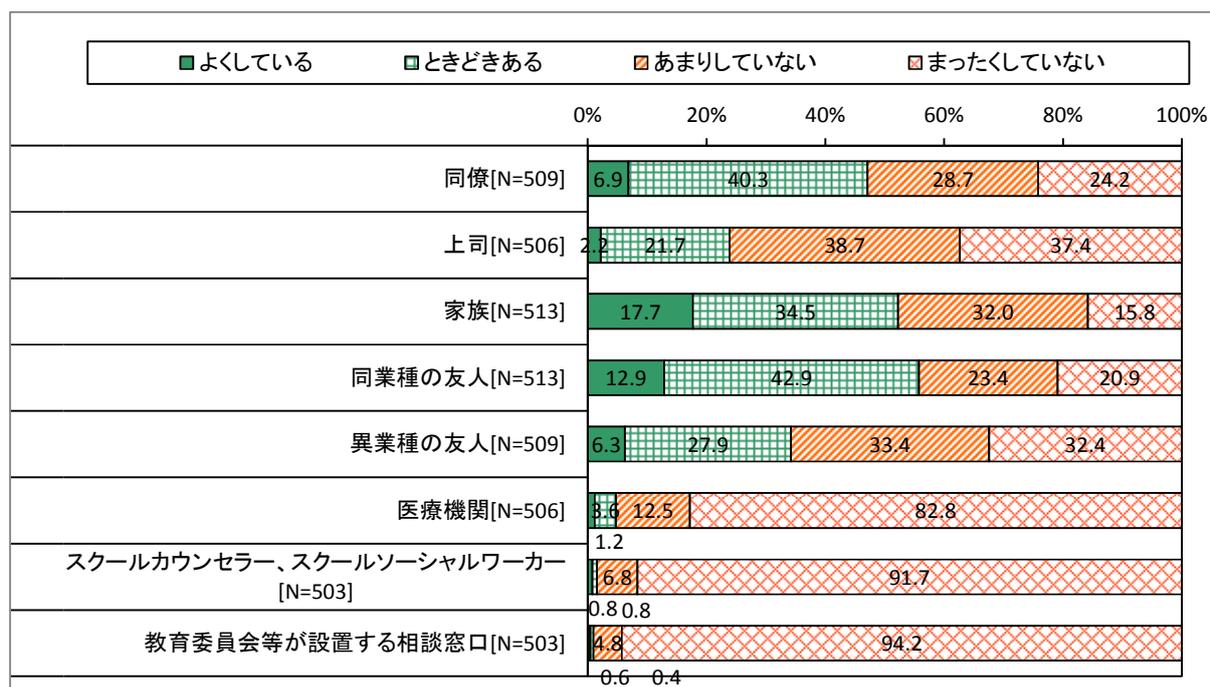


1-2. また、下記のうち、今一番ストレスを感じることに○を付けてください。

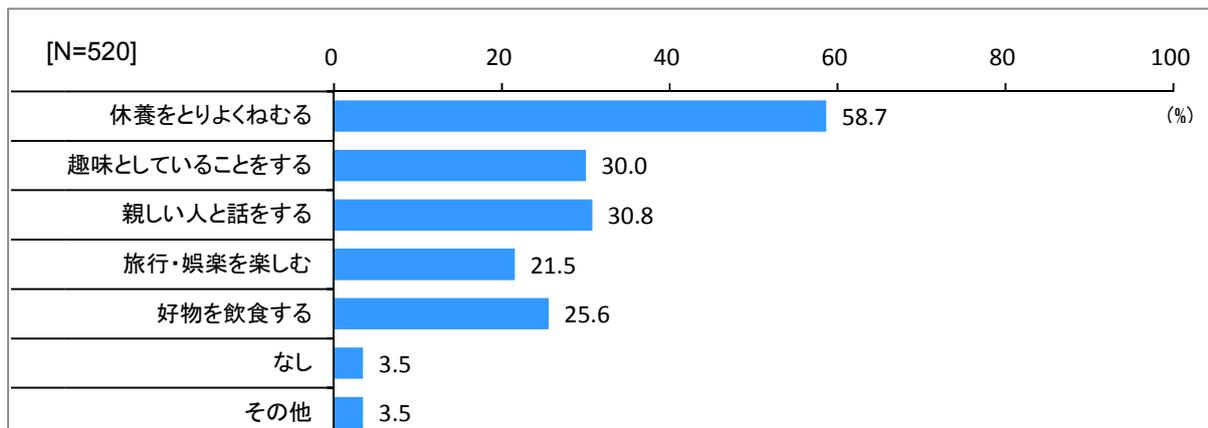


2. ストレスの軽減方法について

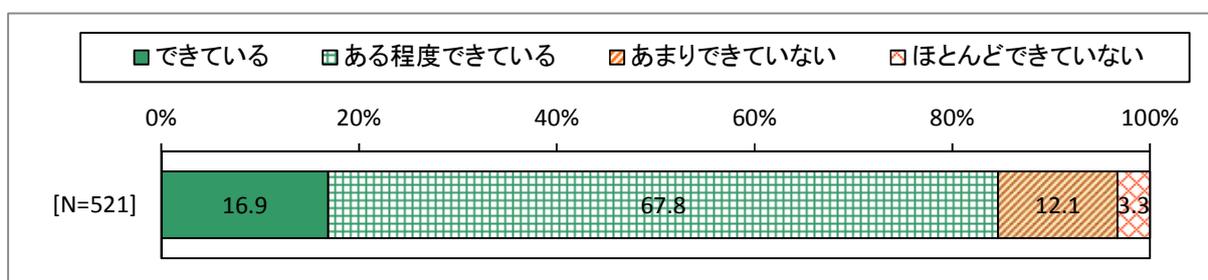
2-1. 以下の人にストレス(不安、悩み含む)を相談していますか。



2-2. ストレス(不安、悩み含む)を解消するために、主にどのようなことを行っていますか

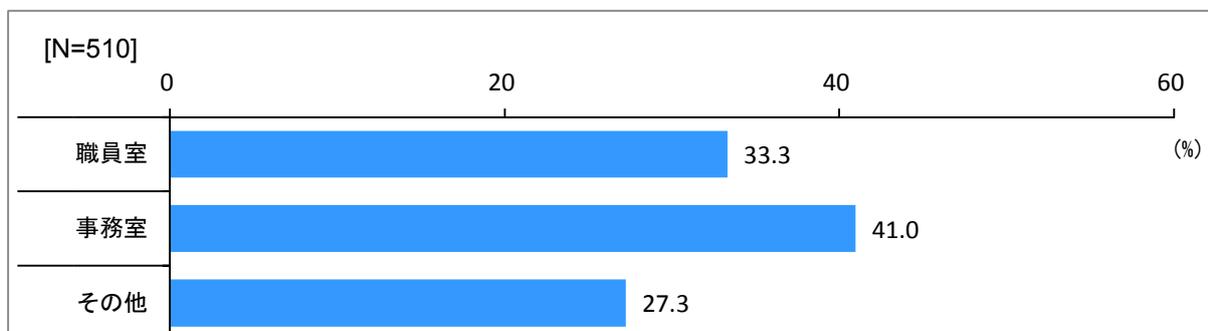


2-3. ストレス(不安、悩み含む)は、自分なりの解消方法を行うことで解消できていますか

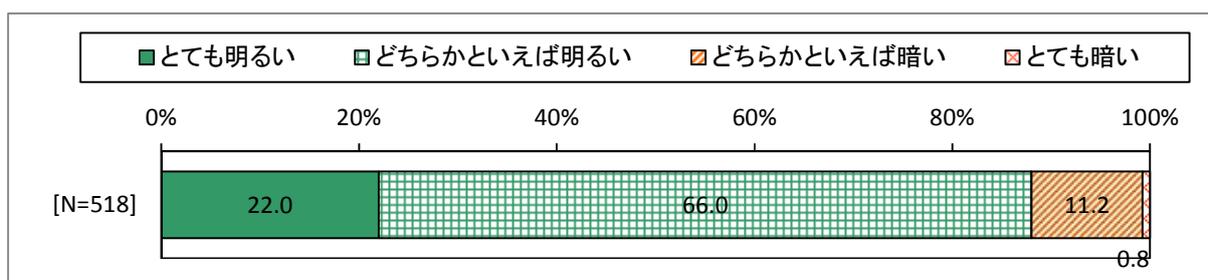


3. 職場の雰囲気について

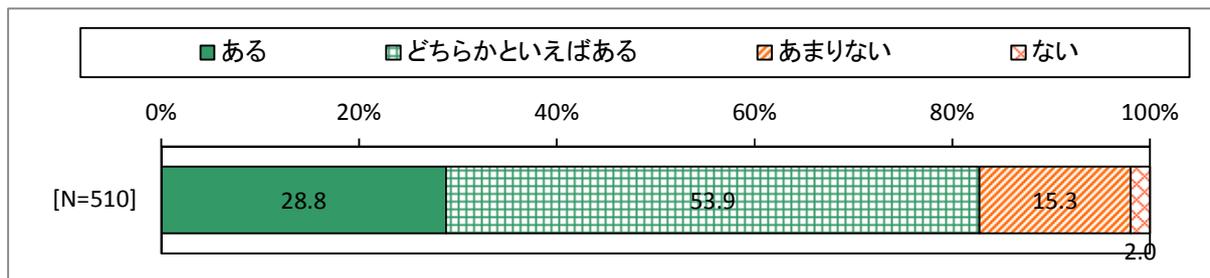
3-1. 校内で事務的な仕事を行う主な場所はどこですか



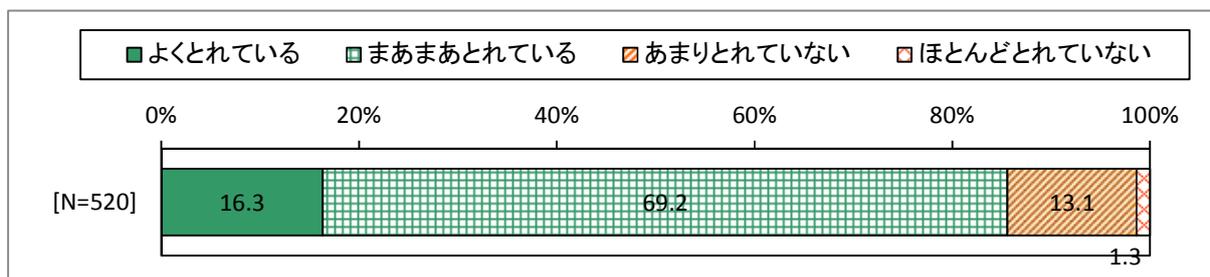
3-2. 職場内の雰囲気はどうか



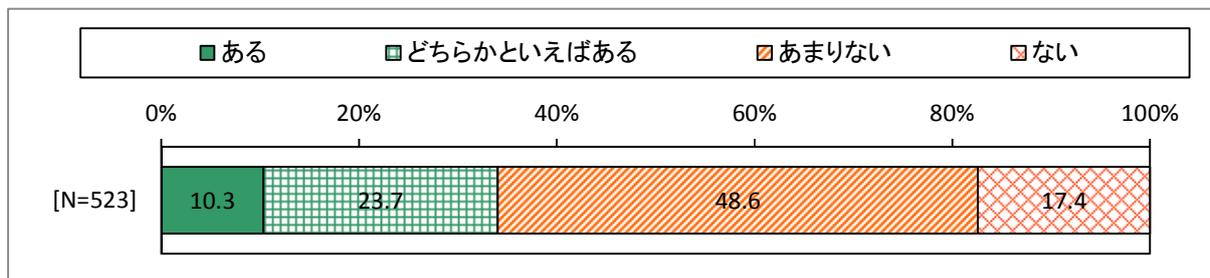
3-3. 教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気がありますか



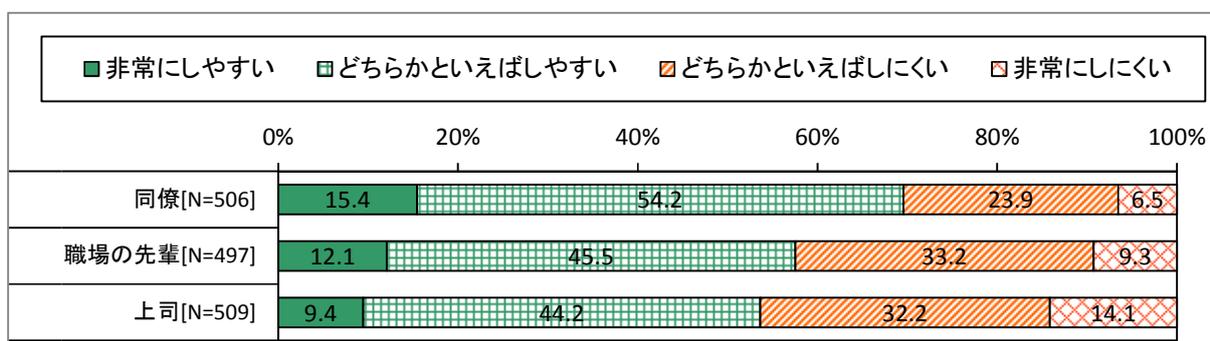
3-4. 職場におけるコミュニケーションの状況はどうか



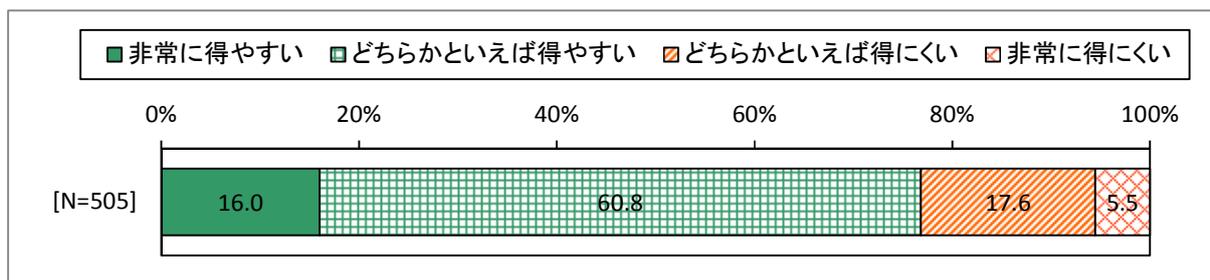
3-5. 職場を離れて同僚や先輩とコミュニケーションを図ることはありますか



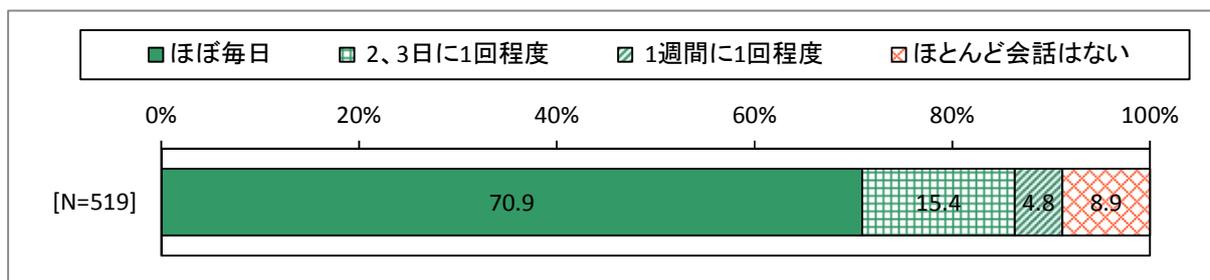
3-6. 次の人に仕事上のストレス(不安、悩み含む)について、相談しやすいですか



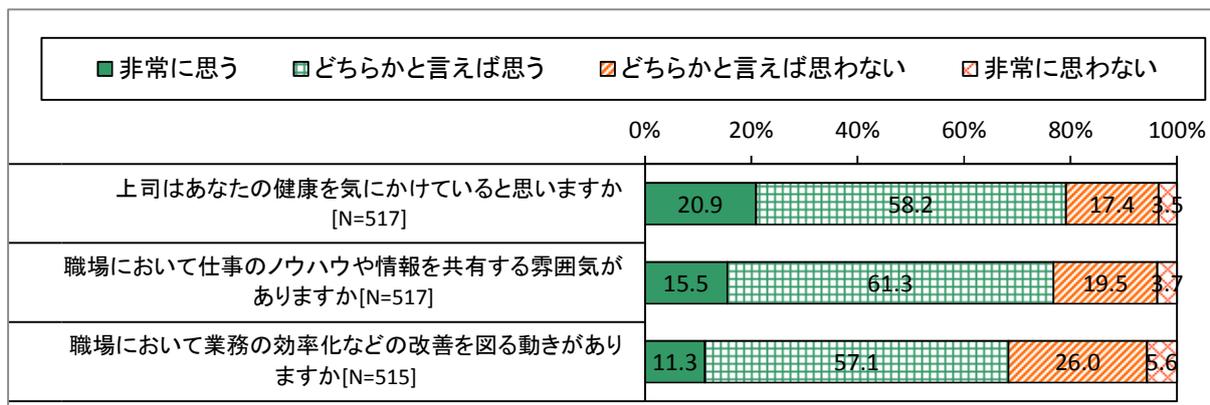
3-7. 上司から仕事のサポートは得やすいですか



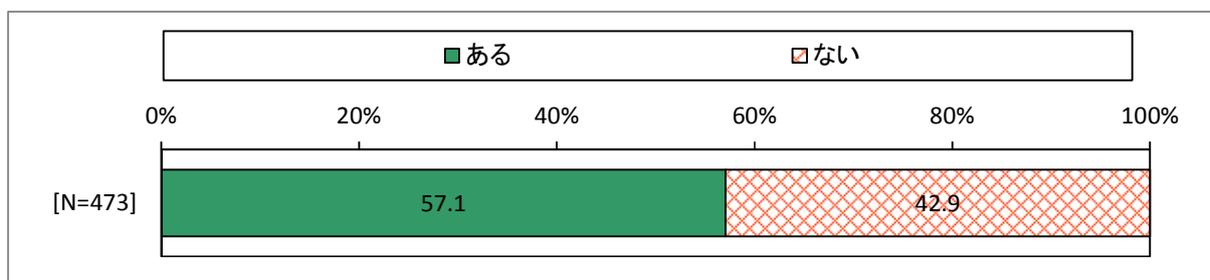
3-8. 上司と日頃どのくらい会話をしますか



3-9. 以下の項目について、当てはまる番号を1つずつ選んでください

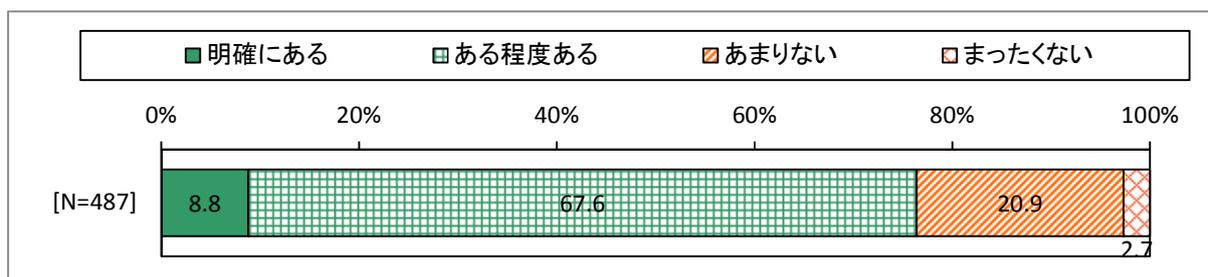


3-10. 定時退校日や部活動休養日などの設定がありますか



4. その他

4-1. あなたは、教職員としての理想像を持っていますか



(2)クロス分析・多変量解析結果

1. 校長

1. クロス分析結果(属性別ストレス状況)

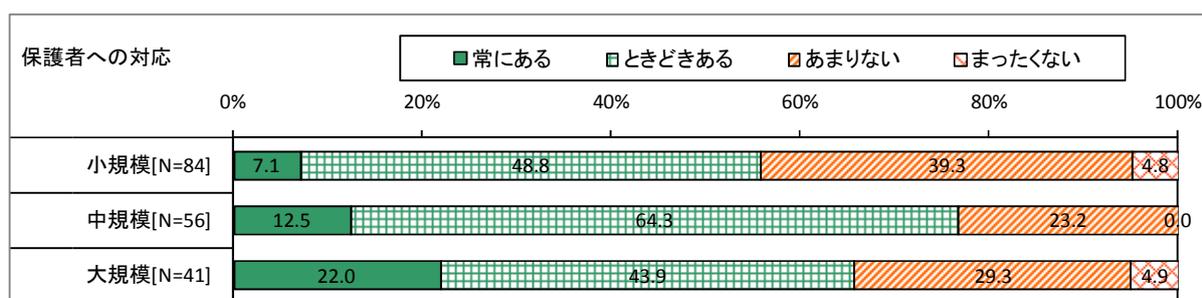
(0) 方法

- ストレス状況 (Q1-1) に関する各設問項目について、主要なフェイス項目別に集計
- 統計的に有意な差 (5%水準) が見られた結果を抽出

(1) 学校規模別

【結果概要】

- 「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合 (常にある又はときどきある) は、小規模校がもっとも少なく、中規模校がもっとも多い。ただし、常に強いストレスを感じる割合は、学校規模が大きいほど多い傾向が見られる。
- その他の事項については、学校規模による有意差は見られない。



(2) 学校種別

【結果概要】

- いずれの事項についても、学校種による有意差は見られない。
- ただし全体的に、強いストレスを感じる割合は、高い順に中学校、小学校、高等学校となっている。

(3) 年代別

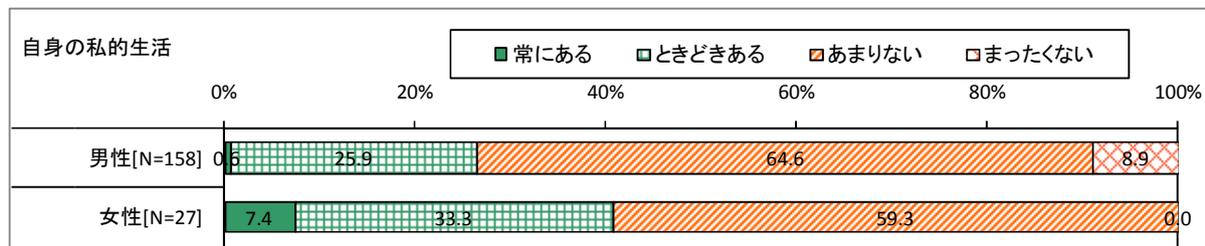
【結果概要】

- いずれの事項についても、年代による有意差は見られない。

(4) 男女別

【結果概要】

- ・ 「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、女性の方が男性より多い。
- ・ その他の事項については、性別による有意差は見られない。



(5) 校長経験年数別

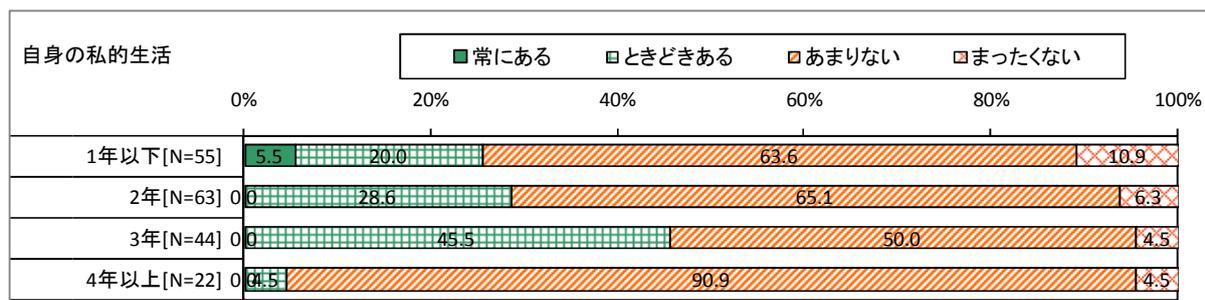
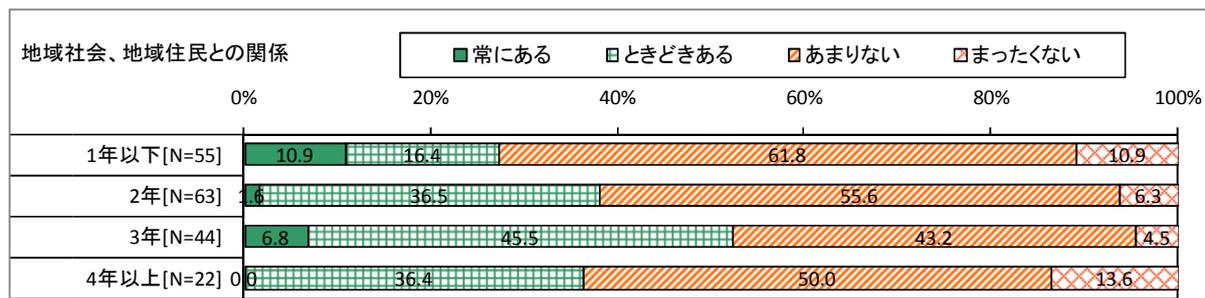
【結果概要】

- ・ いずれの事項についても、校長経験年数による有意差は見られない。

(6) 現任校在籍年数別

【結果概要】

- ・ 「地域社会、地域住民との関係」「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、いずれも現任校在籍年数3年がもっとも多く、次いで2年が多い。現任校在籍年数4年以上の校長で、「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は5%未満である。
- ・ その他の事項については、現任校在籍年数による有意差は見られない。



(7) 平均入校時間別

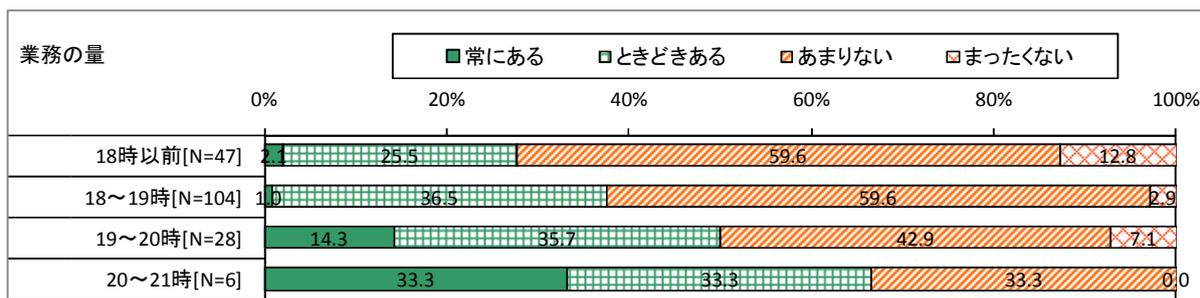
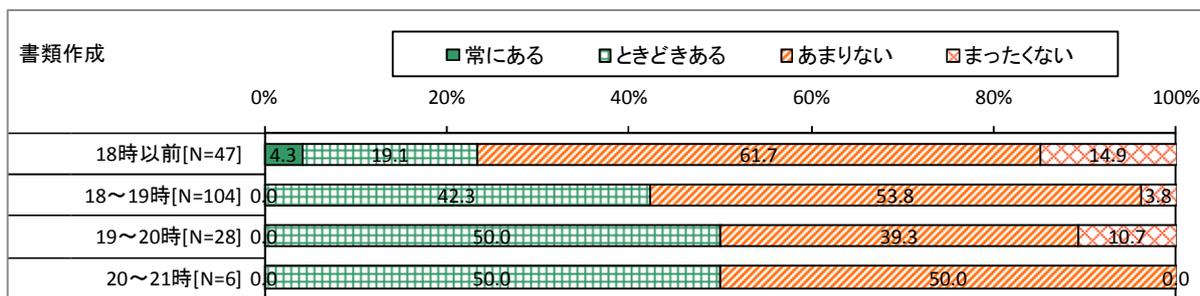
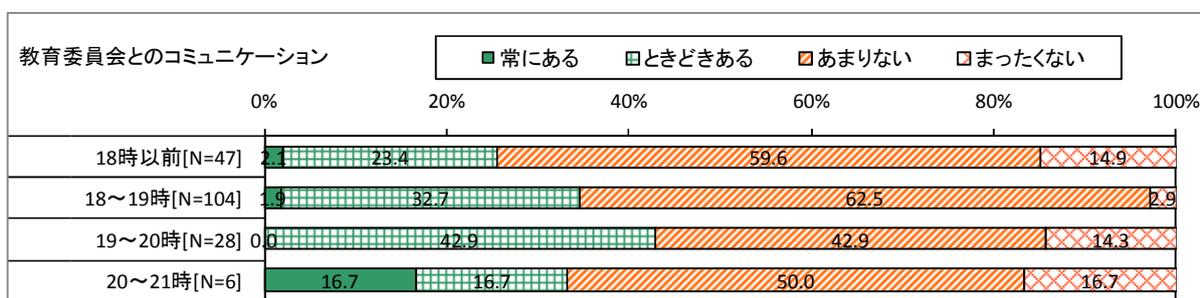
【結果概要】

- いずれの事項についても、平均入校時間による有意差は見られない。

(8) 平均退校時間別

【結果概要】

- 「教育委員会とのコミュニケーション」「書類作成」「業務の量」に強いストレスを感じる割合は、全体的に平均退校時間が遅いほど多い傾向が見られる。
- その他の事項については、平均退校時間による有意差は見られない。



2. 多変量解析結果(ストレス状況に影響を与える要因)

(0) 方法

- 調査対象のストレス状況 (Q1-1) の回答より、総合的なストレス得点を算出
(各項目につき標準得点を算出し、全項目の標準得点を合算。得点が高いほどストレスが強い。)
- ストレス得点を従属変数、フェイス項目、ストレス軽減方法、職場の雰囲気、職場の雰囲気づくりに関する取組、教職員としての理想像に関する主要項目を説明変数として、多変量解析(回帰分析)を実施(他の変数をコントロールしてもなお有意に影響を与える要因を抽出)
- 解析結果を表形式で整理(有意にストレスを弱めている変数は青色、強めている変数は赤色)

(1) 結果一覧

【結果概要】	
•	ストレスを有意に強める変数は見られない。
•	ストレスを有意に弱める変数は「自校の教職員(副校長、教頭以外)とのストレスについての相談(頻度が高い)」、「教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気(が強い)」の2つ。

説明変数		ストレス得点			
		B	β	有意確率	
フェイス項目	小規模校ダミー	-.737	-.052	.646	
	中規模校ダミー	-2.020	-.134	.198	
	小学校ダミー	3.584	.251	.195	
	中学校ダミー	3.595	.220	.225	
	高校ダミー	2.076	.093	.508	
	年齢	-.226	-.079	.448	
	男性ダミー	-1.460	-.071	.423	
	校長昇任後の経験年数	-.279	-.103	.401	
	校長昇任後の勤務校数	1.189	.157	.137	
	現任校への在籍年数	.259	.063	.451	
	平均入校時間	-1.015	-.113	.154	
	平均退校時間	.913	.096	.262	
	ストレスについての相談	自校の副校長、教頭	-.981	-.068	.388
		他校の校長、副校長、教頭	-1.461	-.101	.201
自校の教職員(副校長、教頭を除く)		-3.268	-.214	.022	
教育委員会の職員		2.181	.147	.055	
家族		-.478	-.032	.693	
同業種の友人		.322	.041	.672	
異業種の友人		.263	.031	.758	
医療機関		.964	.107	.303	
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー		.427	.046	.656	
教育委員会等が設置する相談窓口		.057	.008	.929	
ストレス解消方法	休養をとりよくねむる	1.622	.199	.066	
	趣味としていることをする	1.527	.153	.102	
	親しい人と話をする	2.262	.144	.185	
	旅行・娯楽を楽しむ	.454	.033	.749	
	好物を飲食する	-3.443	-.188	.151	
職場の雰囲気	職場内の雰囲気(明るさ)	-2.673	-.176	.096	
	教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気	-3.158	-.238	.017	
	職場における教職員とのコミュニケーション	1.388	.084	.394	
	自校の副校長、教頭との相談しやすさ	-.961	-.086	.334	
	自校の副校長、教頭以外の教職員との相談しやすさ	-1.014	-.068	.501	
職場の雰囲気づくり	定時退校日や部活動休養日などの設定	-1.254	-.089	.271	
	自校の教職員のストレスの状況の把握	-1.113	-.093	.326	
	職場を離れての教職員とのコミュニケーション	.490	.049	.580	
	1日に会って話をする部下の数	-.952	-.108	.241	
	職場で仕事のノウハウや情報を共有する雰囲気	-1.282	-.096	.385	
	職場で業務の効率化などの改善を図る動き	1.199	.103	.293	
	部下の健康への配慮	-.211	-.016	.853	
	職員へのパソコン配備状況	.949	.103	.196	
新規採用職員や異動で転入してきた職員がスムーズに学校へ適応するための配慮	1.405	.070	.382		
その他	教職員としての理想の強さ	-.590	-.042	.618	
定数		29.069		.109	

決定係数 $R^2=0.39$ 、調整済み $R^2=0.19$

2. 副校長・教頭

1. クロス分析結果(属性別ストレス状況)

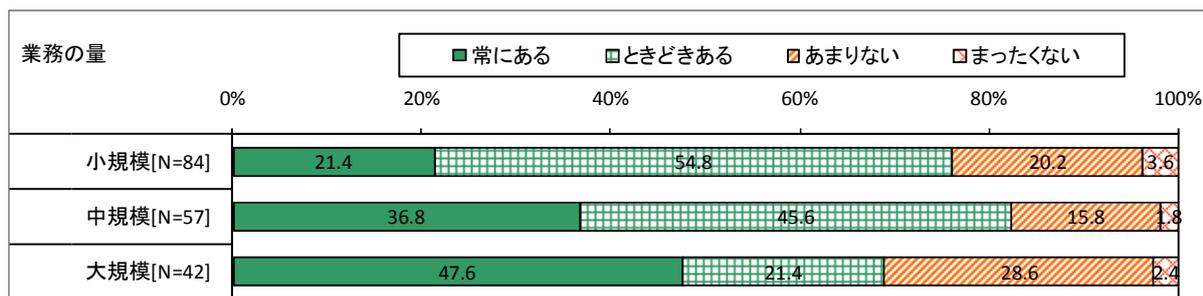
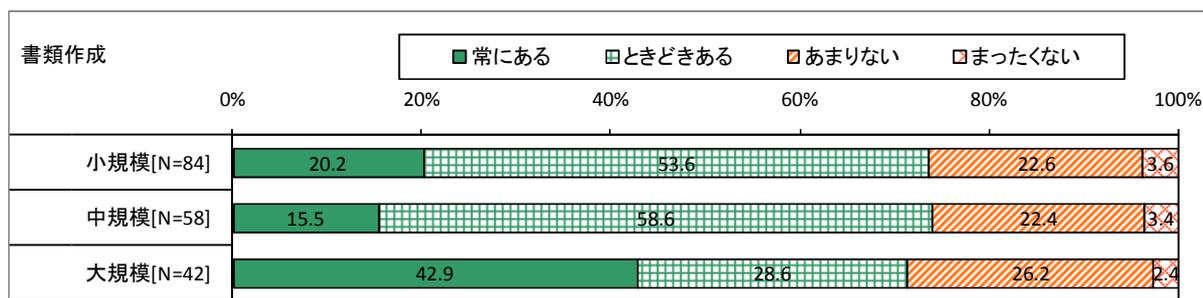
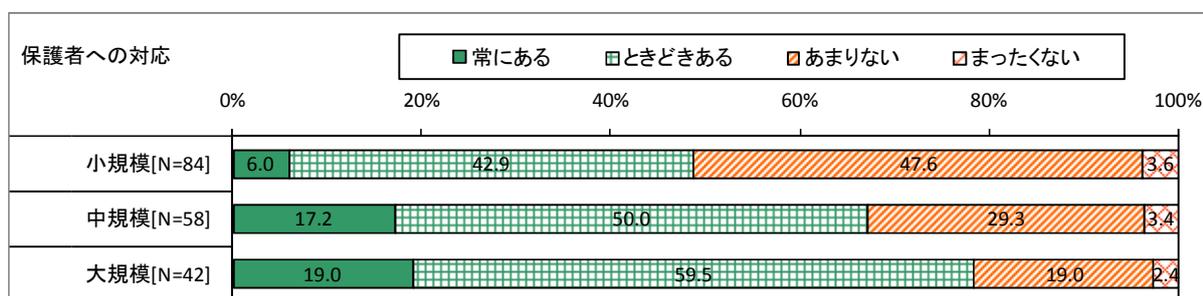
(0) 方法

- ストレス状況 (Q1-1) に関する各設問項目について、主要なフェイス項目別に集計
- 統計的に有意な差 (5%水準) が見られた結果を抽出

(1) 学校規模別

【結果概要】

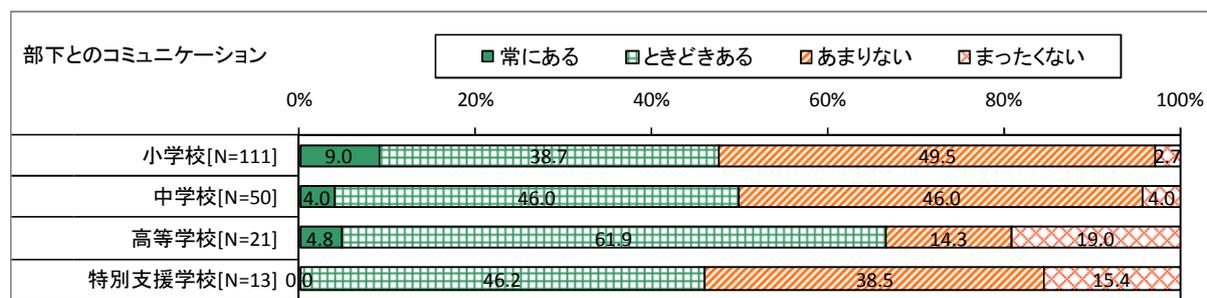
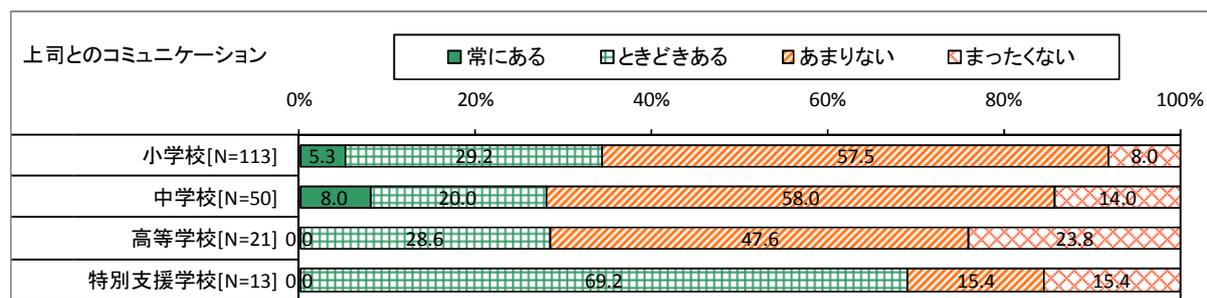
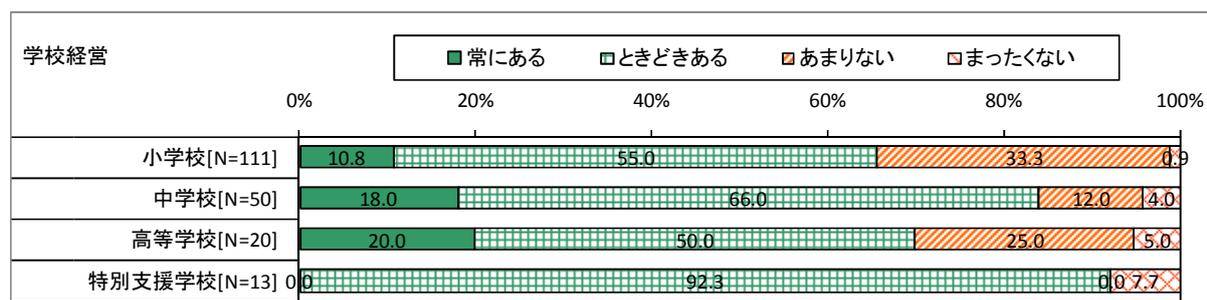
- 「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、学校規模が大きいほど多い傾向が見られる。
- 「書類作成」に強いストレスを感じる割合は、「常にある」「ときどきある」の合計回答割合を見ると学校規模による差は見られないが、「常にある」については大規模校が小規模校・中規模校の2倍以上である。(学校規模については、小学校・中学校・高等学校いずれも、11学級以下を小規模、12学級以上18学級以下を中規模、19学級以上を大規模とする。)
- 「業務の量」に強いストレスを感じる割合は、「常にある」「ときどきある」の合計回答割合を見ると中規模校がもっとも多いが、「常にある」については学校規模が大きいほど多い傾向が見られる。



(2) 学校種別

【結果概要】

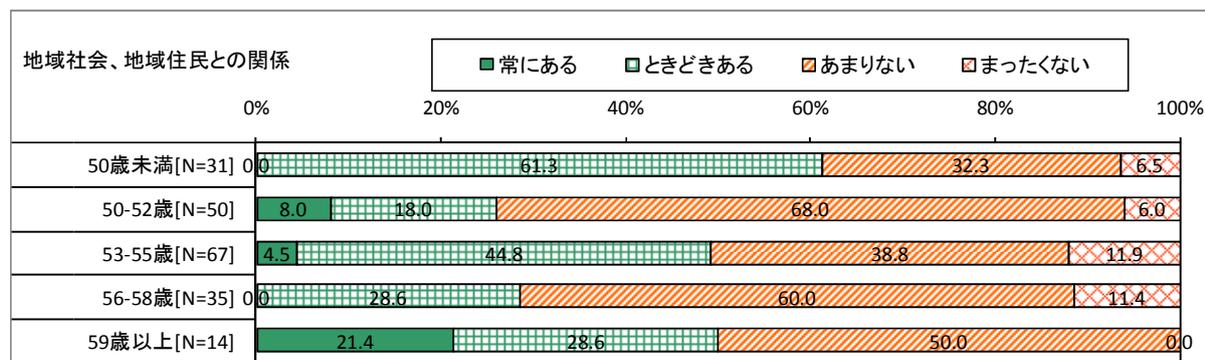
- 「学校経営」「上司とのコミュニケーション」に強いストレスを感じる割合は、特別支援学校がもっとも多い。
- 「部下とのコミュニケーション」に強いストレスを感じる割合は、高等学校がもっとも多い。
- その他の事項については、学校種による有意差は見られない。



(3) 年代別

【結果概要】

- 「地域社会、地域住民との関係」に強いストレスを感じる割合は、50歳未満がもっとも多い。ただし、「常にある」については、59歳以上がもっとも多い。
- その他の事項については、年代による有意差は見られない。



(4) 男女別

【結果概要】

- いずれの事項についても、性別による有意差は見られない。

(5) 現職別

【結果概要】

- いずれの事項についても、現職（副校長か教頭か）による有意差は見られない。

(6) 副校長・教頭経験年数別

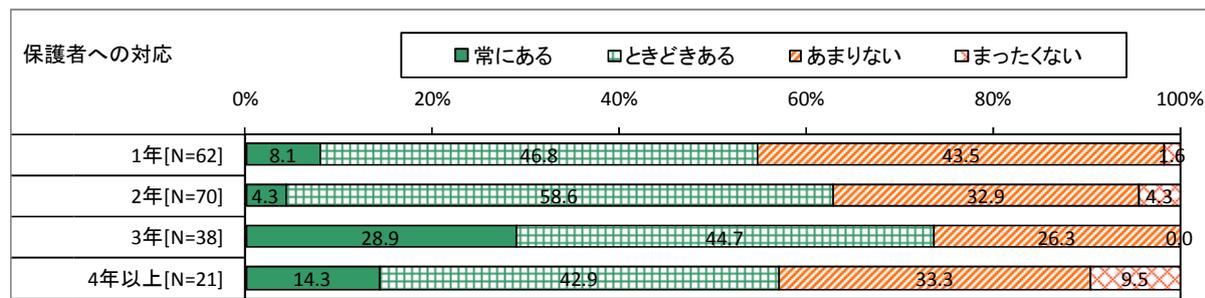
【結果概要】

- いずれの事項についても、副校長・教頭経験年数による有意差は見られない。

(7) 現任校在籍年数別

【結果概要】

- 「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、現任校在籍年数3年がもっとも多く、1年がもっとも少ない。
- その他の事項については、現任校在籍年数による有意差は見られない。



(8) 平均入校時間別

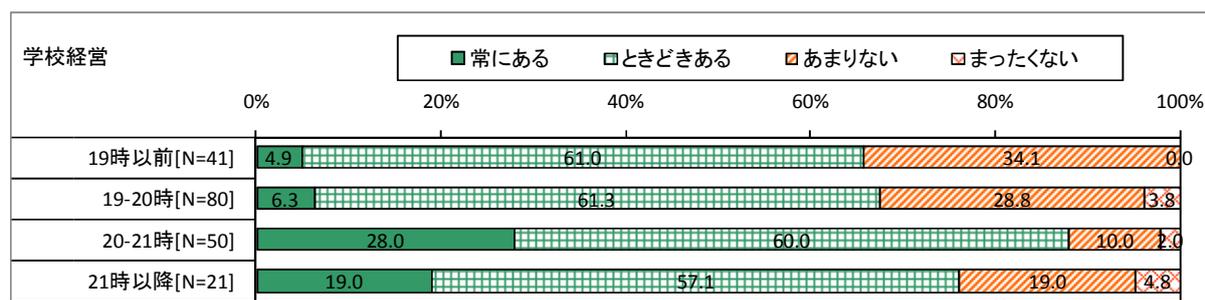
【結果概要】

- いずれの事項についても、平均入校時間による有意差は見られない。

(9) 平均退校時間別

【結果概要】

- 「学校経営」に強いストレスを感じる割合は、平均退校時間 20 時以降が 20 時以前よりも多い。
- その他の事項については、平均退校時間による有意差は見られない。



2. 多変量解析結果(ストレス状況に影響を与える要因)

(0) 方法

- 調査対象のストレス状況 (Q1-1) の回答より、総合的なストレス得点を算出
(各項目につき標準得点を算出し、全項目の標準得点を合算。得点が高いほどストレスが強い。)
- ストレス得点を従属変数、フェイス項目、ストレス軽減方法、職場の雰囲気、職場の雰囲気づくりに関する取組、教職員としての理想像に関する主要項目を説明変数として、多変量解析(回帰分析)を実施(他の変数をコントロールしてもなお有意に影響を与える要因を抽出)
- 解析結果を表形式で整理(有意にストレスを弱めている変数は青色、強めている変数は赤色)

(1) 結果一覧

説明変数		ストレス得点			
		B	β	有意確率	
【結果概要】					
<ul style="list-style-type: none"> ストレスを有意に強める変数は、「小学校勤務」「中学校勤務」「異業種の友人とのストレスについての相談(頻度が高い)」の3つ。(ストレスについての相談(頻度)は、逆のベクトルの可能性あり) ストレスを有意に弱める変数は、「小規模校勤務」「中規模校勤務」「旅行・娯楽でストレス解消」「自校の校長との相談しやすさ」「自校の教職員との相談しやすさ」の5つ。 					
フェイス項目	小規模校ダミー	-3.232	-.227	.023	
	中規模校ダミー	-3.180	-.203	.042	
	小学校ダミー	5.349	.374	.040	
	中学校ダミー	5.268	.329	.048	
	高校ダミー	3.132	.136	.273	
	年齢	.059	.028	.757	
	男性ダミー	1.894	.105	.221	
	校長昇任後の経験年数	-.430	-.226	.241	
	校長昇任後の勤務校数	.613	.105	.573	
	現任校への在籍年数	1.075	.154	.084	
	平均入校時間	.361	.043	.568	
	平均退校時間	.867	.125	.113	
	ストレスについての相談	自校の校長	.942	.124	.153
		他校の校長、副校長、教頭	-.815	-.096	.289
自校の校長以外の教職員		.810	.096	.298	
家族		.450	.061	.460	
同業種の友人		1.213	.149	.097	
異業種の友人		2.079	.227	.017	
医療機関		-.764	-.055	.499	
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー		-1.375	-.075	.417	
教育委員会等が設置する相談窓口		.711	.031	.729	
ストレス解消方法	休養をとりよくねむる	.930	.061	.404	
	趣味としていることをする	-.466	-.033	.657	
	親しい人と話をする	-1.729	-.112	.165	
	旅行・娯楽を楽しむ	-2.458	-.170	.024	
	好物を飲食する	1.444	.100	.168	
職場の雰囲気	職場内の雰囲気(明るさ)	.334	.025	.811	
	教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気	-1.608	-.128	.269	
	職場における教職員とのコミュニケーション	.135	.009	.919	
	自校の校長との相談しやすさ	-2.041	-.190	.022	
	自校の副校長、教頭(自身)との相談しやすさ	.399	.026	.785	
職場の雰囲気づくり	自校の教職員との相談しやすさ	-4.663	-.313	.001	
	定時退校日や部活動休養日などの設定	.267	.019	.804	
	自校の教職員のストレスの状況の把握	.549	.035	.672	
	職場を離れての教職員とのコミュニケーション	-1.353	-.135	.082	
	日頃からの部下との会話	-1.227	-.059	.420	
	職場で仕事のノウハウや情報を共有する雰囲気	1.804	.125	.175	
	職場で業務の効率化などの改善を図る動き	-1.280	-.099	.232	
その他	部下の健康への配慮	-.082	-.005	.943	
	新規採用職員や異動で転入してきた職員がスムーズに学校へ適応するための配慮	-2.858	-.134	.069	
	教職員としての理想の強さ	1.794	.126	.097	
定数	4.863		.724		

決定係数 $R^2=0.43$ 、調整済み $R^2=0.26$

3. 教諭等

1. クロス分析結果(属性別ストレス状況)

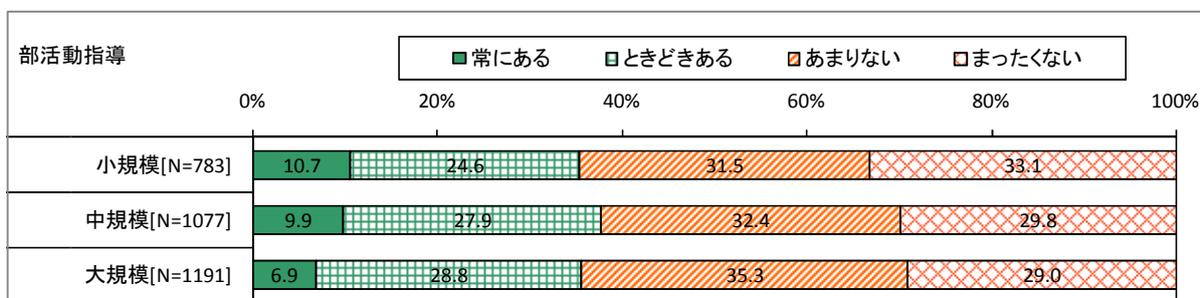
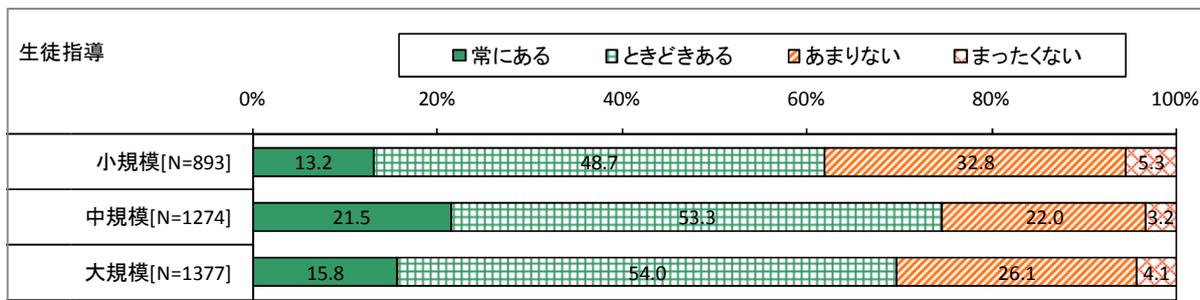
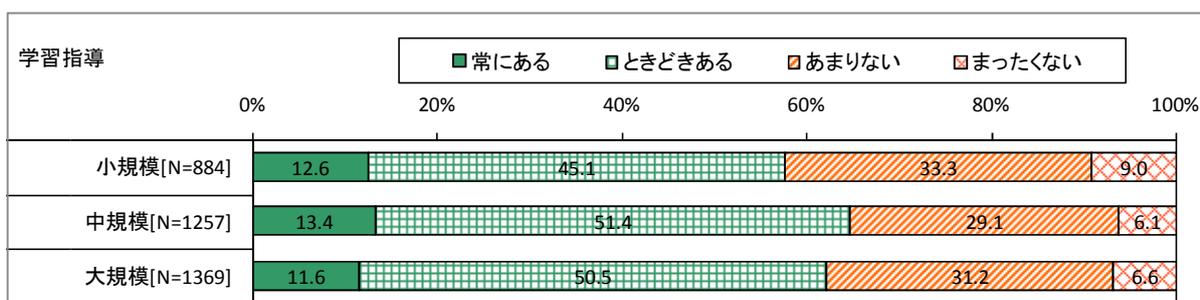
(0) 方法

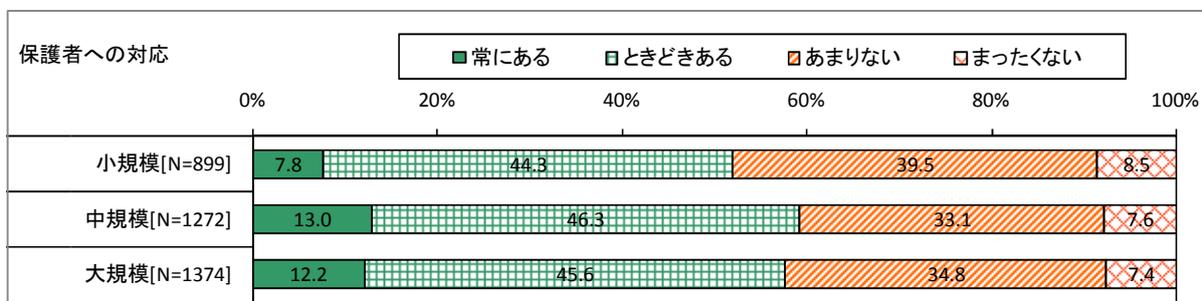
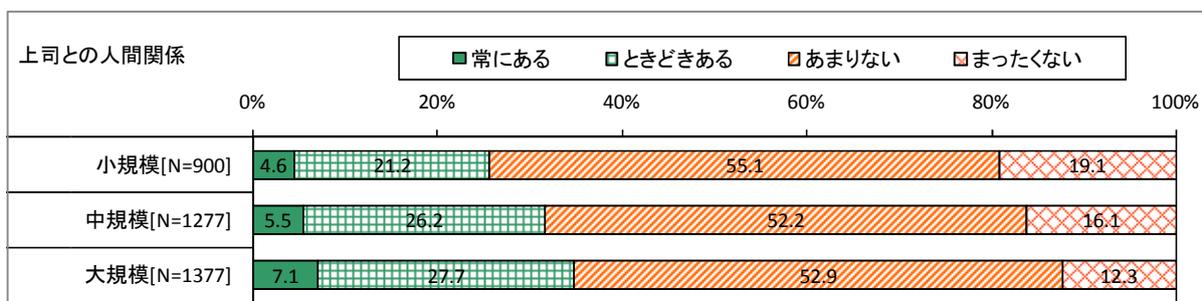
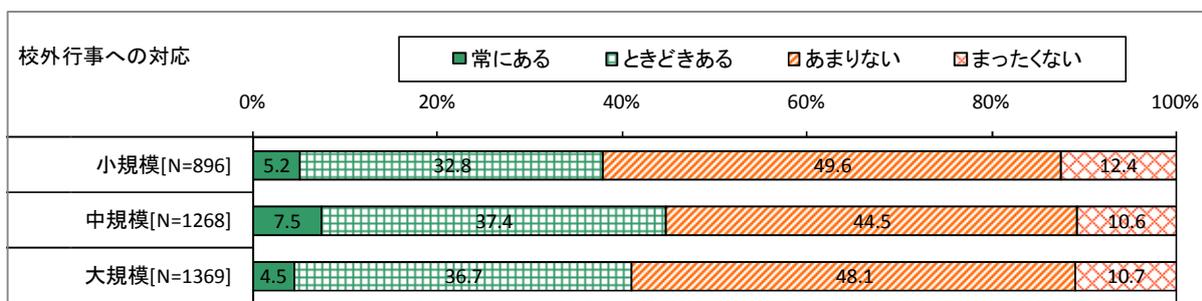
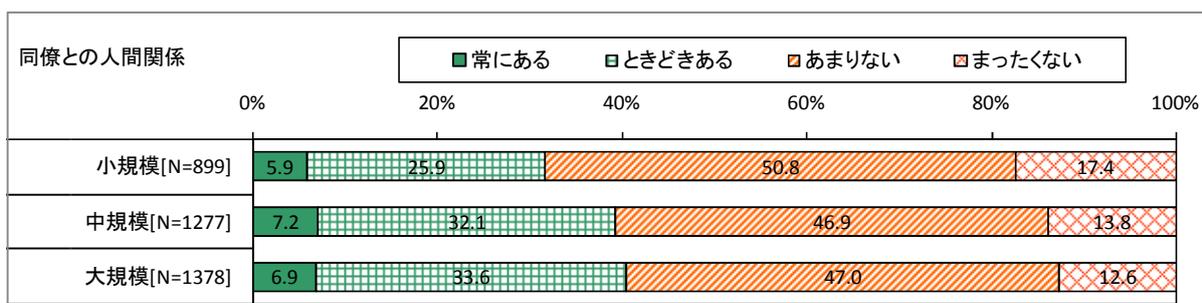
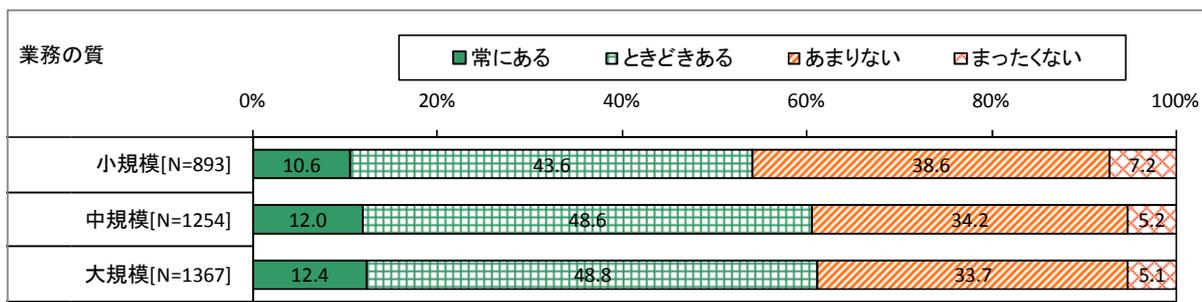
- ストレス状況 (Q1-1) に関する各設問項目について、主要なフェイス項目別に集計
- 統計的に有意な差 (5%水準) が見られた結果を抽出

(1) 学校規模別

【結果概要】

- 「学習指導」「生徒指導」「部活動指導」「校外行事への対応」「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、中規模校、大規模校、小規模校の順が多い。
- 「業務の質」「同僚との人間関係」「上司との人間関係」に強いストレスを感じる割合は、学校規模が大きいほど多い傾向が見られる。
- その他の事項については、学校規模による有意差は見られない。

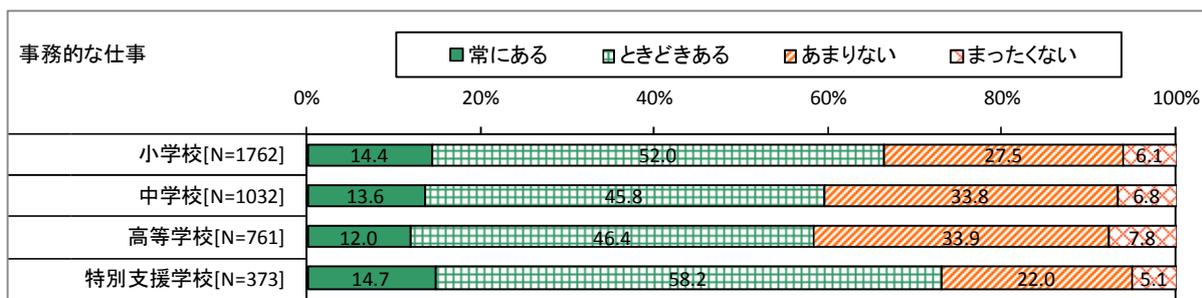
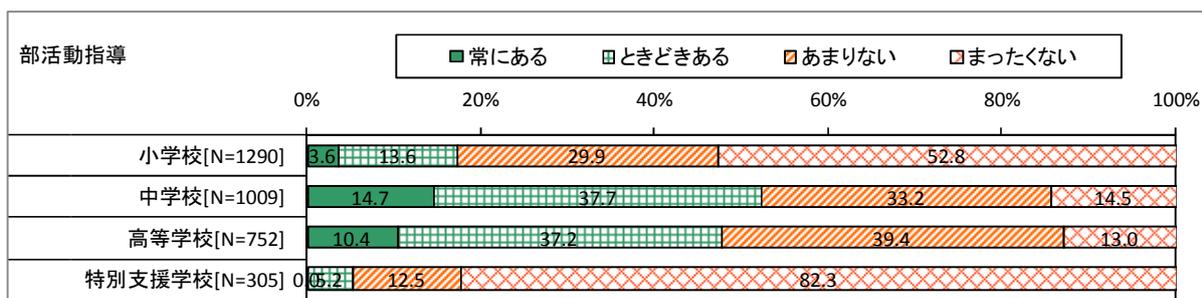
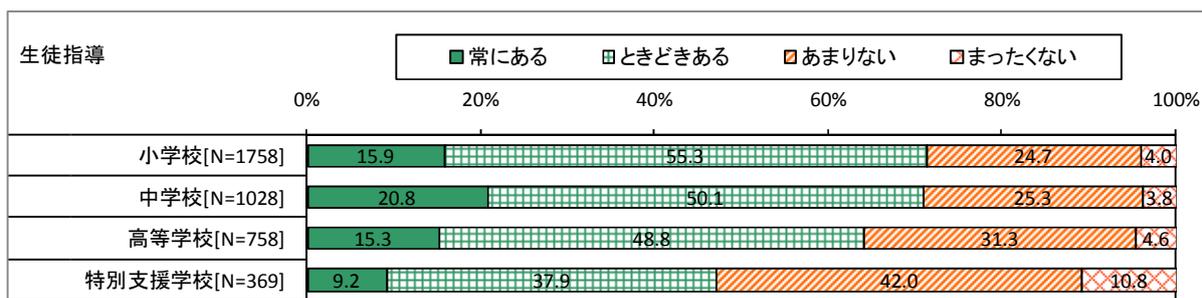
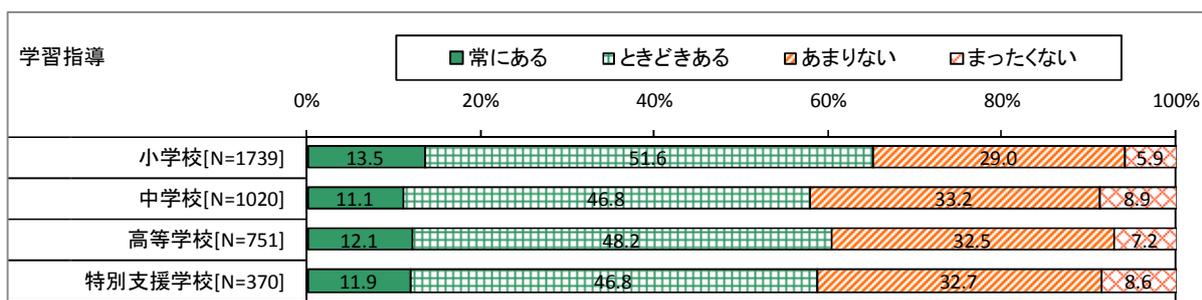


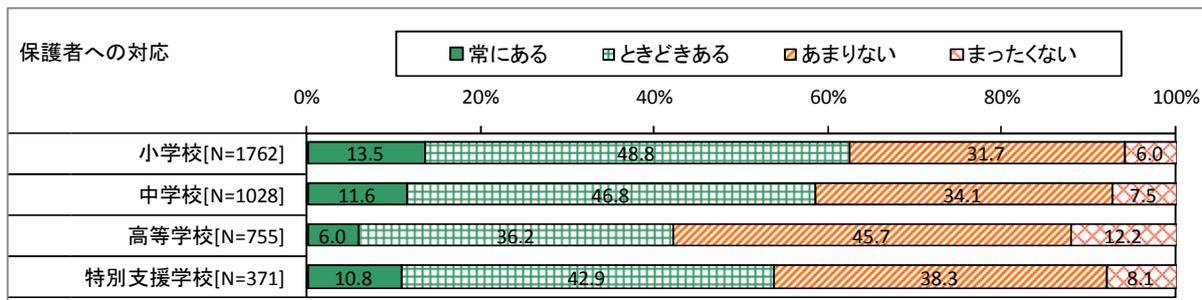
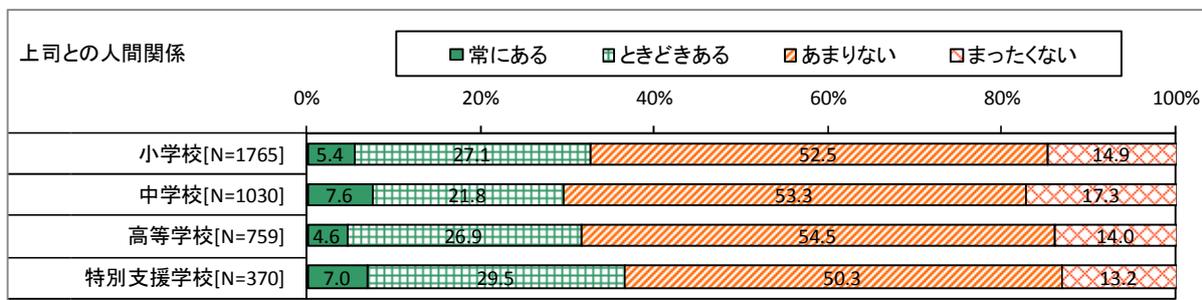
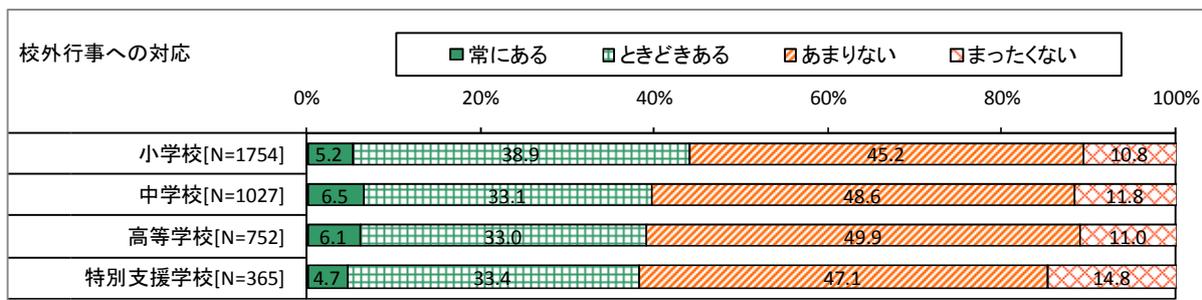
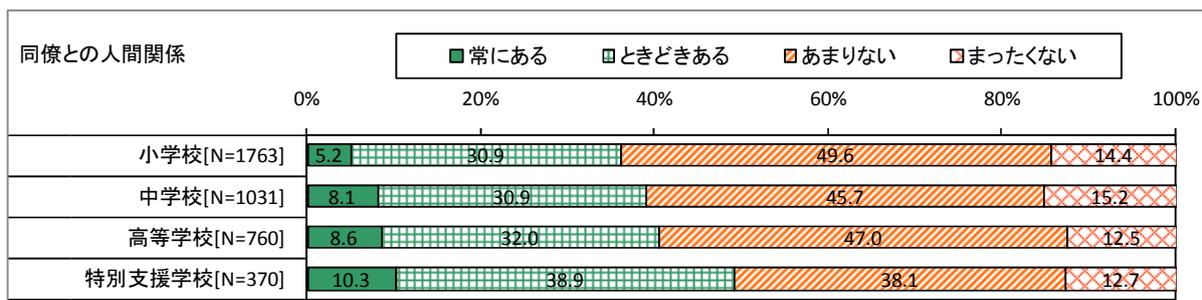
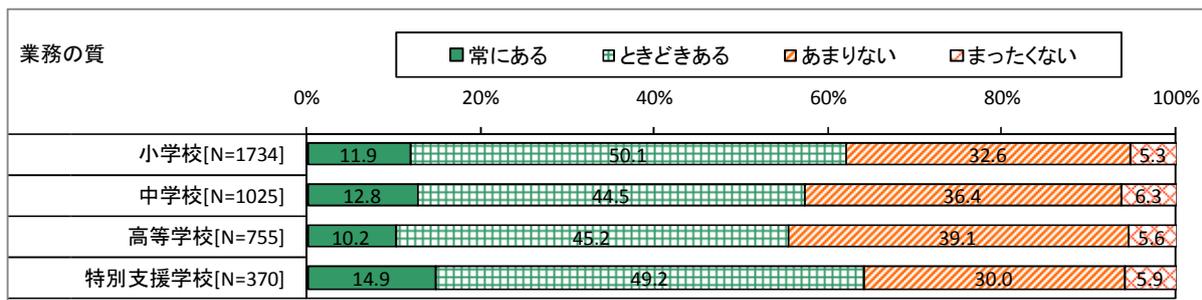


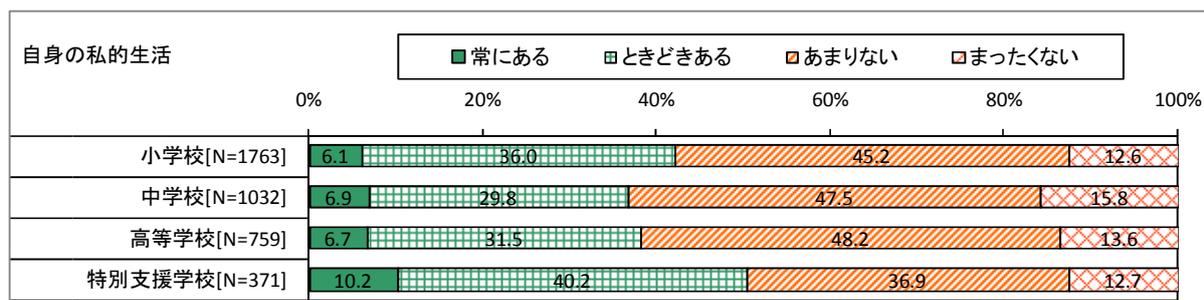
(2) 学校種別

【結果概要】

- 全ての事項について、学校種による有意差が見られる。
- 「学習指導」「生徒指導」「校外行事への対応」「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、小学校がもっとも多い。
- 「部活動指導」に強いストレスを感じる割合は、中学校がもっとも多い。
- 「事務的な仕事」「業務の質」「同僚との人間関係」「上司との人間関係」「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、特別支援学校がもっとも多い。



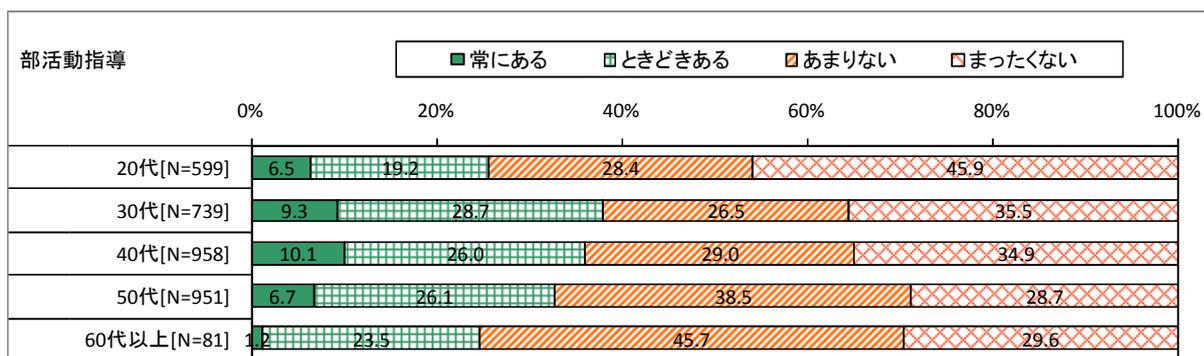
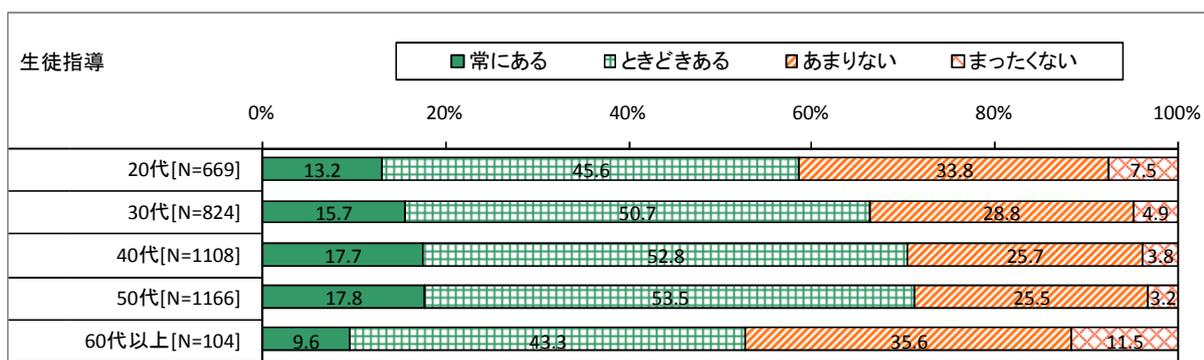
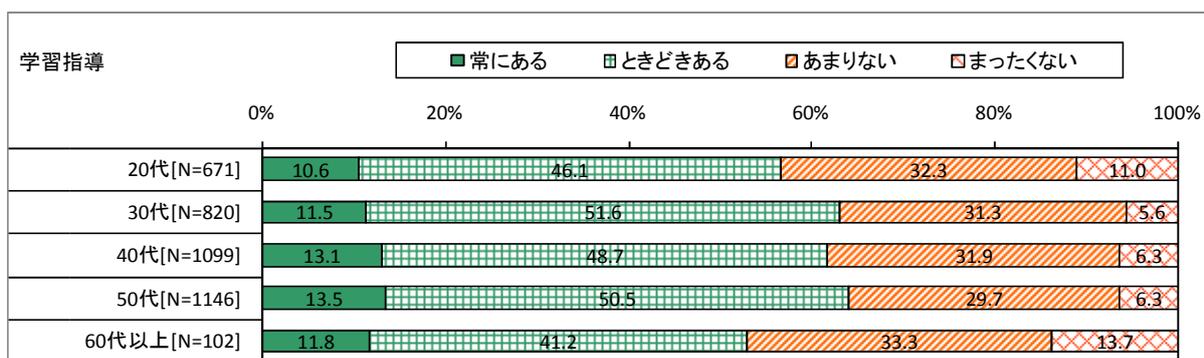


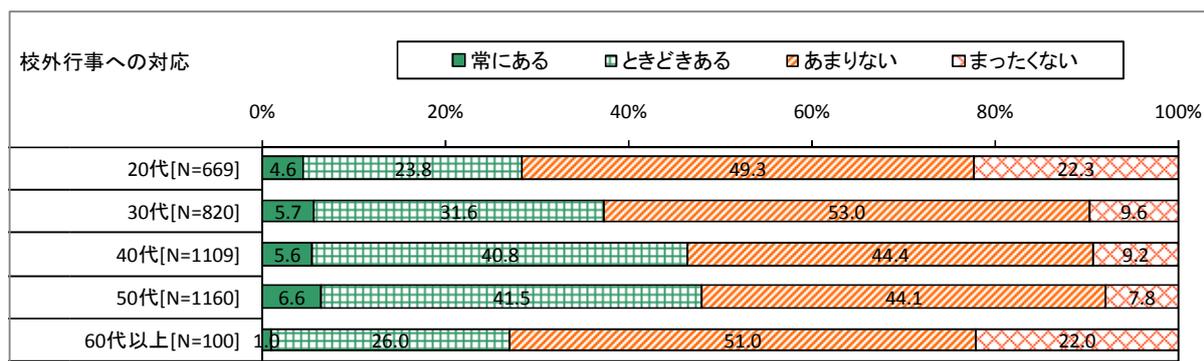
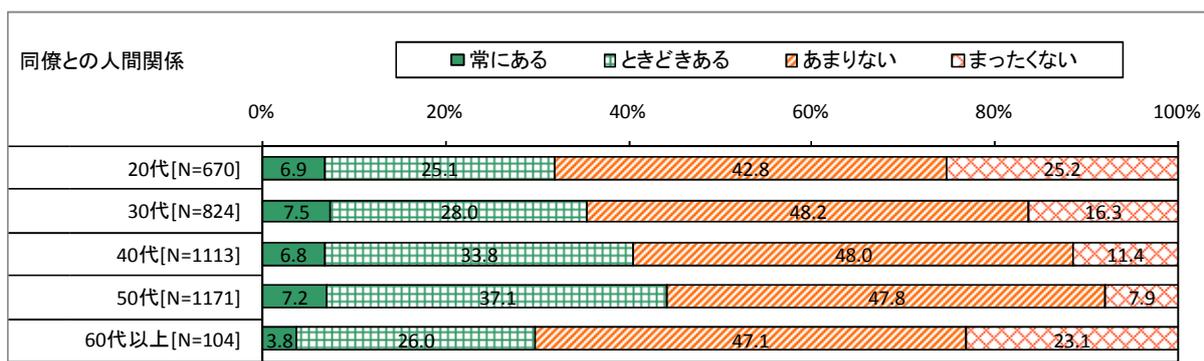
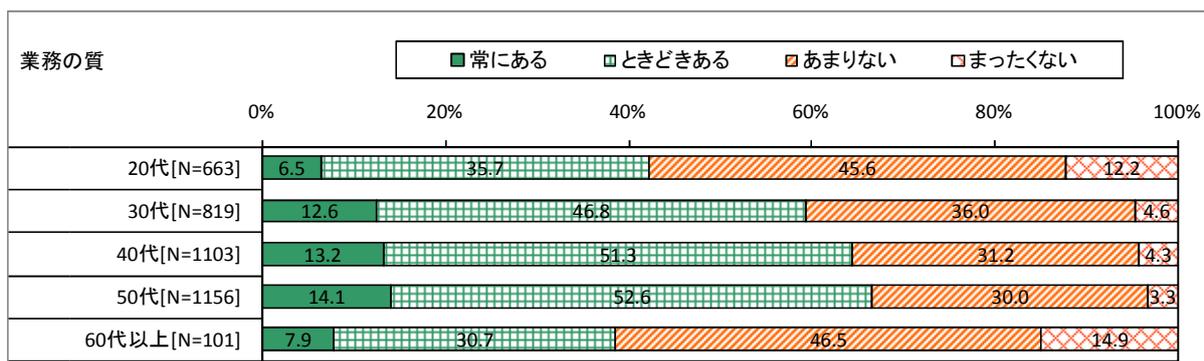
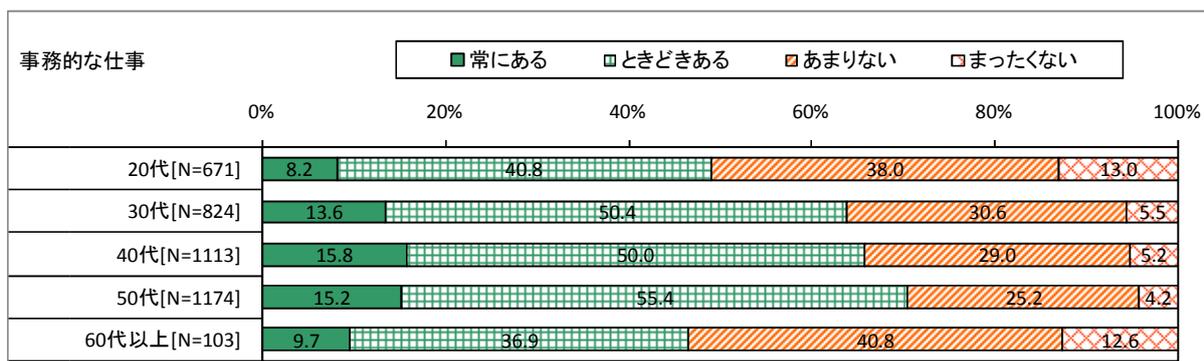


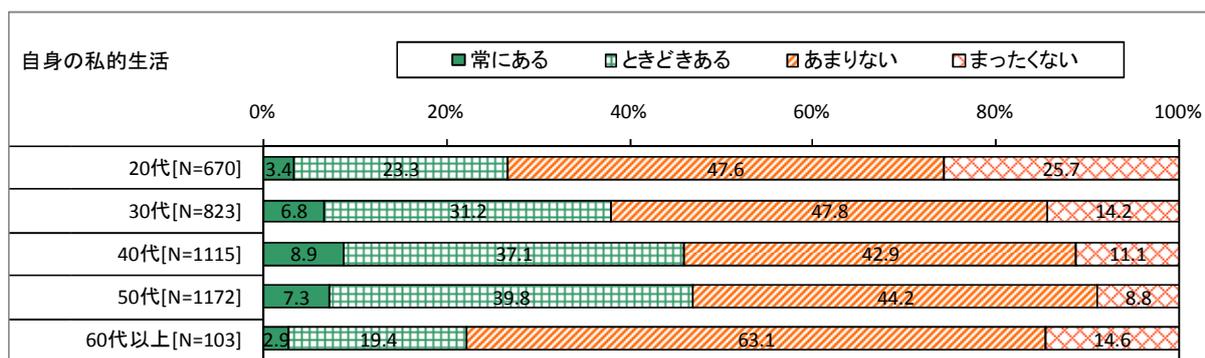
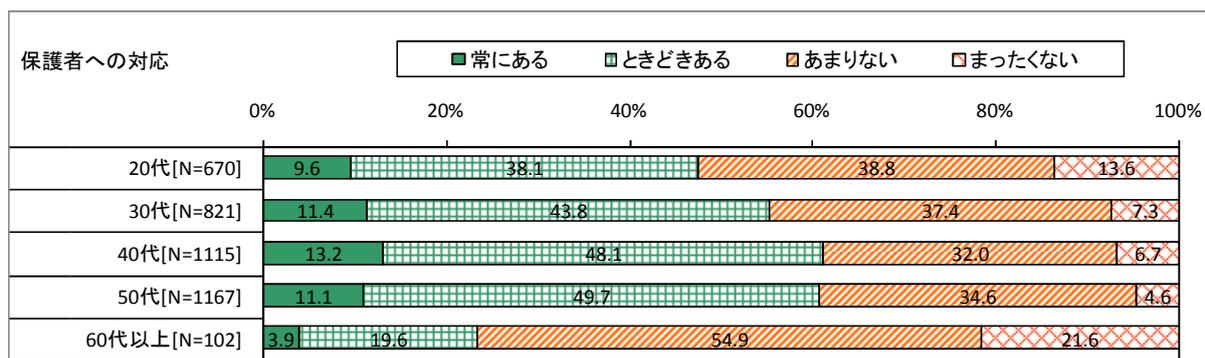
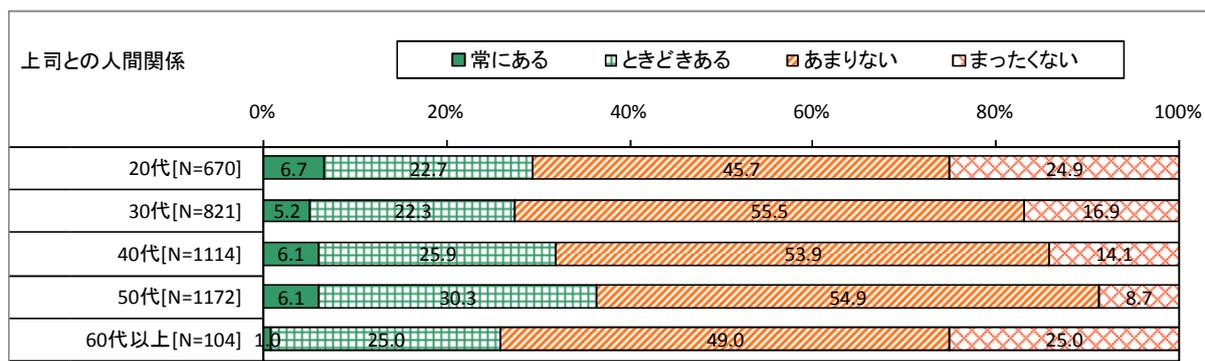
(3) 年代別

【結果概要】

- 全ての事項について、年代による有意差が見られる。
- いずれの事項についても、強いストレスを感じる割合は、60代以上がもっとも少なく、その他は全体的に年代が高いほど多い傾向が見られる。ただし「部活動指導」に強いストレスを感じる割合は、30代をピークに年代が低い/高いほど少ない傾向が見られる。



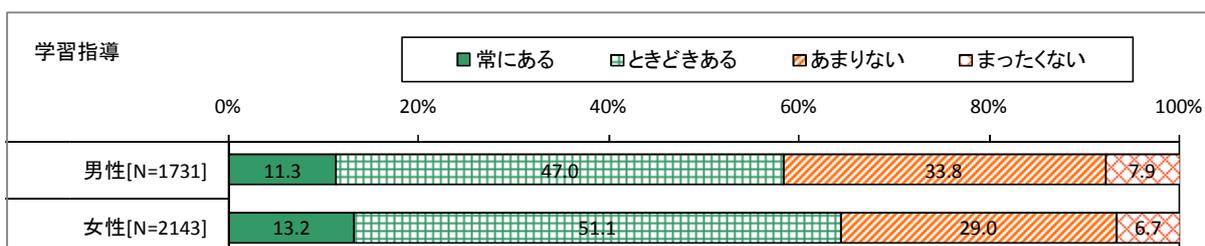


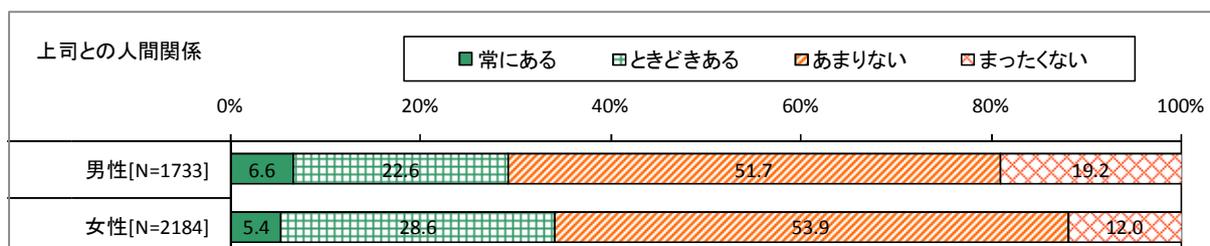
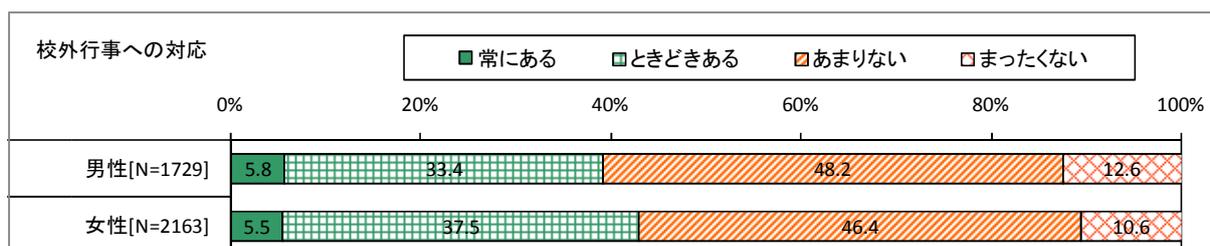
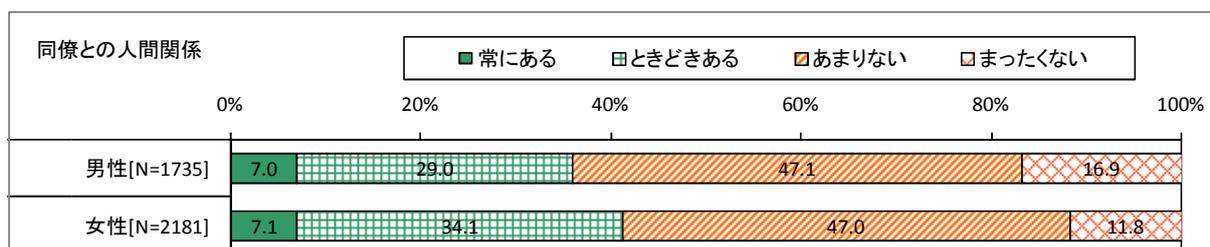
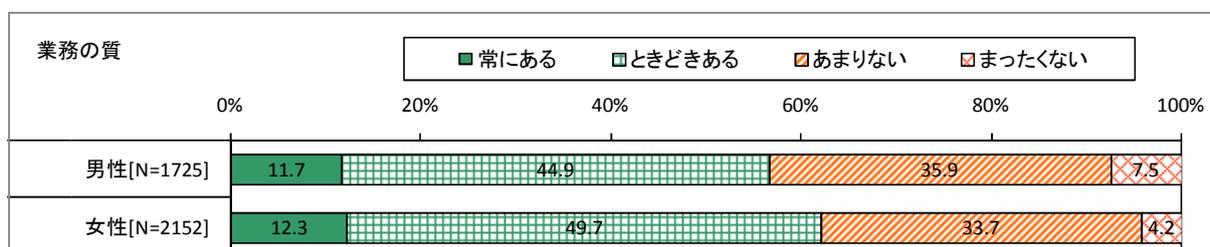
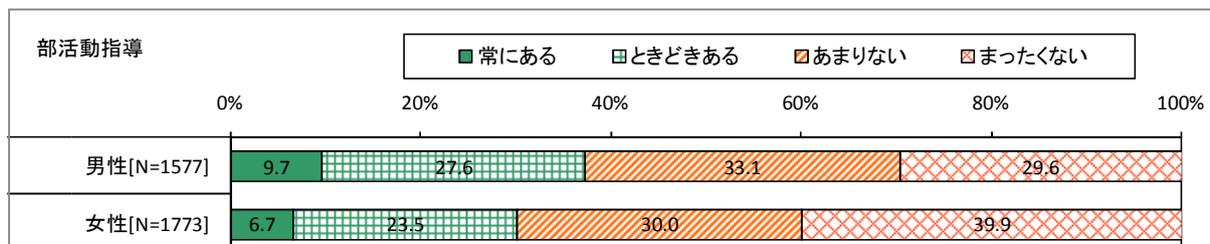
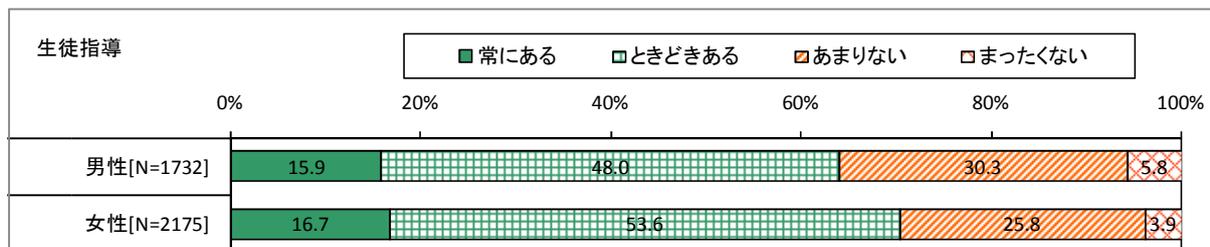


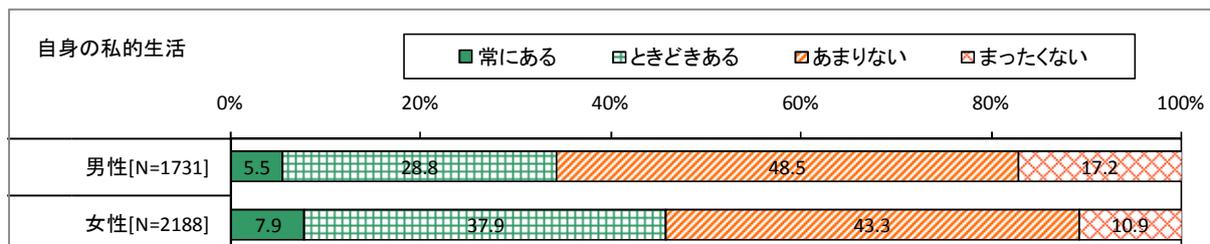
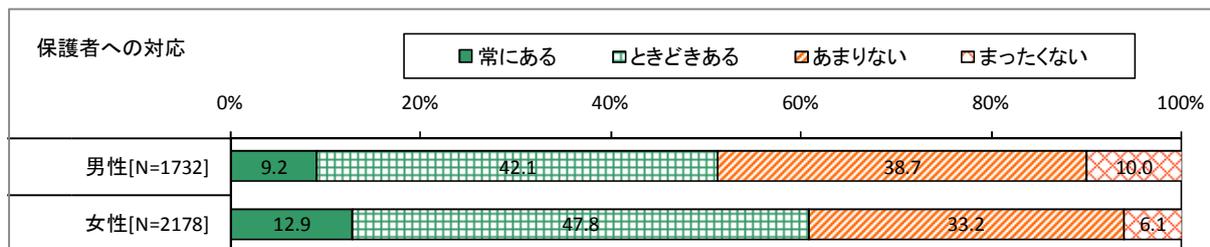
(4) 男女別

【結果概要】

- 「学習指導」「生徒指導」「業務の質」「同僚との人間関係」「校外行事への対応」「上司との人間関係」「保護者への対応」「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、女性の方が男性より多い。
- 「部活動指導」に強いストレスを感じる割合は、男性の方が女性より多い。
- 「事務的な仕事」については、性別による有意差は見られない。



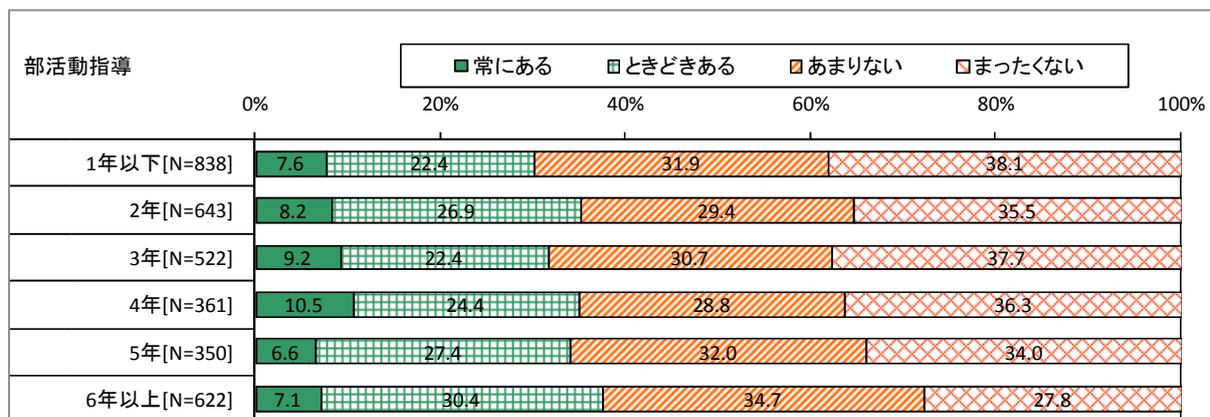
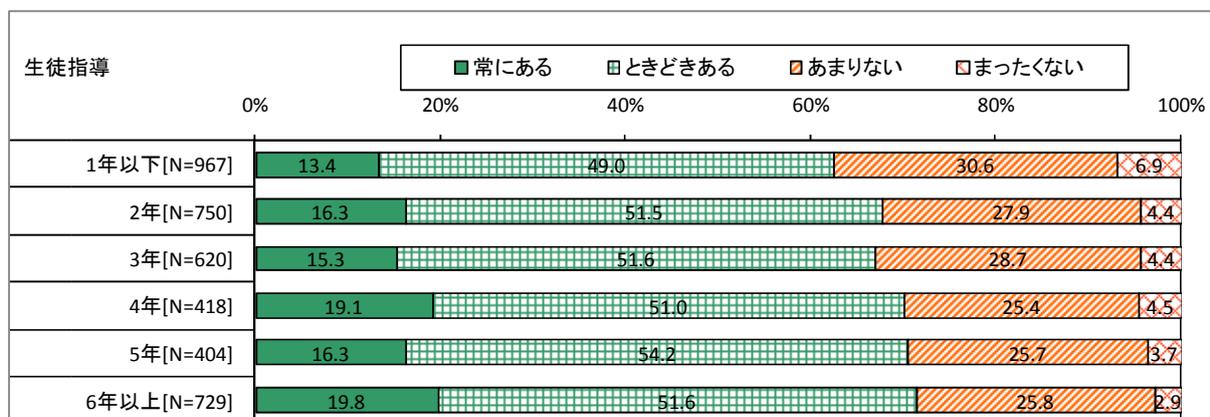


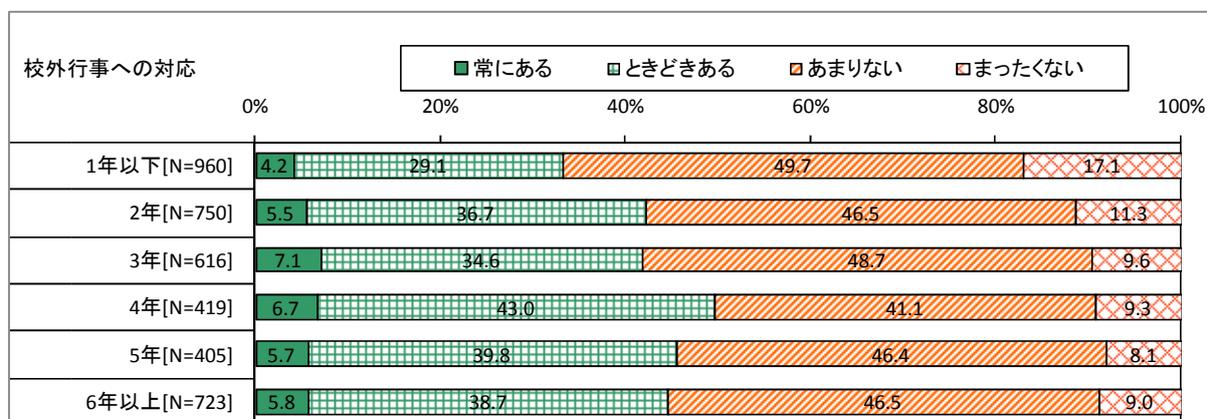
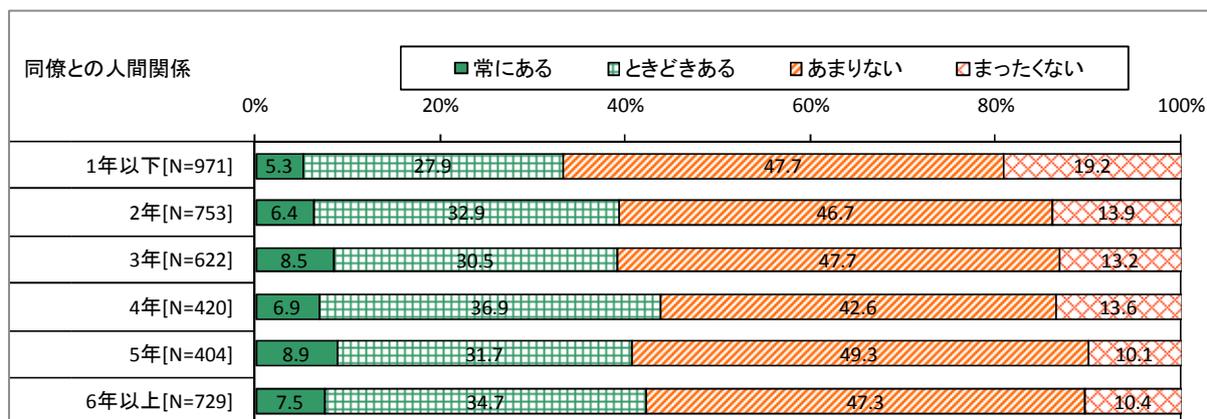
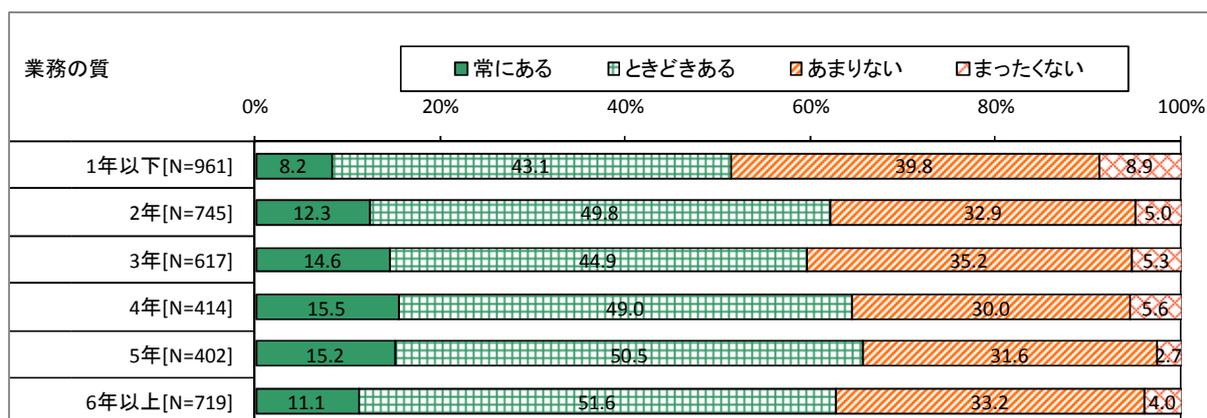
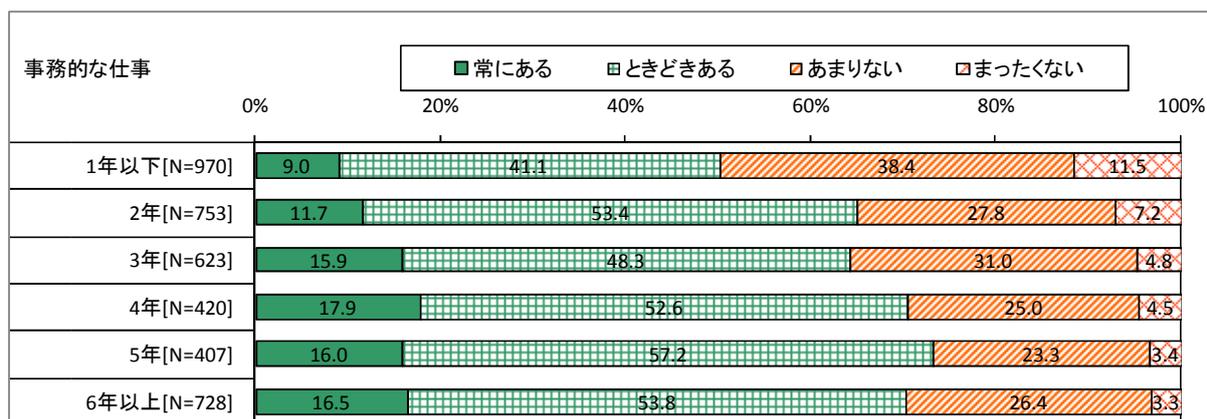


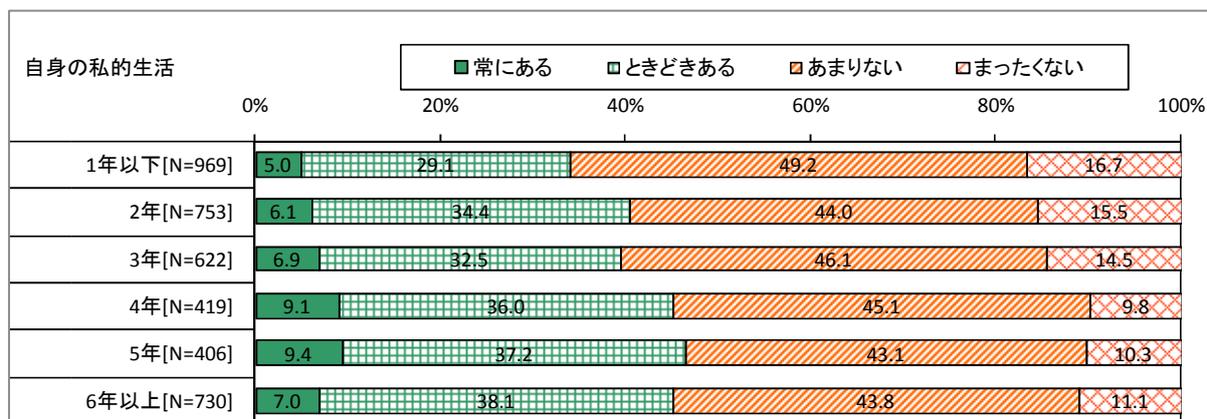
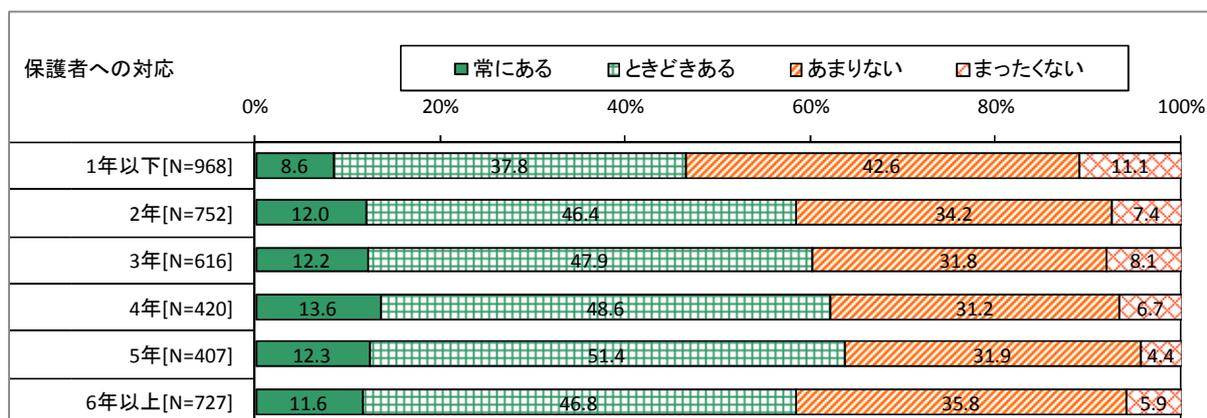
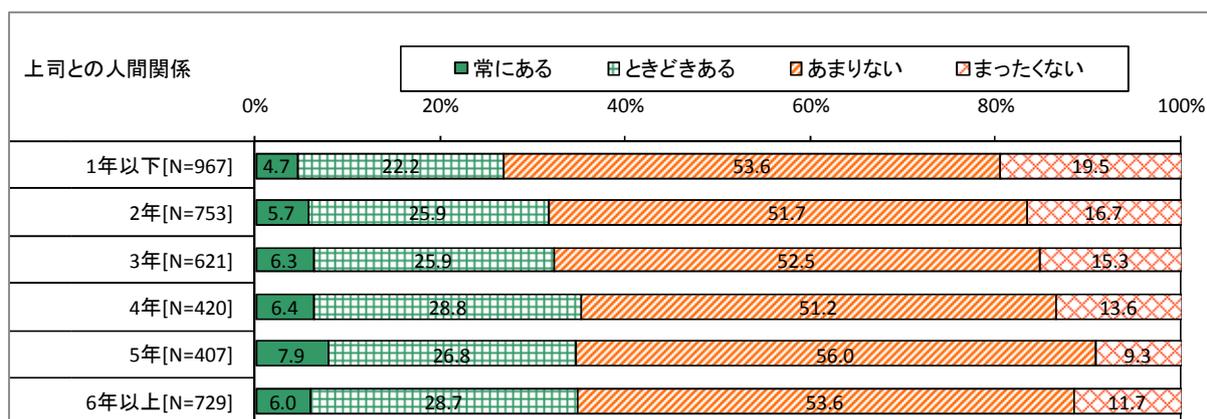
(5) 現任校在籍年数別

【結果概要】

- 「生徒指導」「部活動指導」「事務的な仕事」「業務の質」「同僚との人間関係」「校外行事への対応」「上司との人間関係」「保護者への対応」「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、全体的に現任校在籍年数が長いほど多い傾向が見られる。
- 「学習指導」については、現任校在籍年数による有意差は見られない。



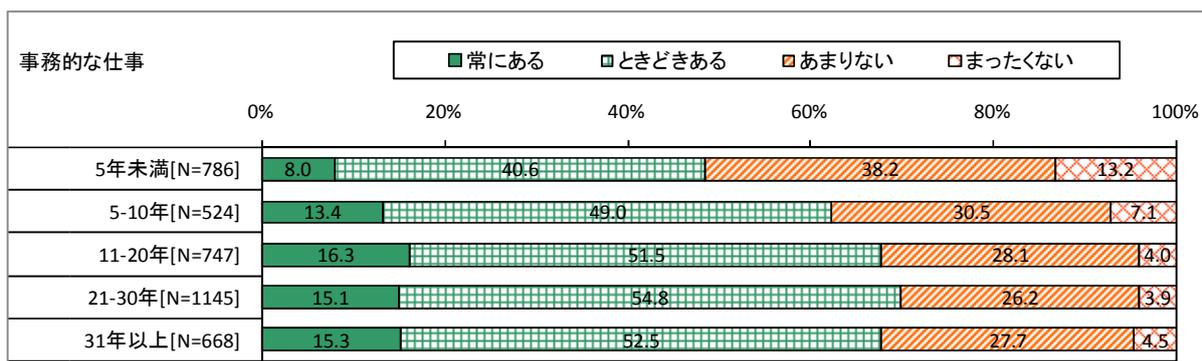
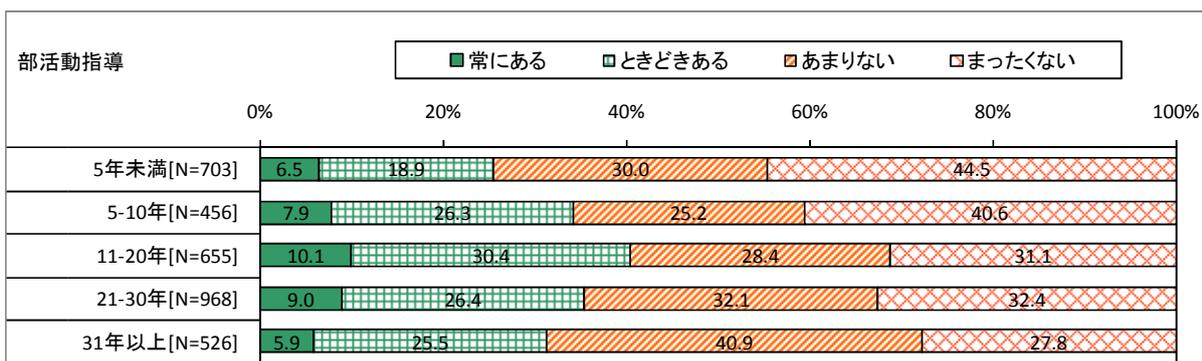
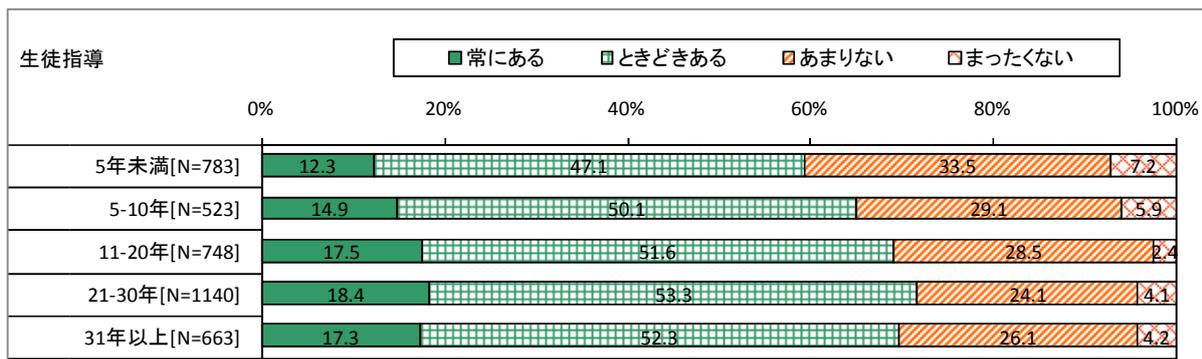
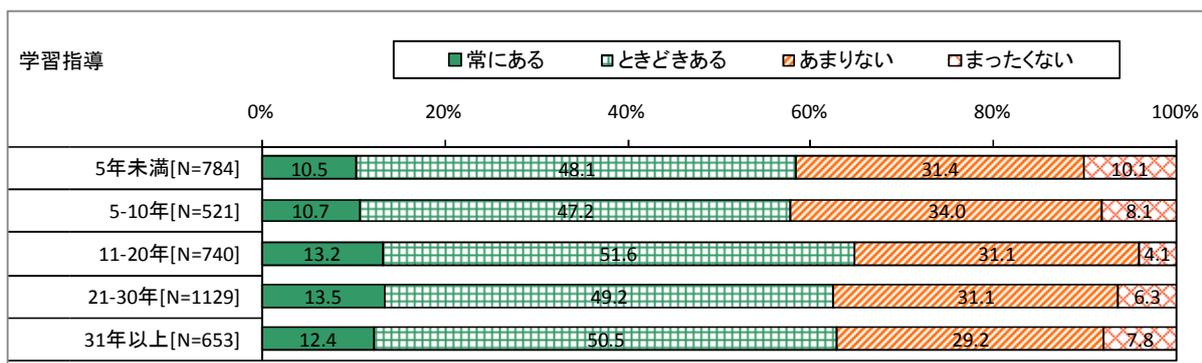


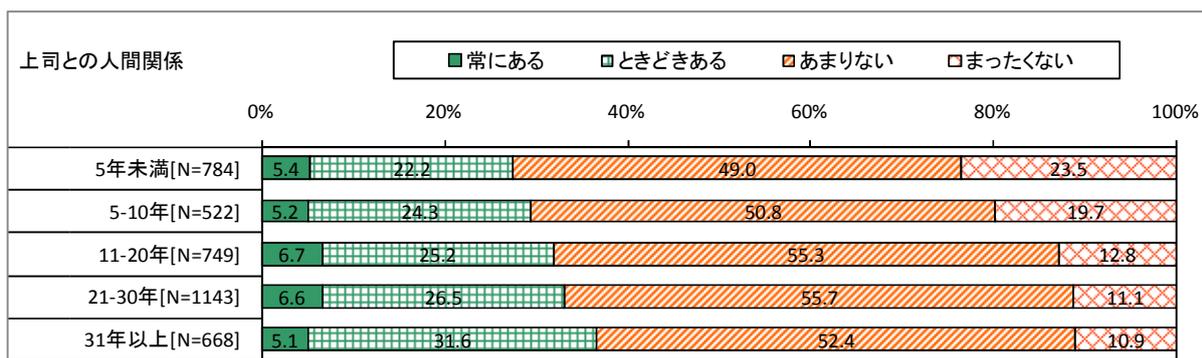
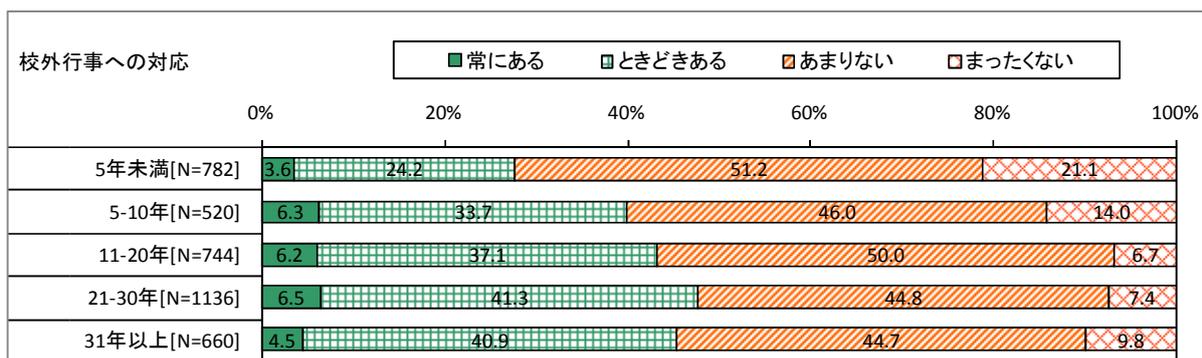
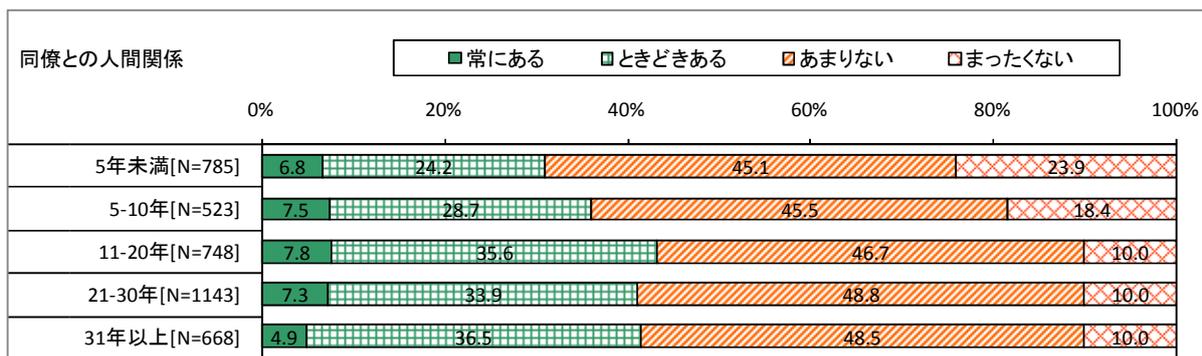
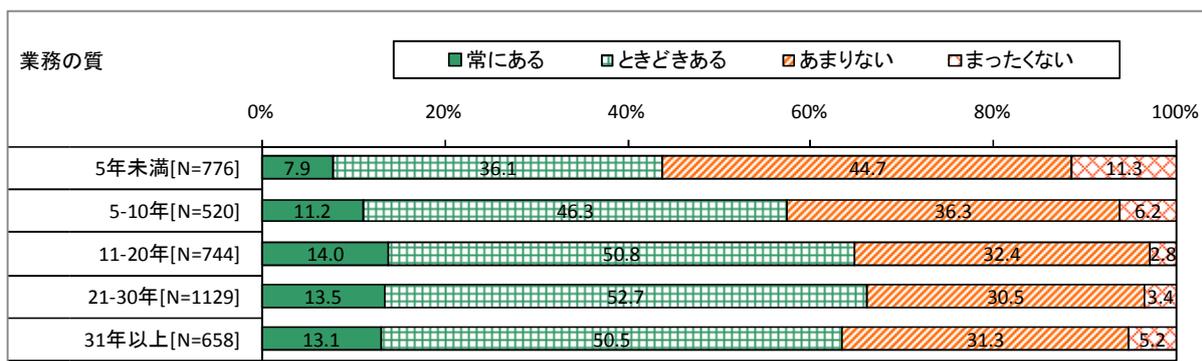


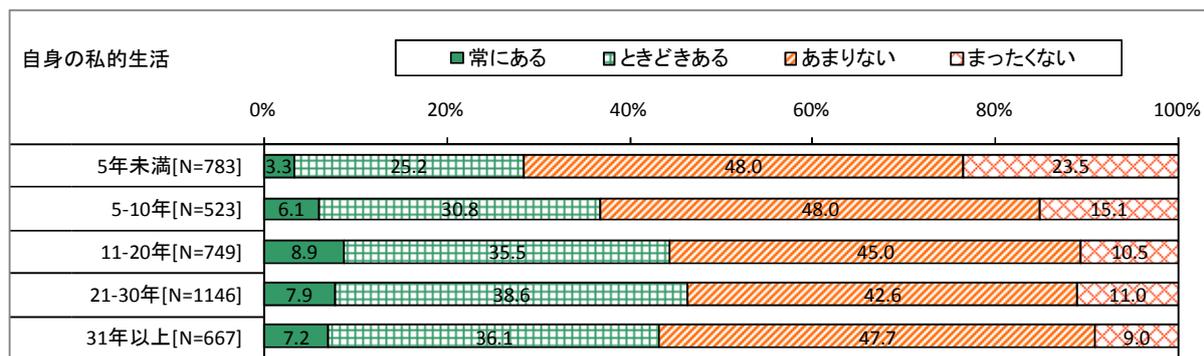
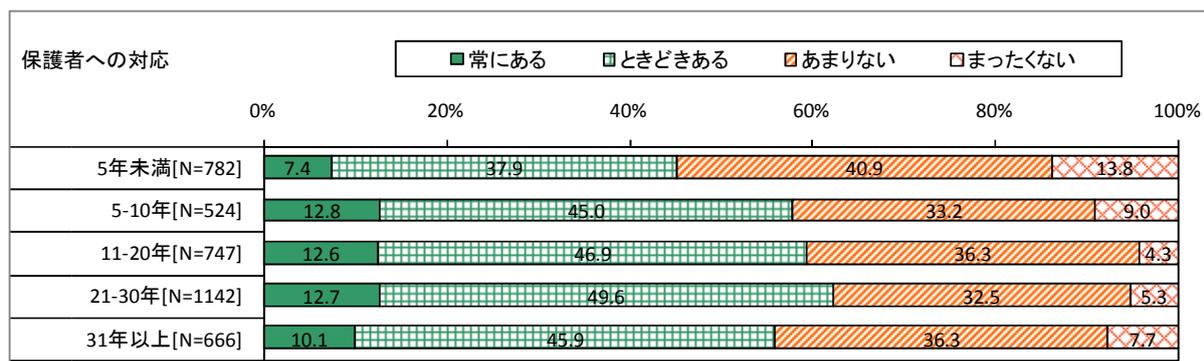
(6) 教職経験年数別

【結果概要】

- 全ての事項について、教職経験年数による有意差が見られる。
- いずれの事項についても、強いストレスを感じる割合は、教職経験年数 31 年以上を除いて、全体的に年数が長いほど多い傾向が見られる。ただし「部活動指導」に強いストレスを感じる割合は、11-20 年をピークに年数が短い/長いほど少ない傾向が見られる。



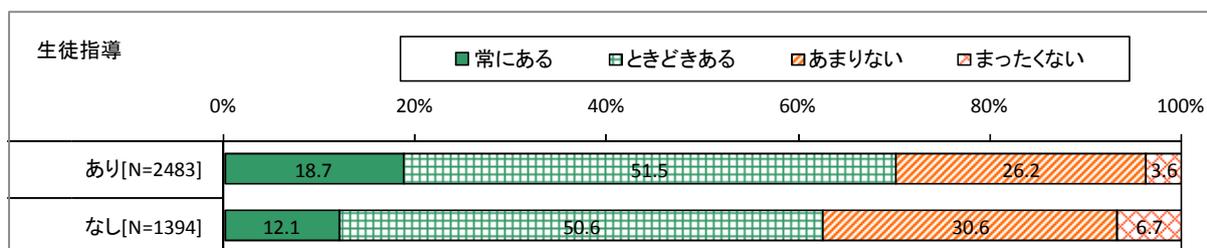
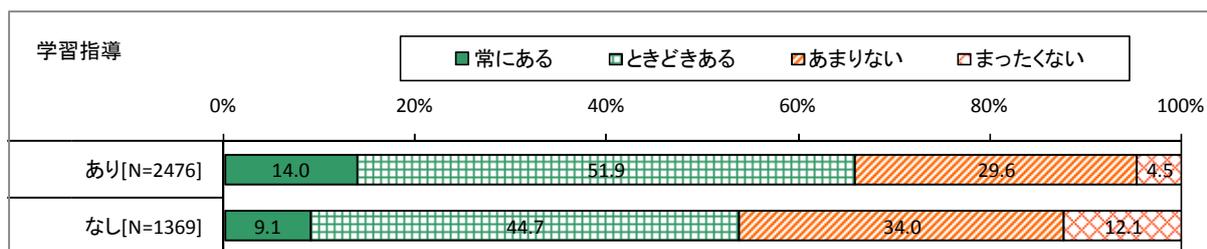


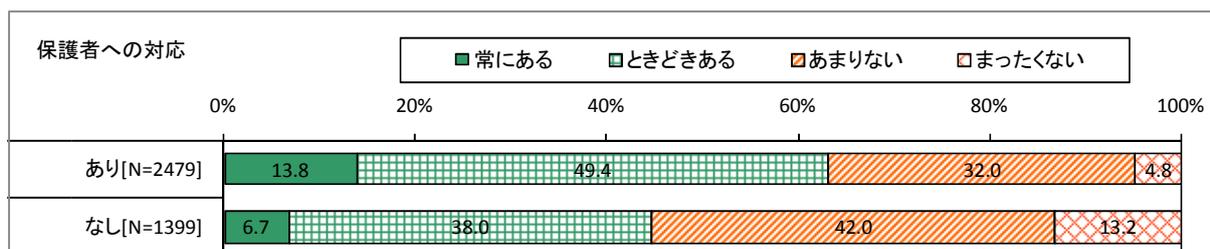
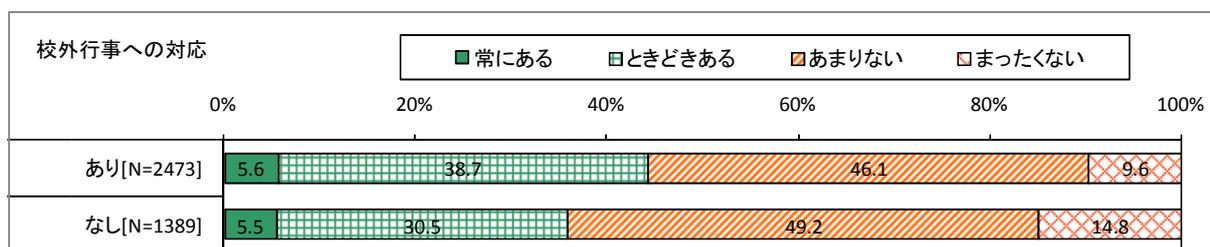
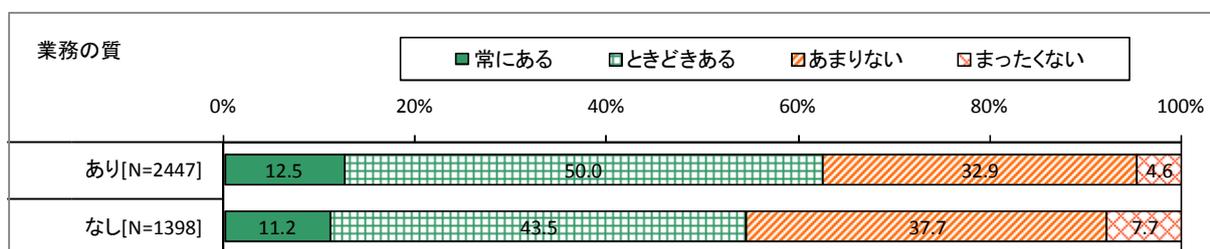
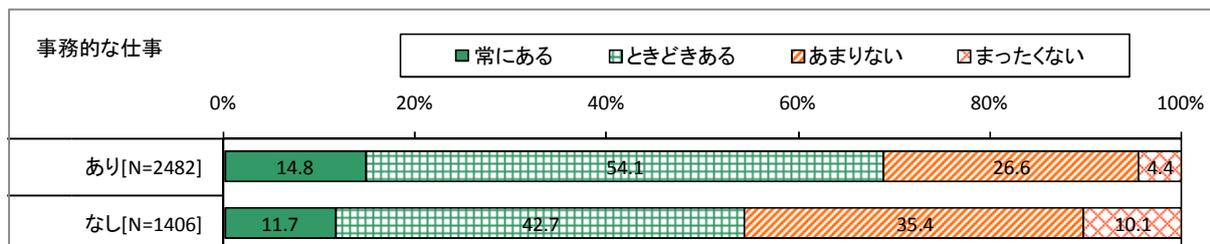
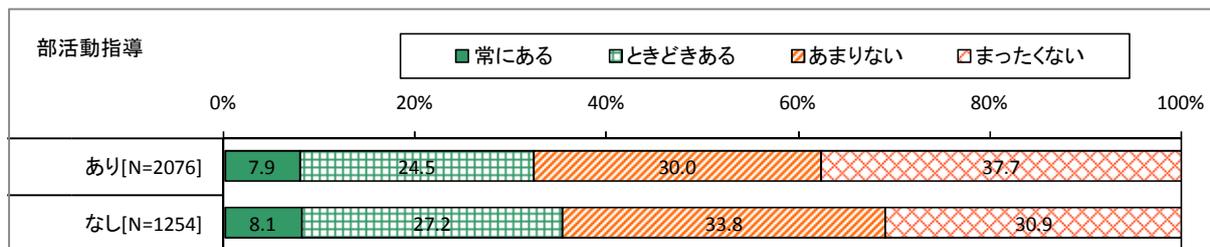


(7) 学級担任有無別

【結果概要】

- 「学習指導」「生徒指導」「事務的な仕事」「業務の質」「校外行事への対応」「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、学級担任有りの方が無しより多い。
- 「部活動指導」に強いストレスを感じる割合は、学級担任無しの方が有りより多い。
- その他の事項については、学級担任有無による有意差は見られない。

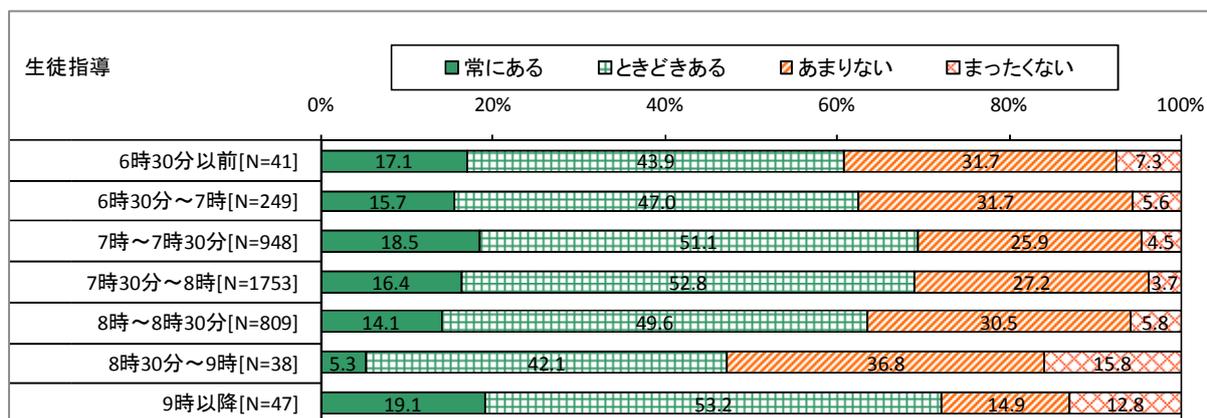
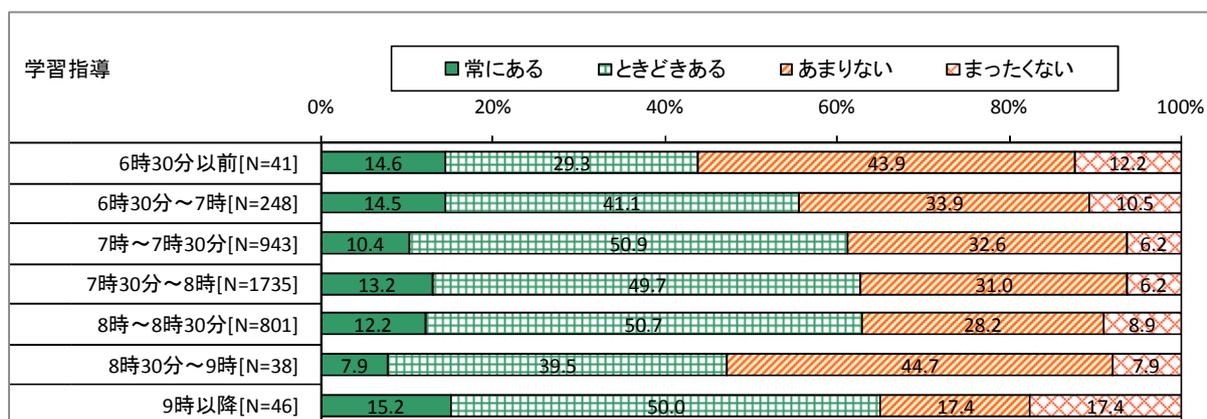


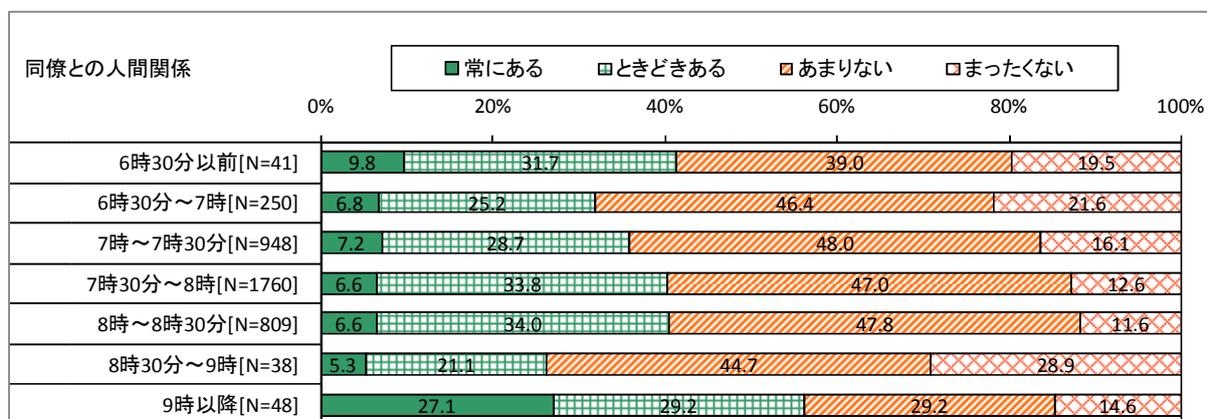
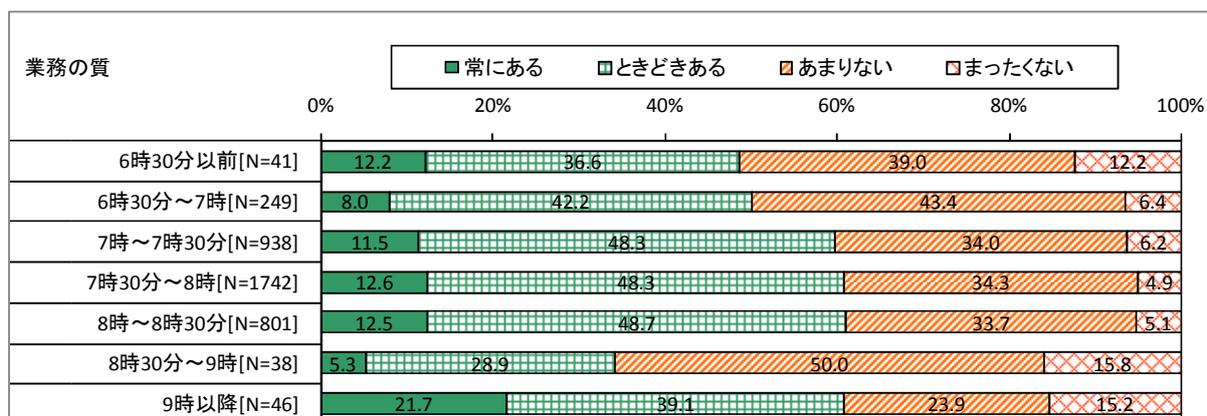
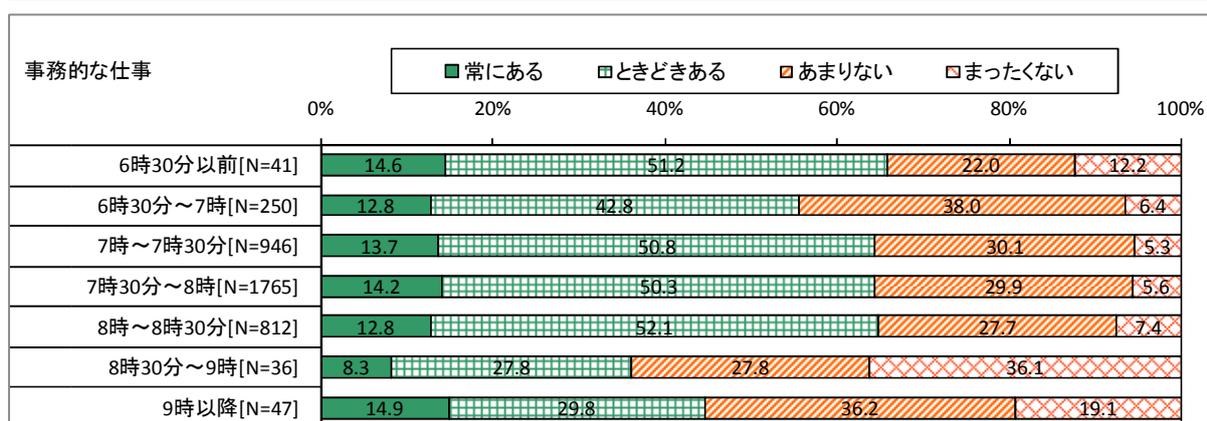
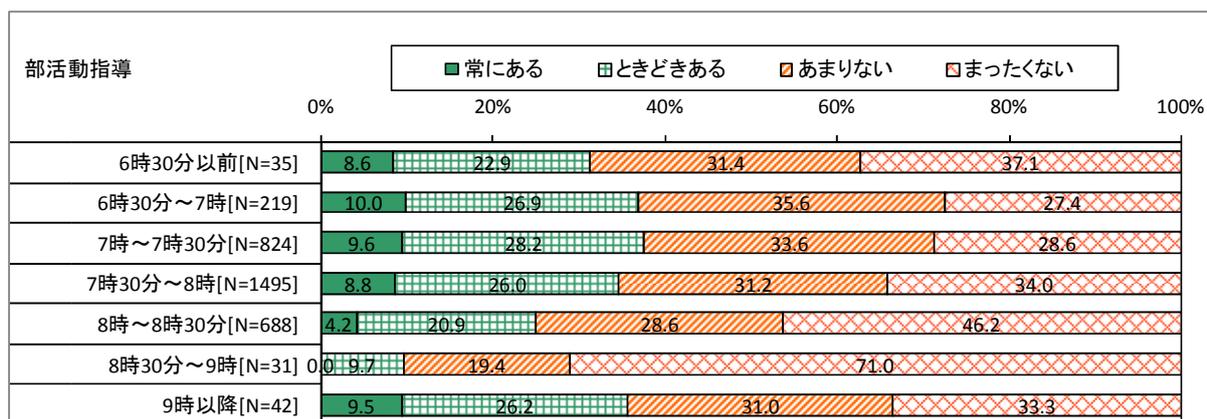


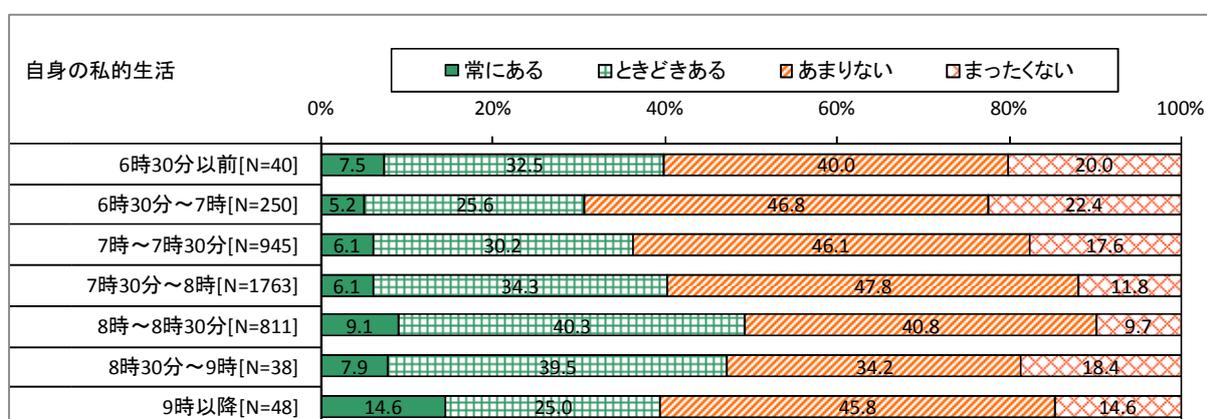
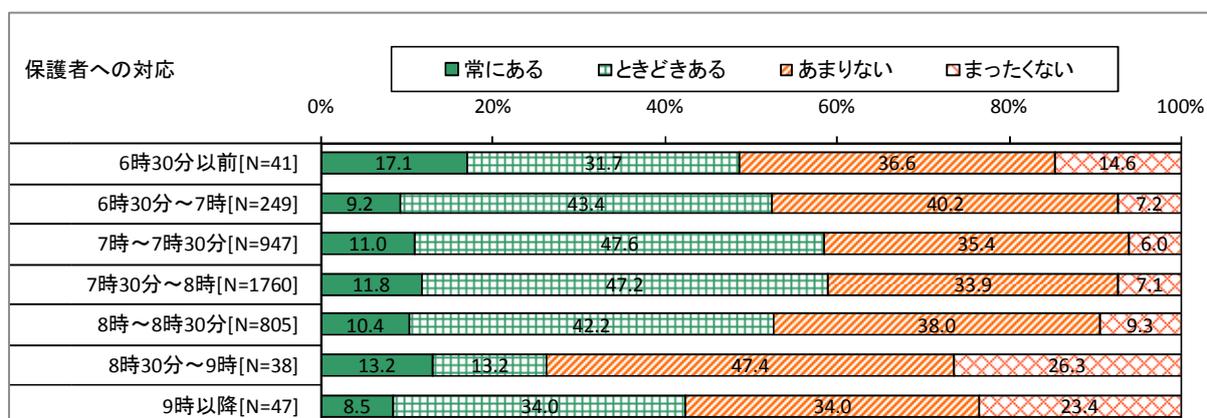
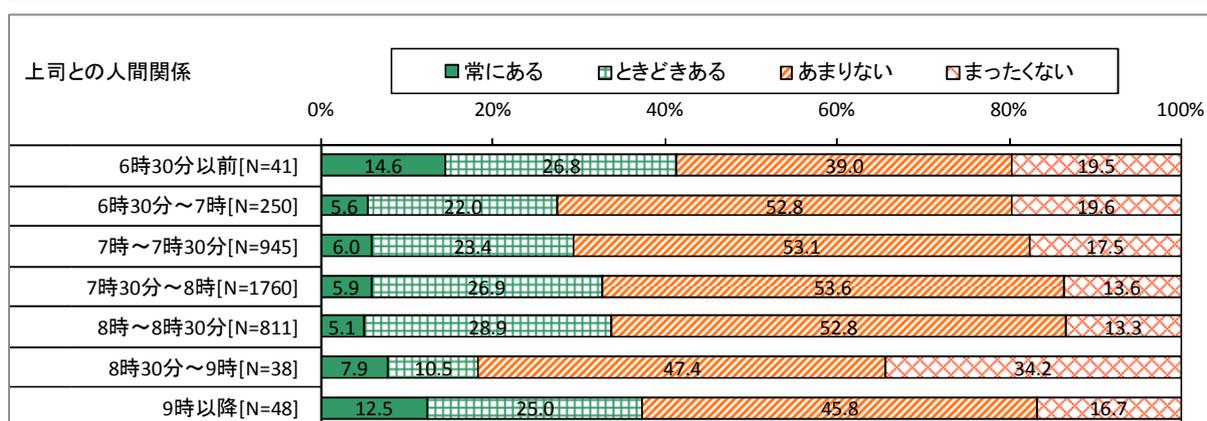
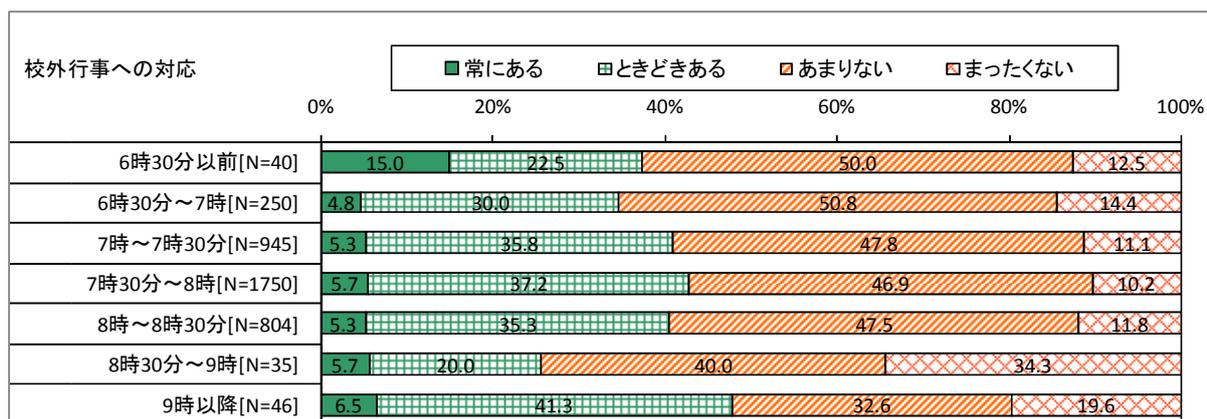
(8) 平均入校時間別

【結果概要】

- 全ての事項について、平均入校時間による有意差が見られる。
- 「事務的な仕事」「上司との人間関係」に強いストレスを感じる割合は、平均入校時間 6 時 30 分以前がもっとも多い。
- 「部活動指導」に強いストレスを感じる割合は、平均入校時間 7 時～7 時 30 分がもっとも多い。
- 「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、平均入校時間 7 時 30 分～8 時がもっとも多い。
- 「業務の質」「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、平均入校時間 8 時～8 時 30 分がもっとも多い。
- 「学習指導」「生徒指導」「同僚との人間関係」「校外行事への対応」に強いストレスを感じる割合は、平均入校時間 9 時以降がもっとも多い。



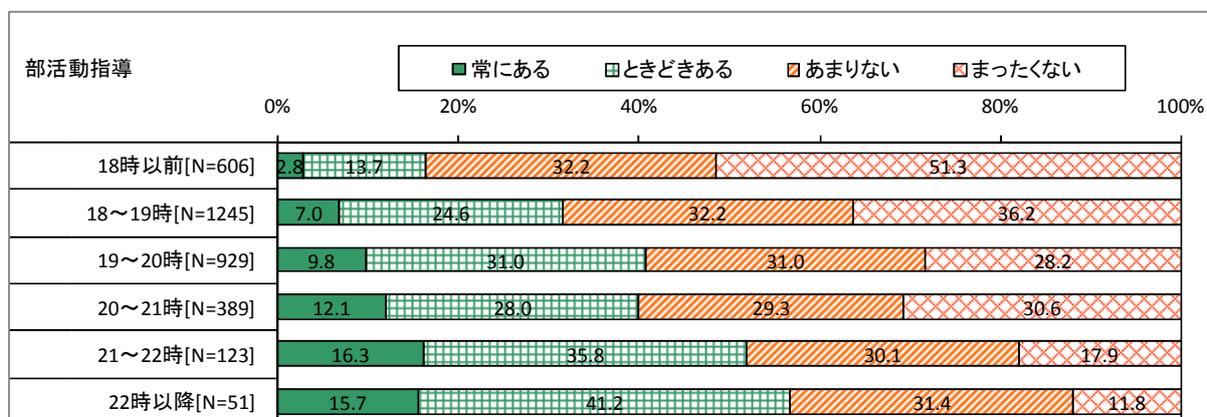
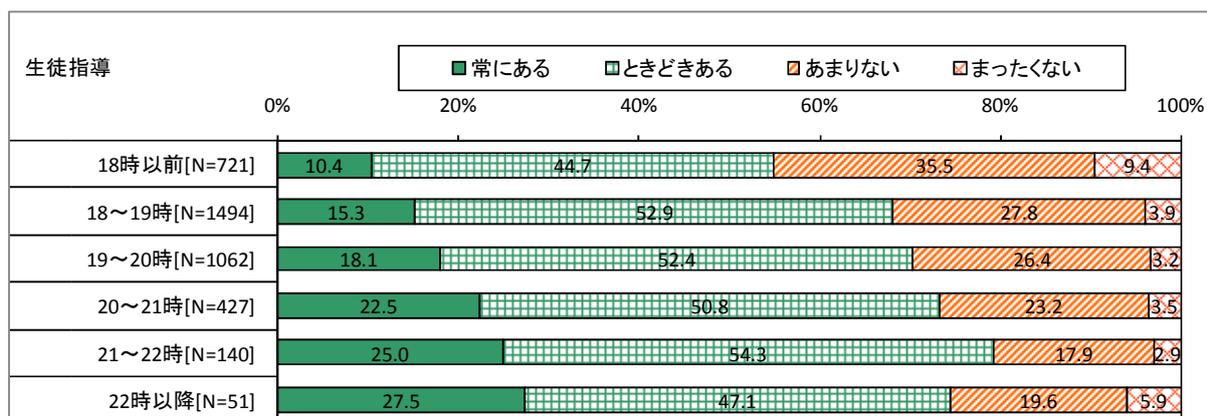
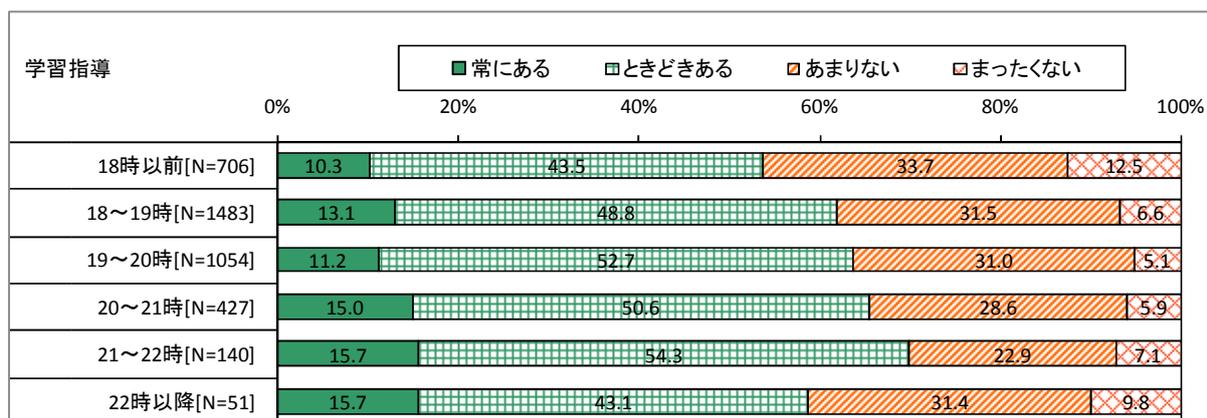


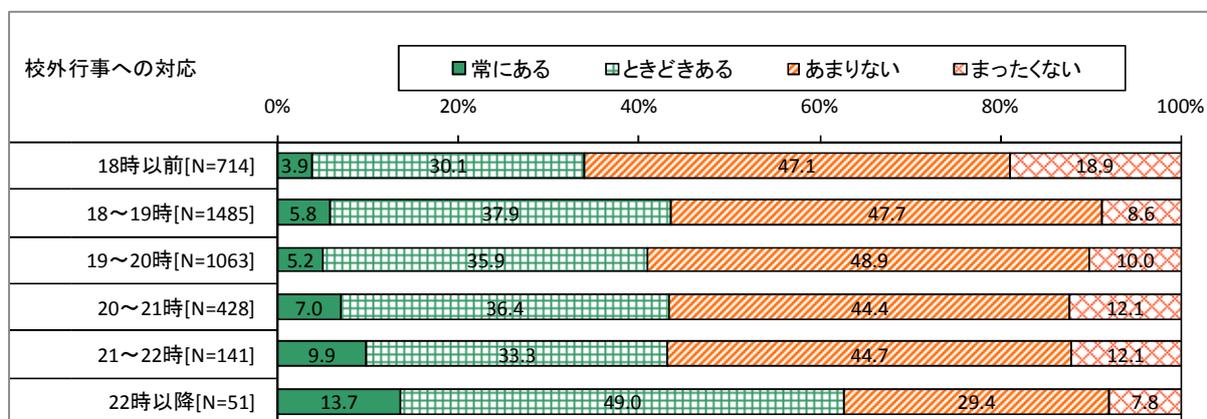
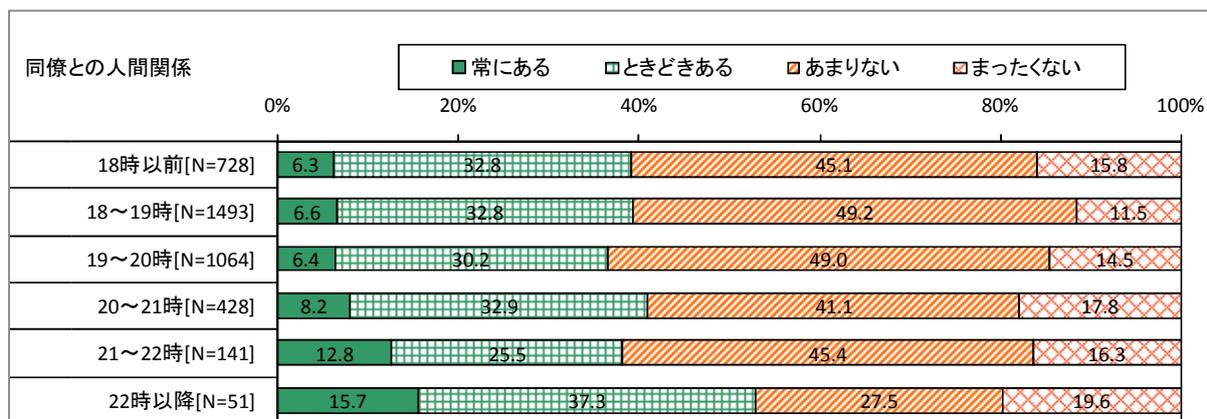
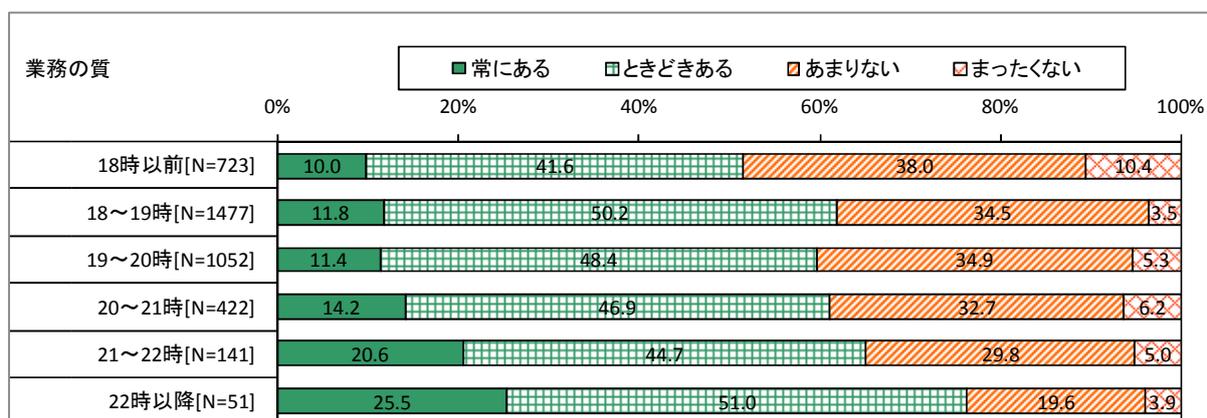
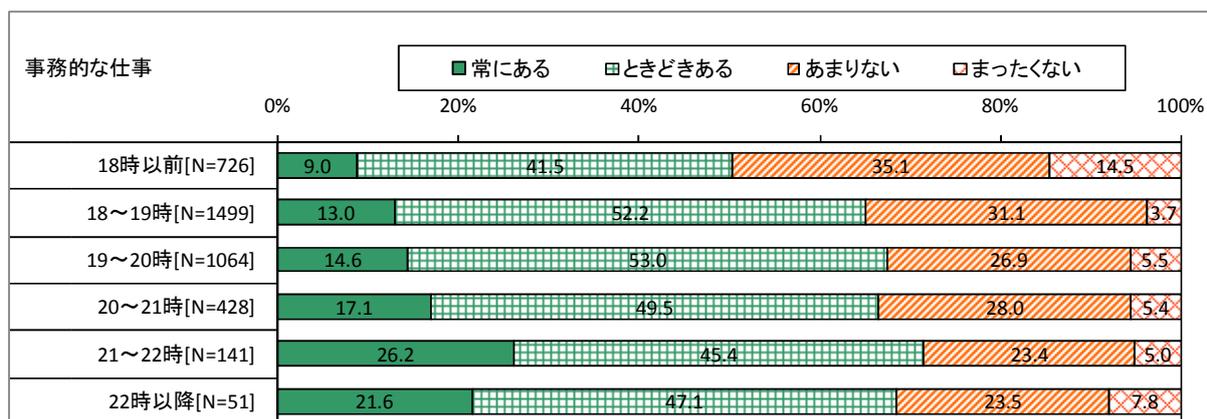


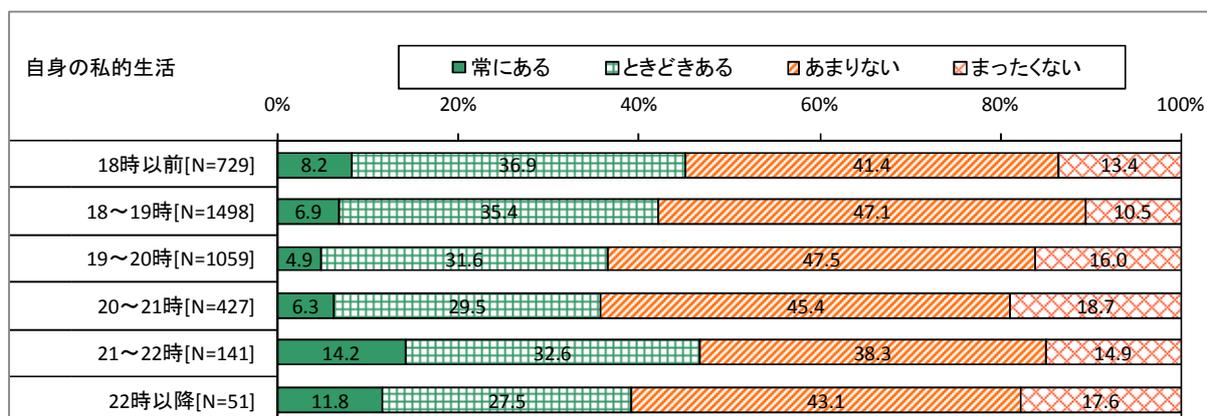
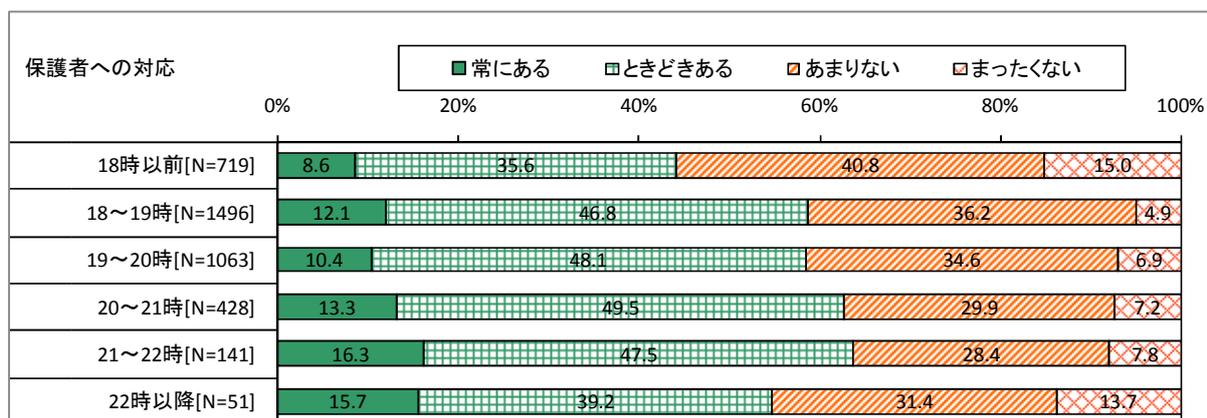
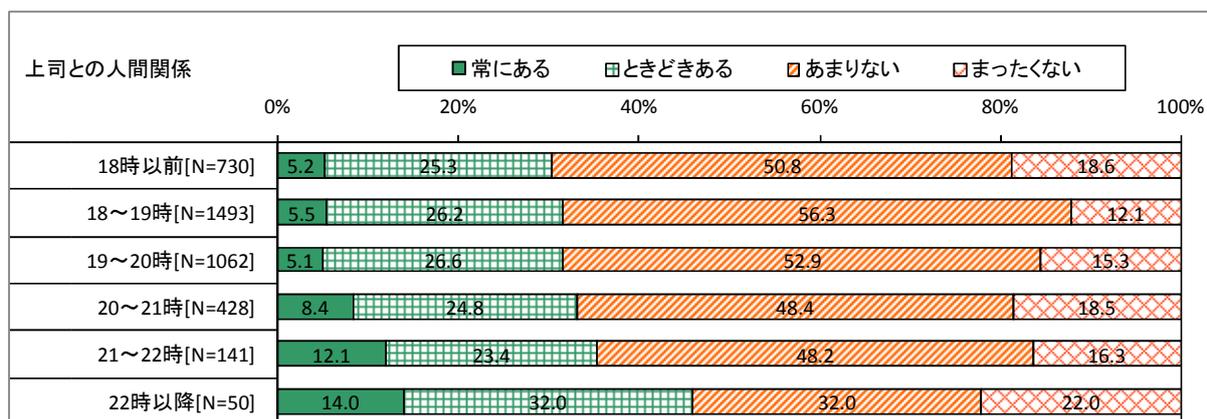
(9) 平均退校時間別

【結果概要】

- 全ての事項について、平均退校時間による有意差が見られる。
- 「学習指導」「生徒指導」「部活動指導」「事務的な仕事」「業務の質」「同僚との人間関係」「校外行事への対応」「上司との人間関係」「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、全体的に平均退校時間が遅いほど多い傾向が見られる。
- 「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、平均退校時間 21 時～21 時 30 分がもっとも多く、20 時～21 時がもっとも少ない。







2. 多変量解析結果(ストレス状況に影響を与える要因)

(0) 方法

- 調査対象のストレス状況 (Q1-1) の回答より、総合的なストレス得点を算出
(各項目につき標準得点を算出し、全項目の標準得点を合算。得点が高いほどストレスが強い。)
- ストレス得点を従属変数、フェイス項目、ストレス軽減方法、職場の雰囲気、教職員としての理想像に関する主要項目を説明変数として、多変量解析(回帰分析)を実施(他の変数をコントロールしてもなお有意に影響を与える要因を抽出)
- 解析結果を表形式で整理(有意にストレスを弱めている変数は青色、強めている変数は赤色)

(1) 結果一覧

【結果概要】

- ストレスを有意に強める変数は、「教諭・助教諭・講師」「保健主事」「平均退校時間（が遅い）」「同僚とのストレスについての相談（頻度が高い）」「上司とのストレスについての相談（頻度が高い）」「医療機関とのストレスについての相談（頻度が高い）」「好物を飲食してストレス解消」の7つ。（ストレスについての相談（頻度）は、逆のベクトルの可能性あり）
- ストレスを有意に弱める変数は、「職場を離れての同僚・先輩とのコミュニケーション（の頻度が高い）」「上司との相談しやすさ」「教職員としての理想の強さ」の3つ。

説明変数		ストレス得点		
		B	β	有意確率
フェイス項目	小規模校ダミー	-.323	-.023	.536
	中規模校ダミー	.558	.043	.231
	小学校ダミー	.356	.028	.663
	中学校ダミー	.566	.041	.507
	高校ダミー	-.377	-.028	.658
	年齢	.072	.121	.155
	男性ダミー	.170	.014	.706
	現任校在籍年数	.126	.056	.087
	教職経験年数	.026	.047	.569
	これまでの勤務校数	-.155	-.068	.074
	主幹教諭ダミー	-.662	-.021	.601
	指導教諭ダミー	1.202	.020	.530
	教諭・助教諭・講師ダミー	1.720	.107	.029
	学級担任ダミー	.258	.021	.573
	総務ダミー	1.142	.051	.209
	教務ダミー	-.434	-.032	.567
	進路指導ダミー	-.641	-.034	.493
	生徒指導ダミー	-.370	-.028	.611
	保健ダミー	-.589	-.037	.505
	教務主任ダミー	.241	.011	.778
	学年主任ダミー	.210	.012	.716
	保健主事ダミー	2.647	.098	.005
	生徒指導主事ダミー	1.066	.043	.213
	進路指導主事ダミー	2.305	.073	.050
	学科主任ダミー	.958	.043	.170
	その他の主任ダミー	.651	.036	.262
	平均入校時間	-.210	-.034	.310
	平均退校時間	.657	.117	.001
ストレスについての相談	同僚	.854	.123	.005
	上司	1.407	.202	.000
	家族	.201	.032	.321
	同業種の友人	.442	.068	.075
	異業種の友人	.135	.020	.574
	医療機関	.951	.089	.007
	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー 教育委員会等が設置する相談窓口	-.133 .321	-.011 .011	.753 .741
ストレス解消方法	休養をとりよくねむる	.095	.007	.813
	趣味としていることをする	.261	.021	.494
	親しい人と話をする	-.725	-.059	.090
	旅行・娯楽を楽しむ	-.519	-.042	.184
	好物を飲食する	.839	.068	.029
職場の雰囲気	職場内の雰囲気（明るさ）	-.817	-.083	.062
	教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気	-.724	-.090	.055
	職場におけるコミュニケーション	.097	.010	.827
	職場を離れての同僚・先輩とのコミュニケーション	-1.215	-.170	.000
	職場の同僚・先輩との相談しやすさ	-.544	-.069	.137
	職場外の同僚・先輩との相談しやすさ	-.412	-.056	.116
	上司との相談しやすさ	-1.817	-.263	.000
	上司からの仕事のサポートの得やすさ	-.369	-.048	.340
	日頃からの上司との会話	.368	.059	.142
	上司からの健康への配慮	-.002	.000	.995
	職場で仕事のノウハウや情報を共有する雰囲気	.426	.052	.263
職場で業務の効率化などの改善を図る動き	-.360	-.046	.279	
定時退校日や部活動休養日などの設定	-.203	-.017	.615	
その他	教職員としての理想の強さ	-1.550	-.139	.000
定数		4.528		.120

決定係数 $R^2=0.35$ 、調整済み $R^2=0.30$

4. 事務職員等

1. クロス分析結果(属性別ストレス状況)

(0) 方法

- ストレス状況 (Q1-1) に関する各設問項目について、主要なフェイス項目別に集計
- 統計的に有意な差 (5%水準) が見られた結果を抽出

(1) 学校規模別

【結果概要】

- いずれの事項についても、学校規模による有意差は見られない。

(2) 学校種別

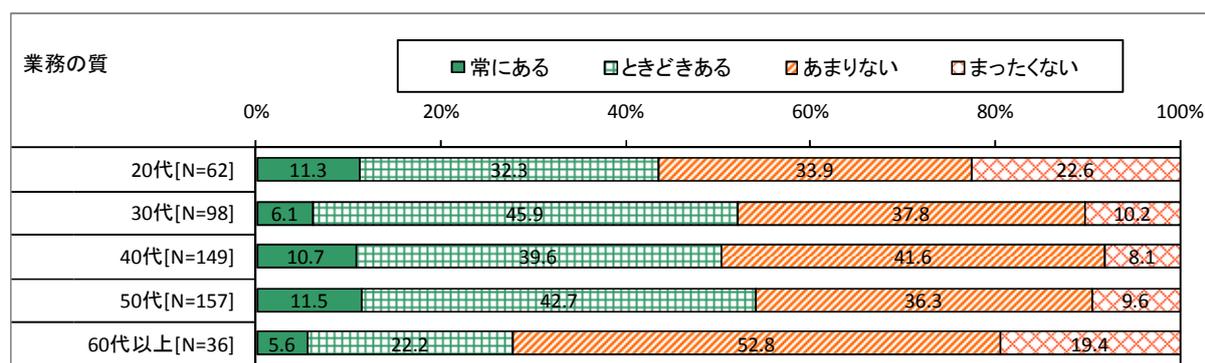
【結果概要】

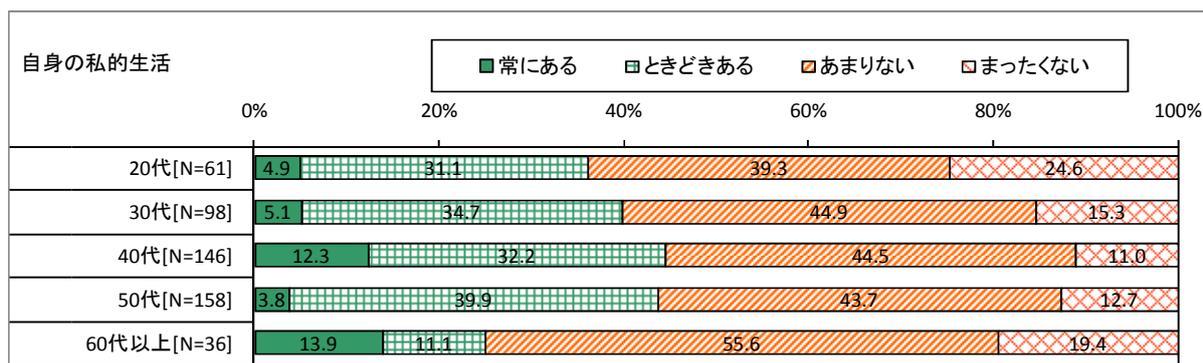
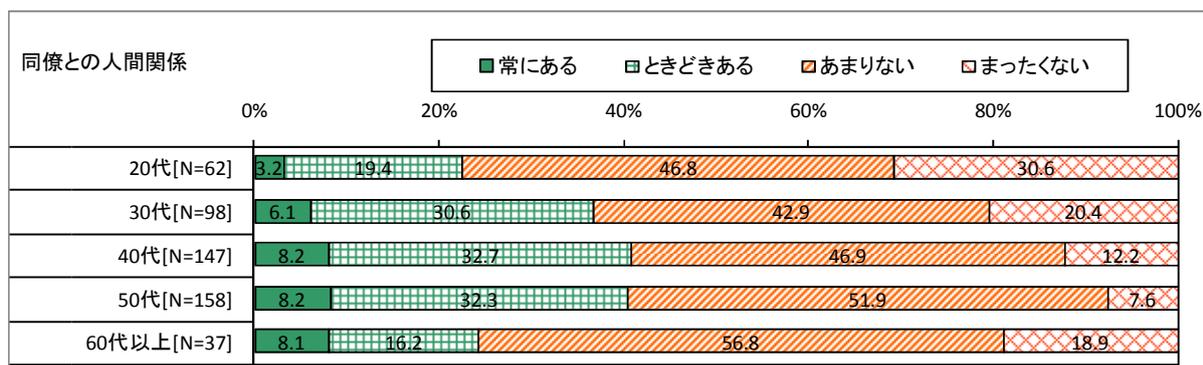
- いずれの事項についても、学校種による有意差は見られない。

(3) 年代別

【結果概要】

- 「業務の質」に強いストレスを感じる割合は、50代がもっとも多く、60代以上がもっとも少ない。
- 「同僚との人間関係」「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、40代をピークに年代が低い/高いほど少ない傾向が見られる。
- その他の事項については、年代による有意差は見られない。

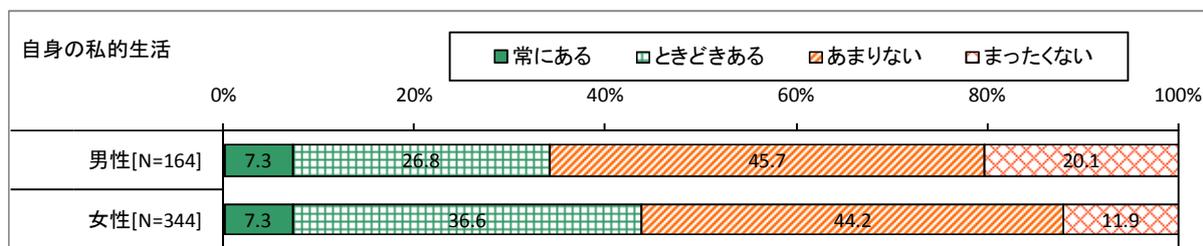
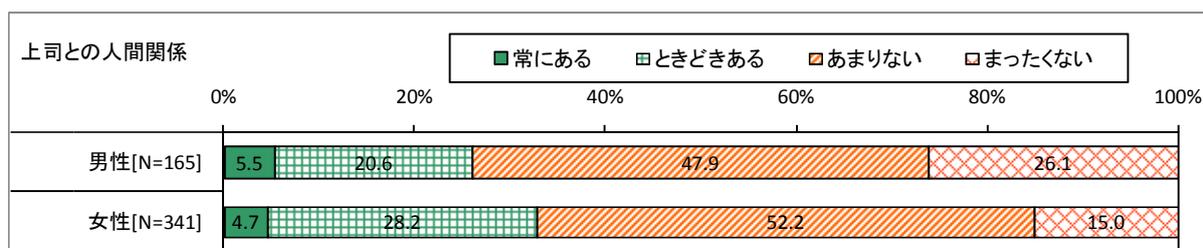




(4) 男女別

【結果概要】

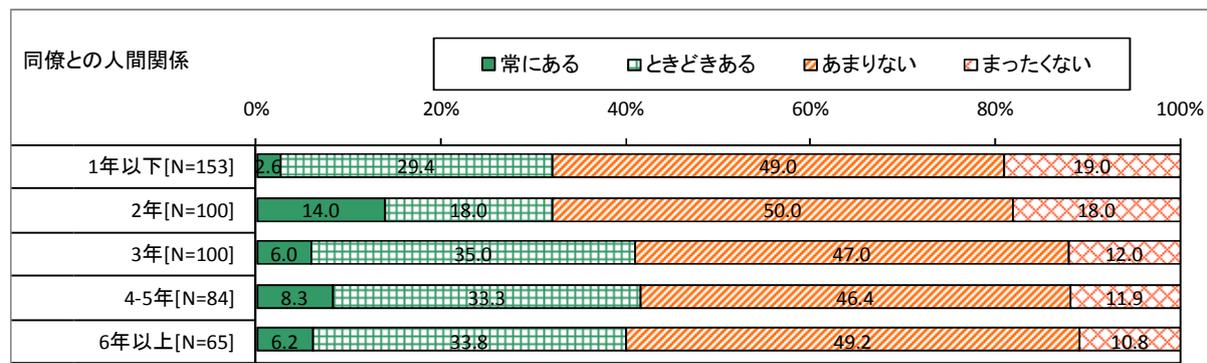
- 「上司との人間関係」「自身の私生活」に強いストレスを感じる割合は、女性の方が男性より多い。
- その他の事項については、性別による有意差は見られない。



(5) 現任校在籍年数別

【結果概要】

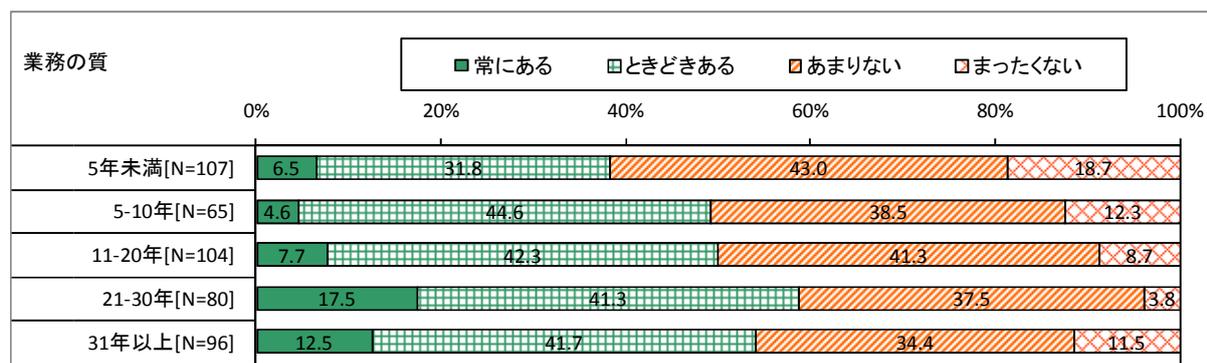
- 「同僚との人間関係」に強いストレスを感じる割合は、現任校在籍年数3年以上が2年以下より多い。
- その他の事項については、現任校在籍年数による有意差は見られない。

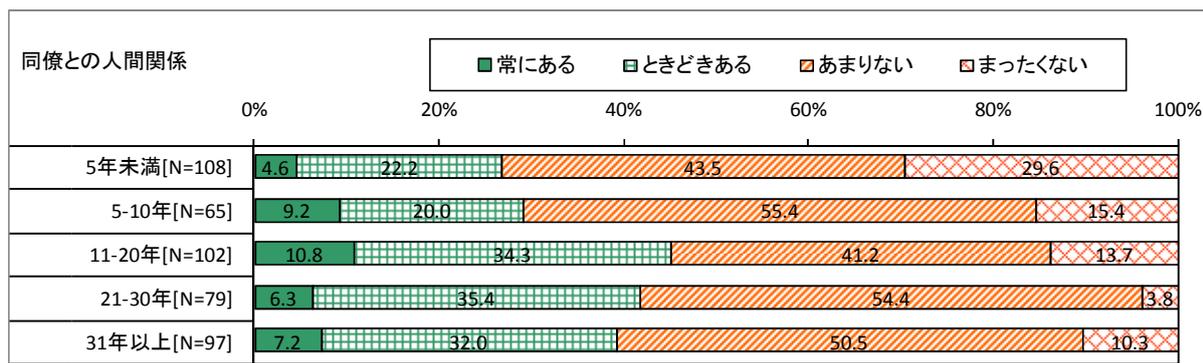
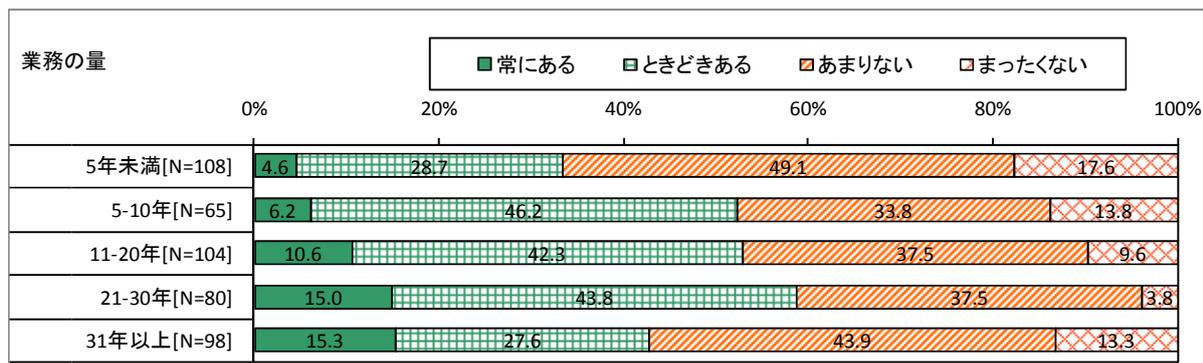


(6) 在職年数別

【結果概要】

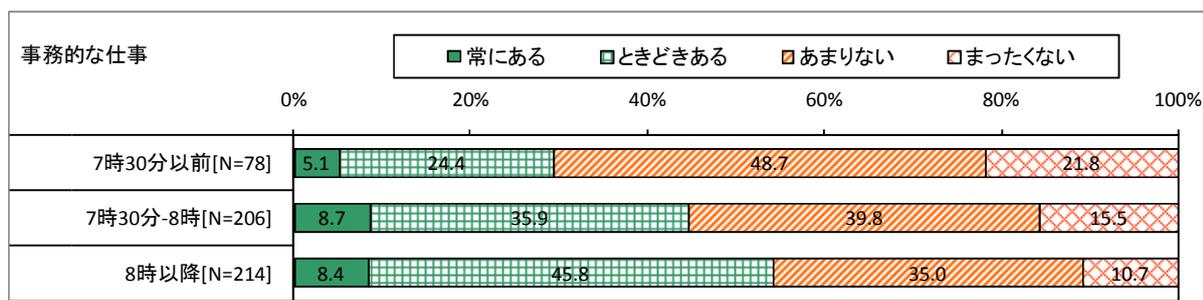
- 「業務の質」「業務の量」に強いストレスを感じる割合は、在職年数31年以上を除いて、年数が長いほど多い傾向が見られる。
- 「同僚との人間関係」に強いストレスを感じる割合は、在職年数11-20年をピークに年数が短い/長いほど少ない傾向が見られる。
- その他の事項については、在職年数による有意差は見られない。





(7) 平均入校時間別

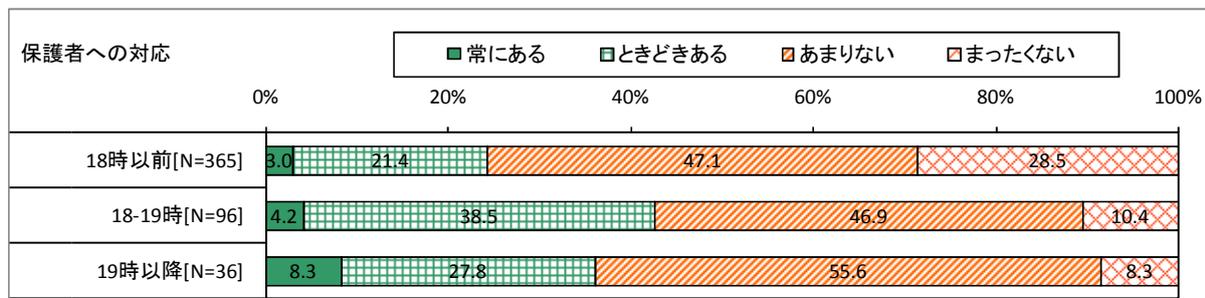
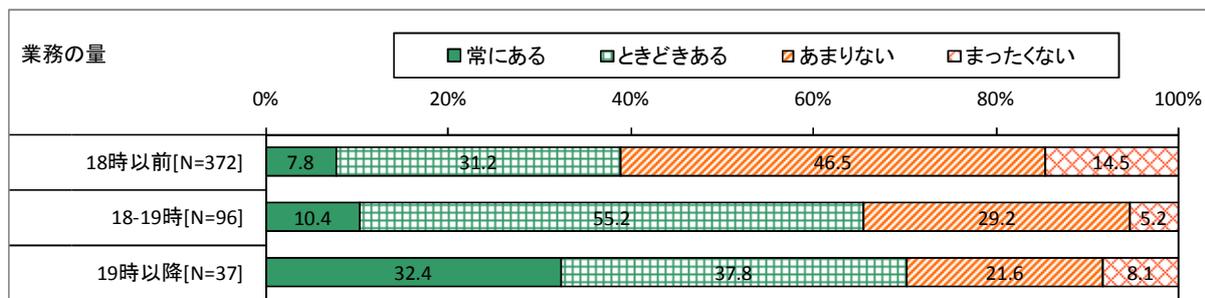
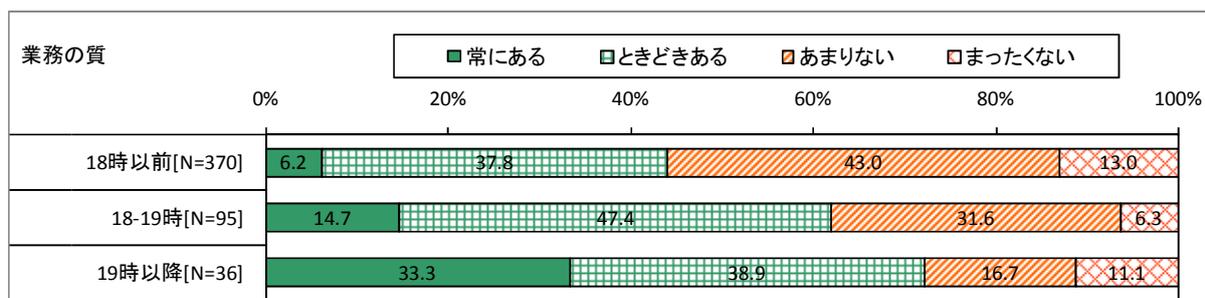
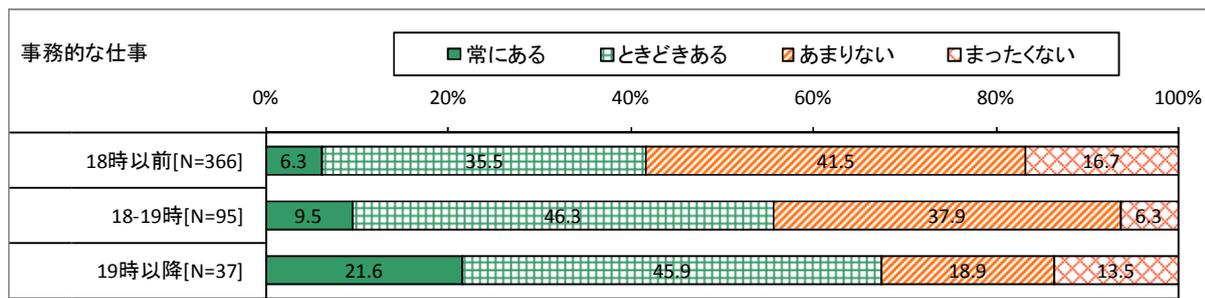
- 【結果概要】**
- 「事務的な仕事」に強いストレスを感じる割合は、平均入校時間が遅いほど多い傾向が見られる。
 - その他の事項については、平均入校時間による有意差は見られない。



(8) 平均退校時間別

【結果概要】

- 「事務的な仕事」「業務の質」「業務の量」に強いストレスを感じる割合は、平均退校時間が遅いほど多い傾向が見られる。
- 「保護者への対応」に強いストレスを感じる割合は、平均退校時間 18-19 時がもっとも多く、18 時以前がもっとも少ない。
- その他の事項については、平均退校時間による有意差は見られない。



2. 多変量解析結果(ストレス状況に影響を与える要因)

(0) 方法

- 調査対象のストレス状況 (Q1-1) の回答より、総合的なストレス得点を算出
(各項目につき標準得点を算出し、全項目の標準得点を合算。得点が高いほどストレスが強い。)
- ストレス得点を従属変数、フェイス項目、ストレス軽減方法、職場の雰囲気、教職員としての理想像に関する主要項目を説明変数として、多変量解析(回帰分析)を実施(他の変数をコントロールしてもなお有意に影響を与える要因を抽出)
- 解析結果を表形式で整理(有意にストレスを弱めている変数は青色、強めている変数は赤色)

(1) 結果表

【結果概要】	
<ul style="list-style-type: none"> ストレスを有意に強める変数は、「事務職員」「平均退校時間(が遅い)」「上司とのストレスについての相談(頻度が高い)」の3つ。(ストレスについての相談(頻度)は、逆のベクトルの可能性あり) ストレスを有意に弱める変数は、「上司との相談しやすさ」の1つ。 	

説明変数		ストレス得点		
		B	β	有意確率
フェイス項目	小規模校ダミー	-.534	-.052	.365
	中規模校ダミー	.289	.028	.625
	小学校ダミー	-1.457	-.150	.129
	中学校ダミー	-.810	-.067	.445
	高校ダミー	-1.609	-.134	.109
	年齢	-.009	-.022	.778
	男性ダミー	-.851	-.083	.111
	現任校在籍年数	.095	.064	.196
	教職経験年数	.017	.045	.569
	これまでの勤務校数	.129	.086	.150
	事務職員ダミー	2.289	.231	.000
	学校栄養職員ダミー	1.862	.093	.068
	平均入校時間	.430	.081	.077
	平均退校時間	.678	.113	.027
ストレスについての相談	同僚	.599	.109	.125
	上司	1.941	.331	.000
	家族	.252	.047	.372
	同業種の友人	.312	.061	.299
	異業種の友人	-.527	-.096	.071
	医療機関	.325	.039	.441
	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー 教育委員会等が設置する相談窓口	1.215 .565	.094 .039	.084 .479
ストレス解消方法	休養をとりよくねむる	.376	.038	.415
	趣味としていることをする	.257	.026	.570
	親しい人と話をする	-.846	-.087	.094
	旅行・娯楽を楽しむ	.060	.006	.895
	好物を飲食する	.730	.075	.105
職場の雰囲気	職場内の雰囲気(明るさ)	-.044	-.005	.923
	教職員同士で協力しあって仕事をする雰囲気	-.128	-.018	.776
	職場におけるコミュニケーション	-.891	-.107	.080
	職場を離れての同僚・先輩とのコミュニケーション	-.553	-.098	.072
	同僚との相談しやすさ	-.685	-.109	.099
	職場の先輩との相談しやすさ	-.551	-.090	.208
	上司との相談しやすさ	-1.074	-.180	.014
	上司からの仕事のサポートの得やすさ	-.377	-.054	.399
	日頃からの上司との会話	-.333	-.053	.353
	上司からの健康への配慮	-.623	-.089	.126
	職場で仕事のノウハウや情報を共有する雰囲気	.263	.037	.569
	職場で業務の効率化などの改善を図る動き	.214	.031	.623
定時退校日や部活動休養日などの設定	-.344	-.035	.441	
その他	教職員としての理想の強さ	-.064	-.008	.870
定数		2.420		.412

決定係数 $R^2=0.44$ 、調整済み $R^2=0.36$

2. 都道府県・指定都市教育委員会用アンケート結果

1. 平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者に関する以下の項目を記入してください。(カッコ内は女性の数(内数))

①精神疾患を理由とした病気休職者数

平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者数	3,143 人	(1,621 人)
-----------------------------------	---------	------------

②平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者の内訳(年代別)

10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代以上	合計
0 人	304 人	703 人	925 人	1,173 人	38 人	3,143 人
(0 人)	(233 人)	(437 人)	(462 人)	(480 人)	(9 人)	(1,621 人)

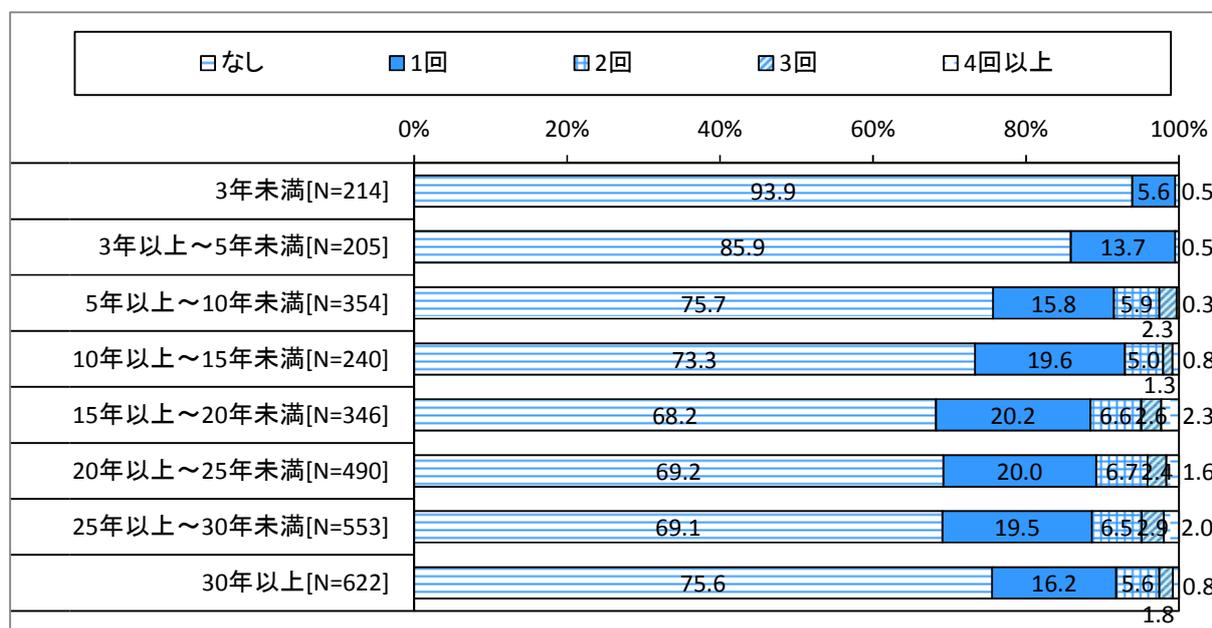
③平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者数の内訳(職種別)

校長	副校長等	主幹教諭等	教諭等	養護教諭等	その他	合計
15 人	67 人	37 人	2,727 人	70 人	227 人	3,143 人
(0 人)	(4 人)	(10 人)	(1,420 人)	(70 人)	(117 人)	(1,621 人)

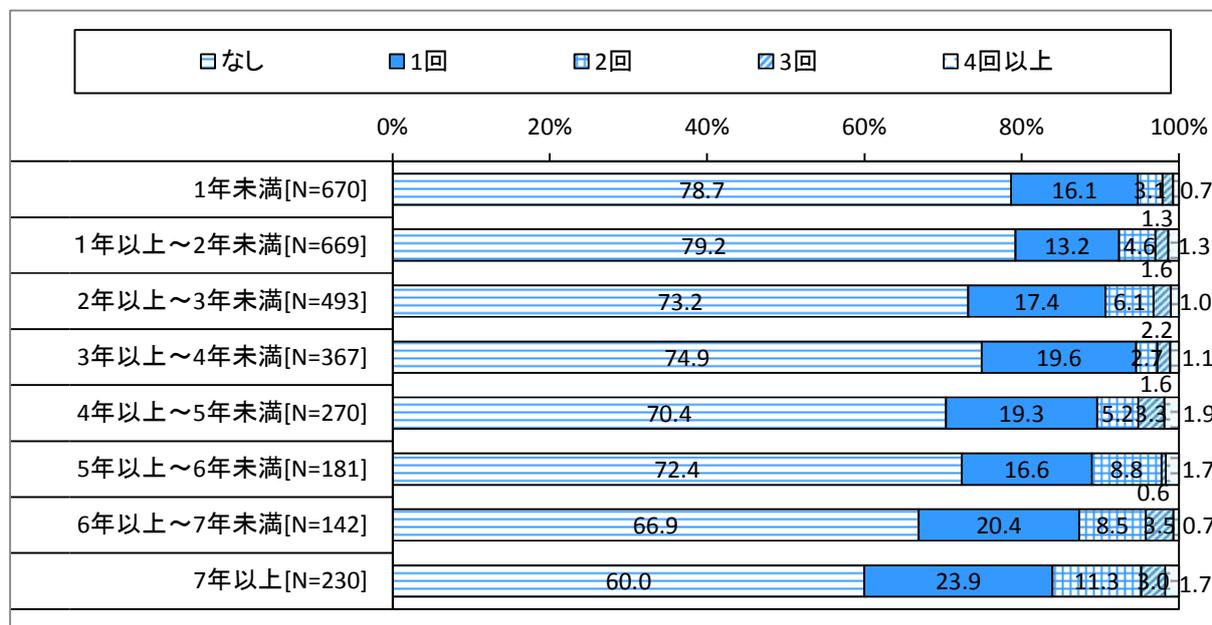
④平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者数の内訳(学校種別)

小学校	中学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	合計
1,468 人	878 人	482 人	3 人	312 人	3,143 人
(896 人)	(374 人)	(194 人)	(3 人)	(154 人)	(1,621 人)

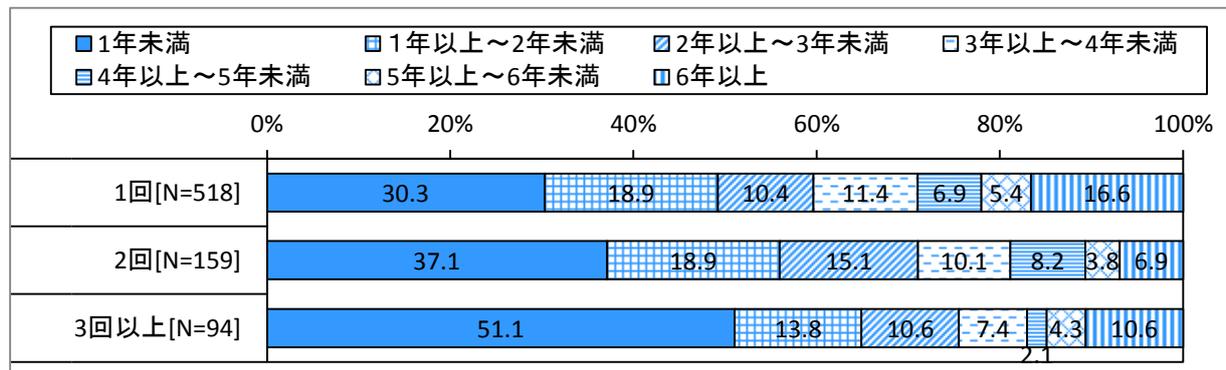
2. 平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者に関して、今回の休職発令時点の勤務満年数と精神疾患を理由とした過去の病気休職の回数について、人数を記載してください。



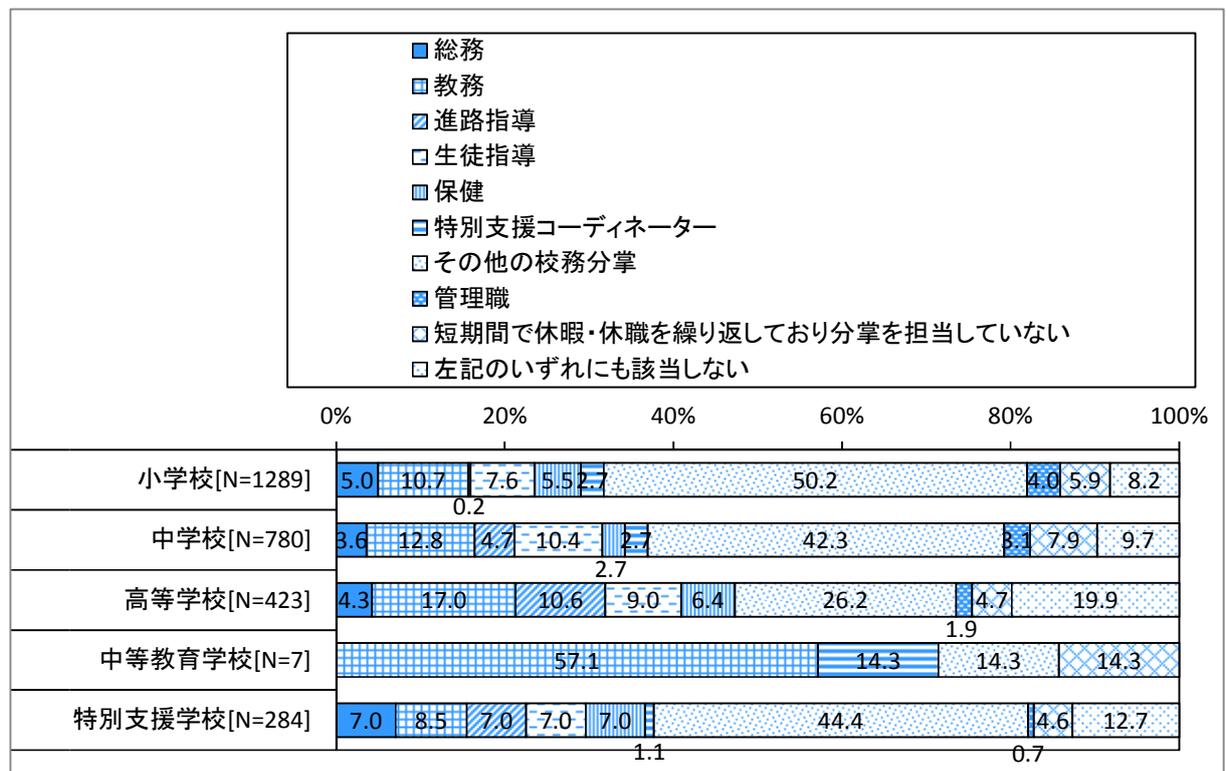
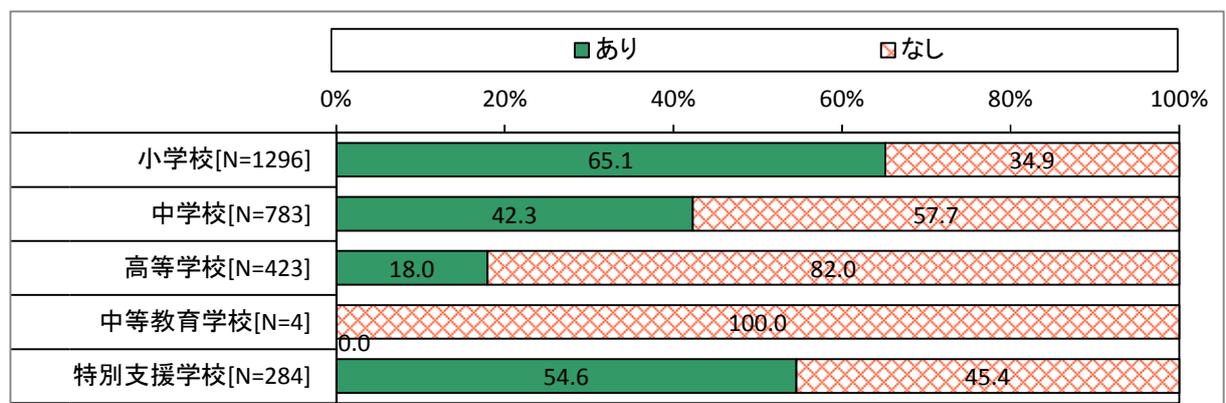
3. 平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者に関して、今回の休職発令時点の現任校における勤務満年数と精神疾患を理由とした過去の病気休職の回数について、人数を記載してください。



4. 平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者に関して、前回の精神疾患を理由とした病気休職終了後から今回の精神疾患を理由とした病気休職発令時までの期間と過去の精神疾患を理由とした病気休職の回数について、人数を記載してください。



5. 平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者に関して、学級担任の有無と休職発令時に担当していた校務分掌を学校種別に人数を記載してください。



6. 平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者に関して、当該教員が所属している学校の児童生徒の問題行動等の状況と貴都道府県全体の児童生徒の問題行動等の状況について記載してください。

		(A)の教職員が所属する学校数(B)	(B)のうち(平成23年度)			貴都道府県全体(平成23年度)				
			暴力行為の発生学校数	いじめを認知した学校数	不登校児童生徒の在籍学校数	学校数(C)	(C)のうち			
							暴力行為の発生学校数	いじめを認知した学校数	不登校児童生徒の在籍学校数	
学校種	小学校	平均出現率 20校 -	3校 11.7%	7校 32.8%	10校 50.9%	349校 -	35校 9.8%	110校 31.7%	152校 43.6%	
	中学校	平均出現率 12校 -	6校 52.0%	7校 57.4%	10校 84.8%	164校 -	83校 49.5%	88校 53.5%	142校 86.1%	
	高等学校	平均出現率 7校 -	4校 53.2%	3校 34.0%	6校 81.3%	66校 -	43校 63.3%	29校 43.0%	57校 79.3%	
	特別支援学校	平均出現率 4校 -	0校 4.6%	1校 11.4%	1校 10.5%	17校 -	2校 4.0%	3校 14.0%	4校 8.3%	

7. 平成23年度中に新規に休職発令した精神疾患を理由とした病気休職者に関して、休職発令時点における当該教職員の所属校の1学年あたりの学級数(平成23年5月1日時点)ごとに人数を記載してください。

